

早稲田大学

SCHOOL OF FUNDAMENTAL SCIENCE AND ENGINEERING, WASEDA UNIVERSITY

基幹理工学部要項

2022



基幹理工学部「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」

早稲田大学理工学部の伝統は理と工の一体化による先端研究とそれに基づく教育を行うことにあった。基幹理工学部では、その定評ある伝統を継承し、数理科学等の「理」と基礎工学等の「工」の基礎をまずしっかり学ぶ。その上で、数学と応用数理、情報と通信の科学と技術、機械の科学と航空宇宙、電子の物理と技術、アートと科学の融合等の専門分野の教育を行う。ここでは、充実した講義・演習・実験等により専門に精通させていくとともに、先端研究を行う教員や研究員がプロジェクト研究等へ学生を誘い、「研究の楽しさに触れて学ぶ」伝統を実践する。一年次を学部一括教育の期間とし、学部共通基礎を深く学ぶと同時に、各専門分野に一年間触れて将来の進路を見極める時間が用意されていることが特徴である。数理科学や工学の基礎と専門科目をともにしっかり学ばせることにより、新しい時代を切り開く自在の能力を持つ学生の育成を目的とする。また、人文・社会科学的な素養も併せ持たせて、持続可能な社会構築など科学者として人類に貢献する視点の形成も行う。

基幹理工学部の方針

ディプロマ・ポリシー〈時代を切り拓く人材の育成〉

早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。

さらに現代社会においては、科学技術に関する広い知識と、人文・社会科学系の知識を含む幅広い教養を備え、将来への洞察力を持って時代を切り拓く人材の育成が求められている。また新しい時代の科学技術を確立するとともに、学問の枠組み・意味さらには学問とその活用との関係を再構築することが時代の大きな要請となっている。

基幹理工学部では社会を支えるキー・テクノロジーである情報、機械、エレクトロニクス、物質・材料、エネルギーに関する基礎的科学技術とその根幹にある数学、および両者の架け橋となる応用数理を軸とする教育研究を展開する。そして、幅広い教養の上に理工学の基礎を修得し、これをもとに各専門分野や新しい学問領域に取り組む能力を涵養し、時代を切り拓き世界で活躍できる人材の育成を目指す。

カリキュラム・ポリシー〈学部・大学院の一貫教育〉

基幹理工学部では、所属する7学科を数学系、工学系、メディア系に分類した学系別入試を採用している。1年次の学生は学科に属さず、週1コマの学系別授業を除けば学部共通のカリキュラムにより、理工系の幅広い基礎をしっかりと修得するとともに、将来どのような分野に進むべきかについて時間をかけて考えることができる。1年次のカリキュラムは複合領域科目、外国語科目（A群科目）、数学、自然科学、実験・実習・制作、情報関連科目（B群科目）および学系別のC群専門科目により構成される。

一定の条件を満たした1年次の学生は、2年次から数学科、応用数理学科、情報理工学科、情報通信学科、機械科学・航空宇宙学科、電子物理システム学科、表現工学科のうちの1学科に進級する。進級の際には、進級希望学科に応ずる振り分けが実施され、進級先の学科が決定される。2年次カリキュラムにおいては各学科必修科目の比率が高くなり、専門科目の履修が本格的に始まる。3、4年次では、受身的な学習から一転して能動的な学習が中心となる。各学科ともに基本と応用を学びながら課題に取り組み、問題解決の能力を身に付けることができるカリキュラム体系となっている。

アドミッション・ポリシー〈基幹理工学部の求める人材〉

近年、科学技術の領域は飛躍的に大きな広がり呈し、それに対応してそれぞれの領域は分化・深化してきた。大学における教育研究体制もこれに呼応した形で発展してきた。しかしながら、専門分野の発展と同時に、新しい価値観の創造、新しい科学技術分野あるいは学問分野の開拓が強く求められる時代を迎えた。これに伴い、地球規模で考え行動し、新しい時代を切り拓く人材を育成する教育研究の展開が求められることとなった。

基幹理工学部は、科学技術の根幹をなす数学をはじめとする理工系の素養と共に人文・社会学系の素養を身に付け、その上で科学技術の基幹を担う数学・応用数理、機械科学、航空宇宙工学、材料科学、電子物理システム学、情報理工学、情報通信学、表現工学などの基本を学習し、新しい分野に創造的に取り組む意欲と能力を備えた人材を求める。高等学校等における学習によって、確かな基礎学力（知識・技能・思考力・判断力・表現力）、および主体的に学ぶ姿勢を身につけた者を受け入れることを基本方針とする。

2022年度 基幹理工学部要項

早稲田大学
基幹理工学部

この要項は、学業を進めていくうえで必要不可欠な基本的事項を収録したものであり、卒業時まで使用するので紛失しないように十分に注意すること。

履修や学生生活に必要な情報はほぼ網羅されているので、日常的に確認し、わからないことがある場合にはこの要項をよく読むこと。

なお、本学では Web サイトを開設し、インターネットを通じた情報発信を行っている。

この要項の内容が変更になった場合には、インターネットを通じて周知する。

アクセス方法は次ページの通りなので、必ず常時確認すること。

MyWaseda / Waseda メール

早稲田大学の学生・教職員・校友が共通して利用する基盤システムで、この MyWaseda にログインすることにより、利用者の資格、属性に応じたサービスや情報が得られる（授業の科目登録、試験、レポート、履修などに関することや、講演会やセミナー、シンポジウム、公開行事の案内など）。Waseda メールは Web ブラウザがあれば、どこでも利用できる Web メールサービスである。在学中に利用していたメールアドレスは卒業後も使用できる。

<https://my.waseda.jp/>



MyWaseda トップページ

授業支援システム「Waseda Moodle」

「Waseda Moodle」は講義資料のダウンロード機能や小テスト機能などを備えた授業サポートツールである。MyWaseda にログインし、左側サービスメニュー「授業支援」を選択して利用する。

理工学術院 Web サイト

理工学術院から発信される各種情報を掲載している。「在学生の方へ」のページでは科目登録情報や奨学金情報など重要な情報が随時更新される。また、入試に関する情報も本 Web サイトに掲載される。

<https://www.waseda.jp/fsci/>

基幹理工学部 Web サイト

<https://www.fse.sci.waseda.ac.jp/>

※要項の内容は変更になることがあるので、これらの Web サイトを常に確認すること。特に、事務所の開室時間は変更となる可能性があるため、最新情報は各事務所の Web サイトを確認すること。

CONTENTS

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

I	基幹理工学部の特徴	1
---	-----------	---

II	基幹理工学部の沿革と概要	3
----	--------------	---

III	基幹理工学部要項	11
-----	----------	----

1	単位制	11
2	学位・卒業	11
3	進級制度	11
4	理工学術院内 転部・転科試験	12
5	学費の納入と抹籍	12
6	学科目の系列	14
7	複合領域科目，外国語科目（A 群科目）	23
8	数学，自然科学，実験・実習・制作，情報関連科目（B 群科目）	40
9	専門教育科目，基幹共通科目（C 群科目）	45
10	学科別 C 群科目配当表および学修案内	47
	数学科	47
	応用数理学科	51
	機械科学・航空宇宙学科	55
	電子物理システム学科	59
	情報理工学科	63
	情報通信学科	68
	表現工学科	73
11	保健体育・自主挑戦科目（D 群科目）	77
12	他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講	79
13	教員免許状取得方法	83
14	履修科目の登録	94
15	授業時間帯	94
16	試験	94
17	レポート・論文作成にあたっての注意事項	95
18	成績の表示	95
19	復学者の履修方法	96
20	科目等履修生（一般科目等履修生・教職課程履修生）	96

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

IV 学生生活 99

1	Support Anywhere	99
2	理工学術院および基幹理工学部 Web サイト	99
3	学籍番号	99
4	クラス担任制度	99
5	学生相談	100
6	大学院への進学	102
7	就職	102
8	学生証	104
9	各種証明書類の交付	104
10	各種異動・変更手続	105
11	奨学金制度	106
12	掲示	107
13	学生の課外活動	109
14	安全管理	109
15	海外留学等	110
16	禁煙キャンパス	112
17	自転車, バイクおよび自動車の通学利用禁止	112
18	図書館（理工学生読書室・理工学図書館）	112
19	コンピュータ・ルーム	114
20	実験施設紹介	115
21	保健センター西早稲田分室	117
22	授業欠席の取り扱いについて	118
23	授業期間中の全学休講の取り扱いについて	120
24	緊急時の通知方法	121

V 付 録 123

1	早稲田大学学則（抜粋）	123
2	早稲田大学校歌	127
3	キャンパスマップ	128
4	時間割作成用紙	130

I

基幹理工学部の特徴

基幹理工学のめざすところ

科学技術の領域は飛躍的な広がり呈し、それに対応して、そのそれぞれの領域は分化・深化してきた。大学における教育研究体制もこれに呼応した形で発展してきた。しかしながら、それぞれの専門分野の一層の発展と同時に、新しい価値観の創造、新しい科学技術分野あるいは学問分野の開拓が強く求められる時代を迎えた。これにともない、改めて地球規模で考え行動し、新しい時代を切り拓く人材を育成する教育研究の展開が求められることとなった。

基幹理工学部は、人文・社会学系の素養の上に科学技術の基幹となる数学をはじめとする理工系の素養を身に付け、その上で現代の科学技術さらには新たに展開される次世代の社会を支える科学技術の基幹を担う数理学、機械科学、材料科学、電子物理学、情報工学、情報通信学、表現工学等の基本を学習し、新しい分野に創造的に取り組む能力を備えた人材の育成を基本理念とする。

新しい時代の科学技術

文明の潮流に科学技術が大きなかかわりをもって久しい。そして、科学技術は種々の意味で人類の可能性を大きく広げると同時に、豊かな社会の実現に大きく貢献してきた。しかしながら、その反動として地球環境問題をはじめとする負の遺産に直面することにもなった。この結果、科学技術はこの課題を背負いつつ、大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から持続可能な社会の実現に向かって大きく舵をとらなければならない時代を迎えたと言っても過言ではない。

このような状況の中で科学技術に関する幅広い知識と、人文・社会科学系の知識を含む幅広い教養を備え、将来への洞察力をもって新しい時代を切り拓く人材の育成が求められている。

また同時に、学問の枠組み・意味さらには学問とその活用の関係を新しい時代に対応して再構築することが大きな時代の要請となってきた。

本学部は社会を支えるキー・テクノロジーである情報、機械、エレクトロニクス、物質・材料、エネルギー、アートとメディアに関する基礎的科学技術とその根幹にある数学および両者の掛け橋となる応用数理を軸として新たな教育・研究を展開する。そして、幅広い教養の上に理工学の基礎をきちんと修得し、これをもとに各専門分野あるいは新しい学問領域に取り組む能力を涵養し、時代を切り拓き世界で活躍する人材の育成をめざす。

1年で幅広い知識を身に付ける

1年次は学部共通のカリキュラムによって、理工系の幅広い基礎をしっかりと修得することに力点がかけられる。同時に、1年次学生は、自分は将来どのような分野に進むべきかについて時間をかけて考えることになる。

1年次のカリキュラムは複合領域科目、外国語科目（A群科目）、数学、自然科学、実験・実習・制作、情報関連科目（B群科目）および学系別の専門科目（C群）で構成される。2年次に進級する段階で、志望の専門分野に応じ学科を決めることになる。進級の際に、希望学科に応ずる振分けが学系別に実施され、進級先の学科が決まる。3、4年次では、それまでの受身的な学習から一転して、能動的な学習が中心になる。基本と応用を学びながら課題に取り組み、問題解決能力を身に付けていく。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

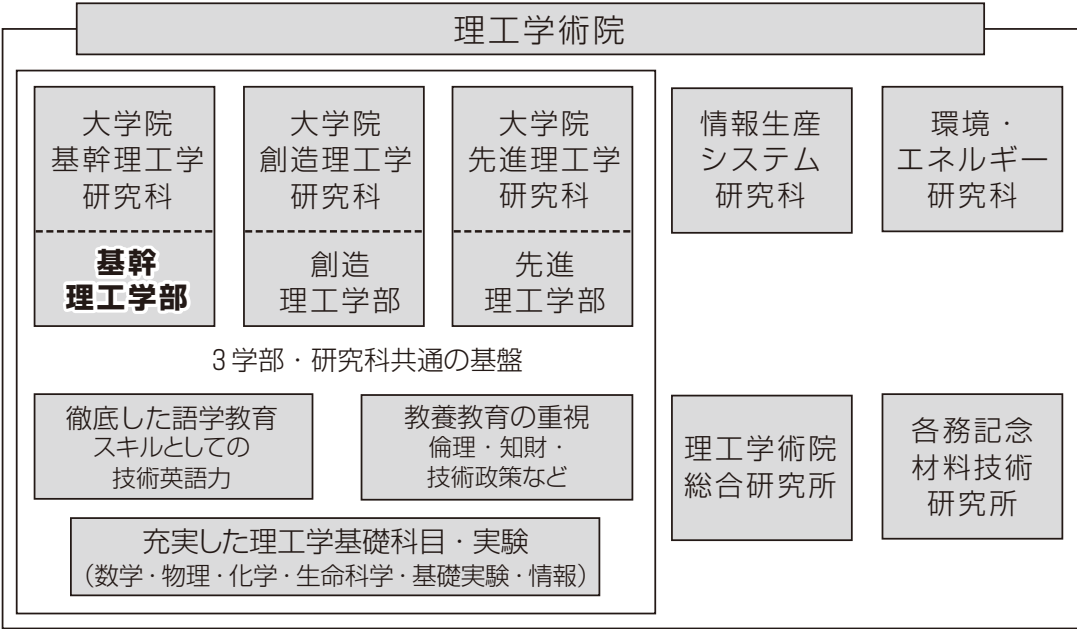
V 付録

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

次世代を担う研究者・科学技術者の育成

基幹理工学部では、学部から大学院（修士課程）への一貫教育体制をとる。基本的には志望する専攻へ進学することが可能である（いくつかの条件は付される）。なお、志望する分野によっては理工学術院内の創造理工学研究科、先進理工学研究科などへの進学も可能である（受け入れ側の了解は必要である）。そして、大学院修士課程における教育研究を通して次世代を担う研究者・科学技術者としてスタートを切ることができる。

〈理工学術院 組織構成〉



II

基幹理工学部の沿革と概要

創立者大隈重信が理工系の人材を養成する必要を痛感して、私学にとって不可能と思われていた理工科の新設を決定したのは明治41年（1908）2月であり、早稲田大学理工学部は我が国の私立大学の理工系学部教育機関としては最も古い歴史を誇っている。明治45年（1912）に第1回卒業生37人を世に送って以来、今日までに多数の人びとが学窓を巣立ち、社会の多方面の分野で活躍してきた。

以下は本学部の略史である。

沿革

- 1882年10月（明治15年） 東京専門学校創設，大隈英麿校長就任
- 1887年9月（明治20年） 大隈英麿退任，前島密校長就任
- 1890年7月（明治23年） 前島密退任，鳩山和夫校長就任
- 1902年10月（明治35年） 早稲田大学開校 大学部，専門部，高等予科，研究科を設置
- 1907年4月（明治40年） 大隈重信総長，高田早苗学長就任
- 1908年2月（明治41年） 理工科を新設し，機械，採鉱，電気，土木，建築，応用化学の6学科を漸次設置することを決定
 - 4月 先ず機械，電気の2学科の予科開設
 - 9月 阪田貞一理工科々長就任
- 1909年2月（明治42年） 前記の6学科設置の計画に冶金学科を加えて7学科とする
 - 4月 採鉱，建築両学科の予科開設
 - 9月 機械，電気両学科の本科授業開設
- 1910年9月（明治43年） 採鉱，建築両学科の本科授業開設
- 1911年5月（明治44年） 早稲田工手学校開設
恩賜記念館竣工
- 1915年8月（大正4年） 高田早苗退任，天野為之学長就任
- 1916年4月（大正5年） 応用化学科予科開設
 - 9月 阪田貞一理工科々長退任，浅野応輔就任
- 1917年2月（大正6年） 採鉱学科を採鉱冶金学科と改称
 - 8月 天野為之学長退任
 - 9月 応用化学本科の授業開設
- 1918年10月（大正7年） 平沼淑郎学長就任
- 1920年4月（大正9年） 新大学令による大学となり，理工科を理工学部と改称
科長浅野応輔が学部長となる
- 1921年10月（大正10年） 平沼学長退任，塩沢昌貞学長就任，浅野学部長退任，山本忠興理工学部長就任
- 1922年1月（大正11年） 大隈重信薨去
- 1923年5月（大正12年） 学長制廃止，高田早苗総長就任
- 1927年10月（昭和2年） 大隈記念大講堂落成
- 1928年4月（昭和3年） 早稲田高等工学校設置
 - 10月 演劇博物館開館
- 1931年6月（昭和6年） 高田総長退任，田中穂積総長就任

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

I 特 徴	1935 年 4 月(昭和 10年)	各学科に工業経営分科開設
II 沿革と概要	1938 年 4 月(昭和 13年)	応用金属学科開設, 鋳物研究所開設
III 学部要項	1939 年 4 月(昭和 14年)	専門部工科開設
IV 学生生活	1940 年 4 月(昭和 15年)	理工学部研究所設置 (1943 年(昭和 18 年)改組, 理工学研究所となる)
V 付 録	1942 年 4 月(昭和 17年)	電気工学科の第 2 分科が電気通信学科として独立
	10月	応用化学科に石油分科新設 (1943 年(昭和 18 年) 4 月石油工学科として独立, 1946 年(昭和 21 年) 4 月燃料化学科と改称)
	1943 年 4 月(昭和 18年)	工業経営学科及び土木工学科設置
	10月	山本学部長退任, 内藤多仲理工学部長就任
	1944 年 9 月(昭和 19年)	田中総長逝去, 中野登美雄総長就任
	1946 年 1 月(昭和 21年)	中野総長退任, 林癸末夫総長事務取扱に就任
	4 月	早稲田工業学校開校 (工手学校は 1948 年(昭和 23 年) 11 月廃校)
	6 月	島田孝一総長就任
	10月	内藤学部長退任, 山本研一理工学部長就任
	1948 年 4 月(昭和 23年)	早稲田工業学校を新制工業高等学校に改組
	1949 年 4 月(昭和 24年)	新制早稲田大学開設 (11 学部)
		第一理工学部には機械, 電気, 鉱山, 建築, 応用化学, 金属, 電気通信, 工業経営, 土木, 応用物理, 数学の 11 学科,
		第二理工学部には, 機械, 電気, 建築, 土木の 4 学科を設置
		山本研一第一理工学部長, 堤秀夫第二理工学部長就任
	10月	堤秀夫第一理工学部長, 帆足竹治第二理工学部長就任
	1951 年 4 月(昭和 26年)	新制早稲田大学大学院 6 研究科設置 (修士課程)
		工学研究科には機械工学, 電気工学, 建設工学, 鉱山及金属工学, 応用化学の 5 専攻を設置
	10月	専門部及び高等工学校廃止
		伊原貞敏第一理工学部長就任, 帆足竹治第二理工学部長再任
	1953 年 4 月(昭和 28年)	大学院 6 研究科に博士課程を設置
	1954 年 4 月(昭和 29年)	工学研究科修士課程に応用物理学専攻を設置
	9 月	島田総長退任, 大浜信泉総長就任
		青木楠男第一理工学部長, 木村幸一第二理工学部長就任
	1956 年 2 月(昭和 31年)	生産研究所設置 (1975 年(昭和 50 年) 4 月システム科学研究所と改称)
	9 月	高木純一第一理工学部長, 広田友義第二理工学部長就任
	1957 年10月(昭和 32年)	早稲田大学創立 75 周年
	1958 年 4 月(昭和 33年)	理工学部創立 50 周年
	9 月	大浜信泉総長再任, 高木純一第一理工学部長, 広田友義第二理工学部長再任
	1960 年 9 月(昭和 35年)	難波正人第一理工学部長, 鶴田明第二理工学部長就任
	1961 年 4 月(昭和 36年)	鉱山学科を資源工学科と名称変更, 大学院研究科を数学専攻設置に伴い理工学研究科と名称変更

1962 年 9 月 (昭和 37 年)	大浜信泉総長再任, 難波正人第一理工学部長, 鶴田明第二理工学部長再任
10 月	早稲田大学創立 80 周年
1963 年 9 月 (昭和 38 年)	大久保キャンパス新校舎第一期工事完成
1964 年 4 月 (昭和 39 年)	産業技術専修学校開設
9 月	難波正人第一理工学部長 (兼第二理工学部長) 再任
1965 年 3 月 (昭和 40 年)	大久保キャンパス新校舎第二期工事完成
4 月	物理学科開設
1966 年 5 月 (昭和 41 年)	大浜信泉総長退任, 阿部賢一総長代行就任
9 月	阿部賢一総長就任, 難波正人第一理工学部長 (兼第二理工学部長) 再任
1967 年 3 月 (昭和 42 年)	大久保キャンパス新校舎第三期工事完成
4 月	理工学部全学科の移転を完了
10 月	村井資長理工学部長就任
1968 年 4 月 (昭和 43 年)	第二理工学部廃止, 第一理工学部を理工学部 to 名称変更, 工業高等学校廃止
6 月	阿部賢一総長退任, 時子山常三郎総長就任
9 月	村井資長理工学部長再任
1969 年 7 月 (昭和 44 年)	村井資長学部長退任, 吉阪隆正理工学部長就任
1970 年 9 月 (昭和 45 年)	吉阪隆正理工学部長再任
10 月	時子山常三郎総長退任, 村井資長総長就任
1972 年 4 月 (昭和 47 年)	電気通信学科を電子通信学科 to 名称変更
9 月	平嶋政治理工学部長就任
1973 年 4 月 (昭和 48 年)	化学科開設
1974 年 9 月 (昭和 49 年)	平嶋政治理工学部長再任
10 月	村井資長総長再任
1976 年 9 月 (昭和 51 年)	村上博智理工学部長就任
1978 年 4 月 (昭和 53 年)	産業技術専修学校を専門学校に改組
9 月	村上博智理工学部長再任
11 月	村井資長総長退任, 清水司総長就任
1979 年 3 月 (昭和 54 年)	65 号館竣工 (化学系研究室等及び小倉記念館の移転完了)
1980 年 9 月 (昭和 55 年)	加藤忠蔵理工学部長就任
1982 年 4 月 (昭和 57 年)	理工学部一般高校推薦入学制度開始
9 月	加藤忠蔵理工学部長再任
10 月	早稲田大学創立 100 周年
11 月	清水司総長退任, 西原春夫総長就任
1984 年 9 月 (昭和 59 年)	加藤一郎理工学部長就任
1986 年 9 月 (昭和 61 年)	加藤一郎理工学部長再任
11 月	西原春夫総長再任
1987 年 4 月 (昭和 62 年)	金属工学科を材料工学科 to 名称変更
1988 年 4 月 (昭和 63 年)	理工学部創立 80 周年
9 月	平山博理工学部長就任
10 月	鋳物研究所を各務記念材料技術研究所と改称
1990 年 9 月 (平成 2 年)	加藤榮一理工学部長就任

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

I 特 徴	11月	西原春夫総長退任，小山宙丸総長就任
II 沿革と概要	1991年4月(平成3年)	情報学科開設
III 学部要項	1992年4月(平成4年)	数学オリンピック成績優秀者に対する特別選抜入試制度実施
IV 学生生活	9月	宇佐美昭次理工学部長就任
V 付 録	1993年3月(平成5年)	理工系新棟(55号館)完成
	4月	理工学研究所を理工学総合研究センターに改組
	1994年2月(平成6年)	理工学部学生ラウンジ完成
	9月	宇佐美昭次理工学部長再任
	11月	小山宙丸総長退任，奥島孝康総長就任
	1996年4月(平成8年)	電気工学科を電気電子情報工学科と名称変更 工業経営学科を経営システム工学科と名称変更
	9月	宇佐美昭次理工学部長再任
	1997年4月(平成9年)	電子通信学科を電子・情報通信学科と名称変更
	12月	ハイテクリサーチセンター竣工
	1998年4月(平成10年)	理工学部創立90周年 資源工学科を環境資源工学科と名称変更 材料工学科を物質開発工学科と名称変更 数学科を数理科学科と名称変更
	9月	宇佐美昭次理工学部長再任
	11月	奥島孝康総長再任
	2000年9月(平成12年)	尾島俊雄理工学部長就任
	2002年4月(平成14年)	創成入試(AO方式)制度実施
	9月	足立恒雄理工学部長就任
	11月	奥島孝康総長退任，白井克彦総長就任
	2003年4月(平成15年)	土木工学科を社会環境工学科と名称変更 電気電子情報工学科，電子・情報通信学科，情報学科を 電気・情報生命工学科，コンピュータ・ネットワーク工学科に再編
	9月	「特色ある大学教育支援プログラム(COL)」 (マレーシア) ツイニング(プログラム)による国際化への積極的取組 採択 (13大学共同)
	2004年6月(平成16年)	経営システム工学科が日本技術者教育認定機構(JABEE: Japan Accreditation Board for Engineering Education) の認定を受ける
	9月	足立恒雄理工学部長再任 理工学術院設置
	2006年9月(平成18年)	橋本周司理工学術院長就任 河合素直基幹理工学部長就任 理工学総合研究所と各務記念材料研究所を統合し，理工学統合研究センターを設置
	11月	白井克彦総長再任
	2007年4月(平成19年)	理工学部を基幹理工学部，創造理工学部，先進理工学部に再編 基幹理工学部には数学科，応用数理学科，情報理工学科，機械科学・航空学科， 電子光システム学科，表現工学科の6学科を設置

6 月	グローバル COE プログラム「『実践的化学知』教育研究拠点」(拠点リーダー黒田一幸) および「アンビエント SoC 教育研究の国際拠点」(拠点リーダー後藤敏) 採択
9 月	大学院教育改革支援プログラム「超専攻型融合テーマスタディクラスター教育」(拠点リーダー梅津光生) 採択
10 月	早稲田大学創立 125 周年
2008 年 4 月(平成 20 年)	63 号館完成 50 号館(通称 TWIns) 完成 理工学部創立 100 周年
6 月	グローバル COE プログラム「グローバルロボットアカデミア」(拠点リーダー藤江正克) 採択
9 月	橋本周司理工学術院長再任 河合素直基幹理工学部長再任
2009 年 4 月(平成 21 年)	大久保キャンパスを西早稲田キャンパスと名称変更
2010 年 9 月(平成 22 年)	山川宏理工学術院長就任 大石進一基幹理工学部長就任 国際化拠点整備事業(グローバル 30) の採択により、理工学術院の 3 学部・3 研究科に「国際コース」を設置
10 月	最先端研究開発戦略的強化費補助金(頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム)「ラボ交換型健康／生命医科学研究コンソーシアムの構築」(代表者武岡真司) 採択
11 月	白井克彦総長退任、鎌田薫総長就任
12 月	頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム「ラボ交換型健康／生命医科学研究コンソーシアムの構築」(主担当武岡真司) 採択
2012 年 9 月(平成 24 年)	山川宏理工学術院長再任 大石進一基幹理工学部長再任
12 月	卓越した大学院拠点形成支援補助金事業採択
2014 年 4 月(平成 26 年)	基幹理工学部情報通信学科設置
9 月	大石進一理工学術院長就任 太田有基幹理工学部長就任 スーパーグローバル大学創成支援採択
2015 年 4 月(平成 27 年)	電子光システム学科を電子物理システム学科に名称変更
2016 年 9 月(平成 28 年)	竹内淳理工学術院長就任 太田有基幹理工学部長再任
2018 年 4 月(平成 30 年)	理工学術院 3 学部・3 研究科の「国際コース」を「英語学位プログラム」に改編
9 月	竹内淳理工学術院長再任 戸川望基幹理工学部長就任
10 月	PEP 卓越大学院プログラム「パワー・エネルギー・プロフェッショナル育成プログラム」(プログラムコーディネーター林泰弘) 採択
11 月	鎌田薫総長退任、田中愛治総長就任
2020 年 4 月(令和 2 年)	機械科学・航空学科を機械科学・航空宇宙学科に名称変更
9 月	菅野重樹理工学術院長就任 戸川望基幹理工学部長再任

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

概 要

数学科は、数学を幅広く捉え、代数・幾何・解析・統計から計算機科学に至る広範な数学の知識を修得できる学科である。整数論、代数幾何学、代数解析学、微分幾何学、トポロジー、偏微分方程式論、実解析学、変分問題、数学基礎論、確率論、数理物理学のスタッフがそろい、日本でも類を見ない教育研究体制が可能となっている。さらに、応用数理学科と密接な連携を取ることで、応用数学に関してもカリキュラムの一層の充実が実現されている。

応用数理学科は、数学を中心とする理学的素養を身につけた上で創造的な応用研究ができる人材の育成をめざす。さらに、自然科学、社会科学や工学における応用研究の中から数学的に深く美しい原理を発見し、新しい数学理論の芽を育てることのできる人材の育成をめざす。カリキュラムについては数学科と連携を持ち、数学の基礎力の向上をはかる科目群を設置している。また、現象・統計・情報等の応用諸分野の科目群を充実し、数理が対象とする広大な学問対象を知り、さまざまな角度から最先端の数理科学が学べる教育体制を整えている。

機械科学・航空宇宙学科は、1つの大きな特異分野であると考えられてきた航空宇宙分野を、広い意味で機械工学分野の一部と捉えなおし、その分野に対して新たに展開する意図で設立されている。

教育面では科学系の数学・物理などの基礎を背景とした機械系力学すなわち材料力学、流体力学、熱力学およびメカニクス（力学）を中心とした講義、演習、実験、実習をベースとする。これらの学問は、過去の実績や未来を展望するとき、機械系エンジニアがあらゆる産業界で高い信頼を得て永続的活動をするために必須であり、世界に共通するエンジニアとしての道具である。さらに、これらの学問やさまざまな技術を統合して、あらゆる問題を解決する高い能力を備えたエンジニアの養成を目指す。この系統的な学術大系に立脚し、学部と大学院修士課程の一貫教育を原則とする。これらの学問体系は既存技術の高度化・発展に役立つだけでなく、深い造詣とほかの追従を許さない新分野展開にも応用できると信じている。

一方、研究面では、航空宇宙を加えた新しい分野で着実な研究を展開していく。学部・大学院のコース制度を充実させ、今後は機械工学および航空宇宙工学分野のより一層の発展のみならず、さらに高速安全化輸送、高度動力エネルギー、高機能性材料・加工、高精度モデリングなどの分野にも展開させて行く。

電子物理システム学科は、次世代の高度情報化社会で、重要となる学問分野である材料科学、電子工学、フォトニクスについて体系的な教育を提供することを目的として設立された。

具体的には、電磁気学、回路理論、情報工学などの電子工学基礎分野、量子力学、固体物性、ナノテクノロジーなどの物質科学分野、電子デバイス、光デバイスや光通信システム、MEMSなどの電子工学・フォトニクス分野、およびシステムLSI設計、センサネットワークなどの機能集積システム分野、さらに細胞生物学や医用電子工学分野など、ナノからマクロシステムまでの幅広い学問分野を、体系的に学習するカリキュラムを実現している。

その教育方法は少人数教育のメリットを最大限に生かし、年次進行により電子物理システム分野を基礎から高度な学問までを分かりやすく、かつ無理なく学習することを可能としている。大学院教育は、それぞれの領域に対応した専攻、研究科の修士課程に進学する一貫教育体制を原則としている。

このような教育システムにより、電子物理システム分野において、幅広い視野を持ち、創造力のあるス

ペシャリストの養成が可能になり、次世代の豊かな高度情報化社会をデザインし、活躍できる人材の育成を目標としている。

情報理工学科は、情報技術の急速な進展に対する強い社会的な要請に鑑み、コンピュータを中心に、その高度化のために何が必要となるかを考えていく学科である。具体的には、どのように処理をすればより効率よく情報を使えるのか、どのように情報を分析すれば新しい知見が得られるのかといった情報科学・情報工学と呼ばれる部門を主として教育研究を行う。研究面では、情報科学・情報工学の幅広い部門において、国内外で多様な研究実績を重ねた多彩な教授陣が揃い、最先端の教育・研究環境の中で、教員の直接指導のもと、学生それぞれが主体的にテーマに向き合い、研究に取り組んでいる。教育面では、学生が自分で「手を動かす」自主性・積極性を重視し、低学年時から実験、プログラミング等、実習科目に重点を置いている。4年次から研究室に所属する前に、3年次から研究室での研究に取り組める「プロジェクト研究」という科目も設けている。国際化の面では、英語による授業のみで学位を取得できる国際コースを併設し、英語による授業を受けることが可能である。また、ほとんどの研究室に外国人学生が所属し、外国人留学生とともに切磋琢磨し、世界レベルの研究に取り組める環境を実現している。

情報通信学科は、ネットワーク技術とコンピュータ技術の融合技術領域である情報通信技術に関する教育研究を行う学科である。大容量のブロードバンドネットワークに支えられた高性能スマートフォンや高精細化及び高臨場化に向かうコンテンツ配信をはじめ、自動車、家電、電力、交通、医療、金融、コンテンツ制作等のあらゆる社会インフラや社会活動に、情報通信技術は大きな影響を及ぼすと共に、日々の活動を支える必須の基盤技術となっている。また、世界の持続的発展のために情報通信技術は必要不可欠な技術分野であることから、国家、企業、大学、研究所等の間の研究開発競争は一層熾烈を極めていく。そのため、情報通信技術に携わる人材は、世界的に激しくなるばかりの競争社会の中で、グローバルな視点のみならず、日々変化し続ける技術革新への対応も求められている。

このような背景から、情報通信学科は、時代の変化に依存しない普遍的な技術領域と変化に迅速に適応しうる応用的な技術領域の間でバランスを取ったカリキュラムを提供している。その上で、グローバル社会の視点に立った、国際的かつグローバルな情報通信の教育研究を推進し、将来の豊かで幸福なスマート社会を情報通信の面から構築する、グローバル人材を育成することを目標とする。

表現工学科は、科学技術と芸術の融合的進化を見据え、「視覚表現」「聴覚表現」、そして今後現れるであろう「第三の表現」を模索して行く。具体的には「技術を理解する芸術家」と「芸術を理解する技術者」、またそれらを統括する「メディアマネジメント」のための人材を養成するための教育、研究を行う。

個々の教育では生活に密着した具体的なプロジェクトに、芸術系、工学系、メディアマネジメント系の学生が共に参加し、共通のテーマ、あるいは共通の作品制作を通して科学技術と芸術の接点や問題点を検証する。そうした中から「科学技術を深く理解しその意味を問ひかけ、応用する技術・作品を創造する能力」「芸術の側からの発想に応える技術の開発が出来る能力」を養うことを目的としている。こうした科学技術と芸術の融合的進化は、国際的な広がりを持つ映像、音楽、コンテンツ産業に匹敵する新しい「産業」を創成することが期待される。

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

III

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

基幹理工学部要項

1	単位制	1. 単位制
2	学位・卒業	2. 学位・卒業
3	進級制度	3. 進級制度
4	理工学院内 転部・転科試験	4. 転部・転科
5	学費の納入と抹籍	5. 学 費
6	学科目の系列	6. 学科目系列
7	複合領域科目，外国語科目（A 群科目）	7. A 群科目
8	数学，自然科学，実験・実習・制作，情報関連科目（B 群科目）	8. B 群科目
9	専門教育科目，基幹共通科目（C 群科目）	9. C 群科目
10	学科別 C 群科目配当表および学修案内	10. 学科別案内 (C 群科目)
	数学科	数学
	応用数理学科	応数
	機械科学・航空宇宙学科	機航
	電子物理システム学科	電子
	情報理工学科	情報
	情報通信学科	通信
	表現工学科	表現
11	保健体育・自主挑戦科目（D 群科目）	11. D 群科目
12	他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講	12. 他学部聴講
13	教員免許状取得方法	13. 教職免許
14	履修科目の登録	14. 科目登録
15	授業時間帯	15. 授業時間帯
16	試験	16. 試 験
17	レポート・論文作成にあたっての注意事項	17. レポート・ 論文作成
18	成績の表示	18. 成績の表示
19	復学者の履修方法	19. 復学者の 履修方法
20	科目等履修生（一般科目等履修生・教職課程履修生）	20. 科目等履修生

1 単位制

大学では、単位制が採用されている。単位制とは、授業に出席し、事前・事後の準備学習・復習を行い、所定の試験に合格することによって単位を修得し、総単位数が所定の数に達することによって学士の学位が与えられる制度である。

各学科目の単位数は、45 時間の学修を必要とする内容をもって 1 単位の授業科目を構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮し、計算される。

1 年間に登録できる単位数の上限を 49 単位とする。ただし、各種資格に関する科目（教育学部および文学部設置）等の卒業算入対象外の科目は、これに含めない。

2 学位・卒業

本学部では、4 年以上在学し、所定の卒業必要単位数以上を修得した者を卒業とし、学士の学位を与える。ただし、在学年数は 8 年（学士入学者は 4 年）を超えることはできない。

なお、本学部の卒業年月日は、当該年度 3 月 15 日付である。

修業年限内に、一部の学科目が単位未修得のため卒業できなかった者が、次の基準に該当した場合は、指導教員の推薦の上、次年度の春学期終了後（9 月 15 日付）に卒業できる。

9 月卒業を希望する者は、必ず指導教員と所属学科へ具体的な手続や可否について相談と確認をすること。なお、卒業論文、卒業計画、卒業研究などの通年科目を履修している者は、当該年度 5 月下旬までに所属学科を通して、9 月卒業対象者として理工学術院へ報告があった学生のみが対象となるので注意すること。

- ① すでに履修した学科目につき、未受験または不合格のため卒業できなかった者が、次年度の春学期中に当該学科目を履修した上で試験に合格した場合。
- ② 履修しなかった学科目につき、次年度の春学期に履修の上、試験に合格した場合。ただし、原則として春学期で講義の終了する学科目に限る。
- ③ 卒業論文、卒業計画、卒業研究の未提出または不合格の理由により卒業できなかった者が、次年度の春学期に論文等を提出し、合格した場合。

3 進級制度

(1) 1 年次在学の年限

3 年間の在学期間終了時において、

- 全必修科目の単位数が 25 単位未満の場合 あるいは、
- 学科進級の意思を有しない場合

は、早稲田大学学則 45 条の 2 により、原則として退学処分に付す。ただし、休学・留学期間は、在学期間に含まれない。

(2) 学科振り分けの条件

学科に進級するのは 2 年次が原則である。但し、1 年次に設置されている全必修科目のうち、25 単位以上を修得し、かつ学科進級の意思を有する者を対象とする。

(3) 年次

要項において、年次については以下のとおり取り扱う。ただし、休学年数と留学センターが主催する CS プログラムおよびダブルディグリープログラム以外での留学期間中の年数は除く。

学科未進級者：1 年次、学科進級 1 年目：2 年次、学科進級 2 年目：3 年次、学科進級 3 年目以上：4 年次

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内
(C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の
履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

4 理工学術院内 転部・転科試験

本学部における教育は、各学科の4年間一貫した教育体系に基づいて行われている。したがって、入学した学科において学修することを前提としている。しかし、所属学科における勉学に著しい不適正を感じ、かつ転科志望の意志が強いなど特別な事情がある場合には、学科主任の承認のもとに理工学術院内 転部・転科試験に出願できる。

理工学術院内 転部・転科試験においては、所属学部内での転科の他、理工学術院3学部（基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部）内での、転部を伴う転科をすることが可能である。しかし、年度によっては転科学生の受け入れない学科があり、受け入れる学科においても募集人員は若干名である。

理工学術院内 転部・転科試験には、学部1年生が2年次から学科を変更するための試験（転部・転科（2年））および、学部2年生が3年次から学科を変更するための試験（転部・転科（3年））がある。ともに在籍年数を下げての受験は認められない。詳細については、理工学術院内 転部・転科試験要項（11月頃より理工学術院 Web サイトに掲載開始予定）で確認すること。

なお、理工学術院内 転部・転科試験を出願するにあたり、転科後の勉学に耐えられるように、受験の前提条件として修得単位数等に厳しい受験資格が求められるので、事前にクラス担任、学科主任と相談することが必要である。

理工学術院内 転部・転科試験の受験資格は次の通りである。

【転部・転科（2年）】

複合領域科目（A1 群科目）を4単位、1年配当の外国語科目（A2 群科目）およびB群・C群科目の各学科必修科目の全単位を修得していること。

※基幹理工学部への転部・転科（2年）は、創造／先進理工学部生のみ出願可能

【転部・転科（3年）】

・基幹理工学部内の転科

複合領域科目（A1 群科目）を4単位、1年配当の外国語科目（A2 群科目）およびB群・C群科目の基幹理工学部必修科目の全単位を修得していること。

・その他の転部・転科

複合領域科目（A1 群科目）を8単位、1・2年配当の外国語科目（A2 群科目）およびB群・C群科目の各学科必修科目の全単位を修得していること。

5 学費の納入と抹籍

(1) 納入期日

学費は、それぞれの年度において、右記期日までに納入しなければならない。

	納入期限
春学期学費	5月1日
秋学期学費	10月1日

(2) 2022 年度入学者学費・諸会費

		1 年度		2 年度		3 年度		4 年度	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
入 学 金		200,000	0	0	0	0	0	0	0
授 業 料		723,000	723,000	823,000	823,000	823,000	823,000	823,000	823,000
実験実習料	数 学 科	30,000	30,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000
	応用数理学科			30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
	機械科学・航空宇宙学科			48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000
	電子物理システム学科								
	情報理工学科			40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000
	情報通信学科			48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000
	表現工学科								
学生健康増進互助会費		1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
校 友 会 費		0	0	0	0	0	0	0	40,000
合 計	数 学 科	954,500	754,500	851,500	851,500	851,500	851,500	851,500	891,500
	応用数理学科			854,500	854,500	854,500	854,500	854,500	894,500
	機械科学・航空宇宙学科			872,500	872,500	872,500	872,500	872,500	912,500
	電子物理システム学科								
	情報理工学科			864,500	864,500	864,500	864,500	864,500	904,500
	情報通信学科			872,500	872,500	872,500	872,500	872,500	912,500
	表現工学科								
年 額 合 計	数 学 科	1,709,000		1,703,000	1,703,000	1,703,000	1,703,000	1,743,000	
	応用数理学科			1,709,000	1,709,000	1,709,000	1,709,000	1,749,000	
	機械科学・航空宇宙学科			1,745,000	1,745,000	1,745,000	1,745,000	1,785,000	
	電子物理システム学科								
	情報理工学科			1,729,000	1,729,000	1,729,000	1,729,000	1,769,000	
	情報通信学科			1,745,000	1,745,000	1,745,000	1,745,000	1,785,000	
	表現工学科								

※実験実習料・諸会費は改定されることがある。

※教育学部設置の教職に関する科目、グローバルエデュケーションセンター設置の一部の科目を履修する場合は、別途聴講料等が必要となる。

※第4年度の秋学期に校友会費40,000円（卒業後10年分）が必要となる。

単位（円）

(3) 所定年限以上在学する学生の学費の取り扱い

【学科進級後】

卒業必要単位合計からの 不足単位数	授業料	実験実習料 学生健康増進互助会費
～ 4 単位	4 年次生所定額の 50%	4 年次生所定額
5 単位以上	4 年次生所定額	

【学科進級前】

進級必要単位合計からの 不足単位数	授業料	実験実習料 学生健康増進互助会費
～ 4 単位	2 年次生所定額の 50%	1 年次生所定額
5 単位以上	2 年次生所定額	

※「所定年限」は、学科進級前については1年、学科進級後については3年とする。

※在籍中に休学・留学をした場合の学費については、理工学術院統合事務所で問い合わせること。

※「卒業必要単位合計からの不足単位数」「進級必要単位合計からの不足単位数」は前の学期の終了時に算出したものを基準とする。

※ただし、延長生学費の計算において、一部科目群については、卒業算入単位数を超えても取得単位として計上される場合がある。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内 (C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(4) 納入方法

学費等の納入方法は、事前に申請をしたゆうちょ銀行を含む全国の金融機関指定口座からの口座振替となる。この口座は入学手続時に申請をしたものである。

なお、事前に「口座振替のお知らせ」が学費負担者宛てに送付されるので、必ず確認すること。また、金融機関や口座等に変更が生じた場合は、すぐに理工学術院統合事務所に申し出ること。

学費は、それぞれ指定の期日までに納入しなければならないが、特別な事情でそれが不可能な場合は、理工学術院統合事務所に相談すること。

(5) 抹 籍

学費の納入を怠った場合は抹籍（本学学生の身分を失う）となり、最後に学費が納入された学期末に遡って退学となる。この場合、在学年数および成績の一部が無効となる。なお、特別の事情により自動的に抹籍となる日（以下参照）以前に退学を希望する場合は、理工学術院統合事務所に相談すること。

	納入期限	自動的に抹籍となる期日	退学とみなす期日
春学期学費	5月1日	9月20日	3月31日
秋学期学費	10月1日	翌年3月31日	9月20日

6 学科目の系列

本学部の学科目は、A群・B群・C群およびD群の4系列に大別され、その内容は以下のとおりである。なお、各群の内容に関しては後述する。

A 群	複合領域科目（A1）、外国語科目（A2）
B 群	数学（B1）、自然科学（B2）、実験・実習・制作（B3）、情報関連科目（B4）
C 群	専門教育科目、基幹共通科目
D 群	保健体育科目、自主挑戦科目

A～D群に設置されている学科目には、以下の種別がある。

(1) 「卒業必要単位」に算入される科目

以下の科目があり、いずれも成績証明書に成績が記載される。

必修科目	必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	限定された範囲から必ず所定の科目を履修し、単位を修得しなければならない科目
選択科目	選択科目群から自由に選択し、所定単位を修得する科目

(2) 「卒業必要単位」に算入されない科目

自由科目	単位を修得した場合、成績証明書に記載されるが、卒業必要単位には算入されない科目
------	---

理工学術院の1学年は、学期制（春学期・秋学期、それぞれ15週ずつ）とクォーター制（春クォーター・夏クォーター・秋クォーター・冬クォーター、それぞれ8週ずつ）からなっており、学科目の開講学期は、主に次の区分で設定されている。

- 通年科目
- 春学期科目
- 秋学期科目
- 春クォーター科目
- 夏クォーター科目
- 秋クォーター科目
- 冬クォーター科目
- 集中講義（通年・春学期・秋学期）

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

(3) 卒業に必要な単位数

系 列 学 科	A ～ C 群の所定単位数											A～D群,その他から任意に選択できる単位数 [6] [6]	合計	学位	
	A 群			B 群				C 群			D 群				
	A1	A2		B1	B2		B3	B4	専門教育科目						選択任意
	複合領域科目 [6]	英語 または 初修外国語 [6]	英語 必修	数学	自然科学 物理学 化学		実験・ 実習・ 制作	情報関 連科目	必修	選択 必修	選択 [5]				保健体育 ・自主挑 戦科目
数 学 科	10		8	13	4	2	6	4	30	20[1]	26[3]	3	126	学士(理学)	
応用数理学科	10		8	13	4	2	6	4	31	20[1]	25[4]	3	126	学士(工学)	
機械科学・航空宇宙学科	10		8	13	4	2	8	4	43	4[2]	27	3	126	学士(工学)	
電子物理システム学科	10		8	13	4	2	8	4	44	4[2]	24	5	126	学士(工学)または 学士(理学)	
情報理工学科	10		8	13	4	2	8	4	43	4[2]	25	5	126	学士(工学)	
情報通信学科	10		8	13	4	2	8	4	41	4[2]	27	5	126	学士(工学)	
表現工学科	16	2	8	13	4	2	8	4	40	4[2]	20	5	126	学士(工学)	

[6] グローバルエデュケーションセンター設置科目で修得した単位を一定数算入できる。詳細は、「12 他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講」を参照のこと。

[1] 第1年度に設置の専門選択必修科目から4単位、第2年度以降に設置の専門選択必修科目から16単位を修得しなければならない。第1年度に設置の専門選択必修科目について、4単位を超えて修得した単位は卒業に必要な単位数として算入されない。第2年度以降に設置の専門選択必修科目について、16単位を超えて修得した単位については、専門選択科目に算入する。

[2] 第1年度に設置の専門選択必修科目から4単位を修得しなければならない。4単位を超えて修得した単位は卒業に必要な単位数として算入されない。

[3] 数学科と共通しない応用数理学科の専門教育科目も、12単位を上限として、数学科専門選択科目に算入できる。

[4] 応用数理学科と共通しない数学科の専門教育科目も、16単位を上限として、応用数理学科専門選択科目の所定単位数に算入できる。

[5] 各学科に配当された基幹共通科目の取得単位は、所定の単位数を上限として、専門選択科目の所定単位数に算入できる。

[6] A～C群の所定単位数の合計は、卒業必要単位数(126単位)に満たないため、以下の科目系列・単位で充足すること。

・A～C群科目系列で指定されている所定単位数を超えて修得したA～C群科目の単位。

・保健体育・自主挑戦科目(D群科目)(4単位まで)。

・他学科・他学部・他学術院・他コース聴講で修得した単位。(各学科が定める上限単位数まで。「12 他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講」の項参照。)

・全学オープン科目で修得した単位。(各学科が定める上限単位数まで。ただし、当該科目が卒業必要単位に算入されるものに限る。「12 他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講 (2) 全学オープン科目」の項参照。)

※自由科目は、卒業必要単位数には算入できない。

A～D群、その他から任意に選択できる単位数＝卒業必要単位数－(A～C群所定単位数)

(4) 基幹理工学部 副専攻制度

(副専攻の概要)

本学部では、理工学の幅広い知識と見識を有する優秀な人材を育成することを目的として、学部2年生以上を対象とした副専攻制度を実施している。具体的には、本学部に所属する7学科の中で、主専攻のほかに副専攻を選択できる制度である。副専攻を履修することで、幅広い専門知識を有し、それを専門に生かす学部学生を育成すると共に、将来の進学先や就職先の多様化する要求にも対応できる。

(副専攻の種類)

次のとおり副専攻を設置している。自身が所属する学科以外の学科が設置する各副専攻の所定の科目を副専攻制度の科目として履修することができる。なお、材料科学副専攻は、基幹7学科どの学科に所属する学生でも履修可能である。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の
履修方法

20. 科目履修生

I 特 徴	副専攻名称	設置学科・専攻	進学可能な専攻
II 沿革と概要	数学応用数理副専攻	数学科、応用数理学科	数学応用数理専攻
III 学部要項	機械科学・航空宇宙副専攻	機械科学・航空宇宙学科	機械科学・航空宇宙専攻
IV 学生生活	電子物理システム学副専攻	電子物理システム学科	電子物理システム専攻
V 付 録	情報理工・情報通信副専攻	情報理工学科、情報通信学科	情報理工・情報通信専攻
	表現工学副専攻	表現工学科	表現工学専攻
	材料科学副専攻	材料科学専攻	材料科学専攻

（基幹理工学研究科 修士課程への進学との関わり）

副専攻の履修者は、所属学科と進学先専攻の両方の同意のもと、上の表で指定された専攻へ推薦入試によって進学することができる。

（履修の開始）

2 年次以降に、各副専攻の定める進入手続き後に履修を開始する。詳しくは後述の基幹 Web サイトを参照せよ。

（副専攻の修了要件）

副専攻を修了するためには、学部卒業までに各副専攻が指定する科目群の中から 16 単位以上を取得しなければならない。

（証明書）

各学期の成績発表日後に修得済みの所定科目の合計単位数を示す「単位取得証明書」が、また、所定単位数の取得後であれば、「修了証明書」が発行可能である。原則として、自動証明書発行機による即日発行が可能であるが、システムメンテナンス等により数日かかる場合もあるので、十分な余裕をもって申し込むこと。

（Web サイト）

副専攻についてのさらに詳しい情報（FAQ、問い合わせ先など）が、基幹 Web サイト内にある。

<http://www.fse.sci.waseda.ac.jp/s-major/>

（副専攻が指定する科目群）

各副専攻の対象科目は次の表のとおり。なお、各科目の履修に際しては、「設置学科 1」または「設置学科 2」に記載の学科が設置する科目が対象となる。学期・単位数等は最新年度の Web シラバスや理工 Web サイトを参照のこと。また、原則として、副専攻が指定する科目の単位は、「他学科聴講」として取扱われる。「他学科聴講」には、所属学科によって卒業必要単位数に算入できる上限単位数が定められているため、詳細は本学部要項の「12 他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講」を参照すること。

副専攻	対象科目	設置学科 1	設置学科 2
数学 応用数理 副専攻	数理科学展望	共通	
	集合入門	共通	
	フーリエ解析（基幹）	共通	
	微分方程式（基幹）	共通	
	ベクトル解析（基幹）	共通	
	複素関数論（基幹）	共通	
	続線形代数（基幹）	共通	
	電磁気学（基幹）	共通	

副専攻	対象科目	設置学科 1	設置学科 2
数学応用数理副専攻	代数学序論	数学	応数
	代数学 A	数学	
	位相入門	数学	
	ベクトル空間と幾何	数学	応数
	多変数解析	数学	
	解析学入門	数学	
	関数論 A	数学	応数
	関数論 B	数学	応数
	数学基礎論 A	数学	応数
	数学基礎論 B	数学	応数
	代数学 B1	数学	
	代数学 B2	数学	
	代数学 C1	数学	
	代数学 C2	数学	
	幾何学 B1	数学	
	幾何学 B2	数学	
	幾何学 C	数学	
	測度論	数学	応数
	関数解析 A	数学	応数
	保険数学	数学	応数
	計算機概論	数学	応数
	数式処理プログラミング	数学	応数
	代数学 D1	数学	
	代数学 D2	数学	
	代数学 E1	数学	
	代数学 E2	数学	
	幾何学 D1	数学	
	幾何学 D2	数学	
	幾何学 E1	数学	
	幾何学 E2	数学	
	関数論 C	数学	
	関数論 D	数学	
	関数解析 B	数学	
	上級解析	数学	
	確率論 A	数学	
	確率論 B	数学	
	応用数学 A	数学	
	応用数学 B	数学	
	計画数学	数学	
	数学史	数学	

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

副専攻	対象科目	設置学科 1	設置学科 2
数学 応用数理副専攻	数学と文化史	数学	
	数理科学特別講義 A	数学	応数
	数理科学特別講義 B	数学	応数
	微分方程式 1	数学	応数
	微分方程式 2	数学	応数
	常微分方程式入門	応数	
	集合と位相入門 A	応数	
	集合と位相入門 B	応数	
	プログラミング基礎 A	応数	
	プログラミング基礎 B	応数	
	応用数理演習 A	応数	
	応用数理概論	応数	
	微分方程式と数理モデル	応数	
	関数解析入門	応数	
	確率統計概論 A	応数	数学
	確率統計概論 B	応数	数学
	情報理論	応数	
	測度と積分入門	応数	
	コンピューティングの数理	応数	
	数値計算 A	応数	
	数値計算 B	応数	
	応用トポロジー	応数	
	応用代数学	応数	
	学習理論	応数	
	応用数理演習 B	応数	
	応用数理演習 C	応数	
	確率と統計の基礎	応数	
	統計的推測論	応数	
	時系列解析	応数	
	確率過程論	応数	
	数理物理	応数	
	熱・統計力学	応数	
	流体の数理	応数	
	量子力学の数理 A	応数	電子
	量子力学の数理 B	応数	電子
	最適化の数理	応数	
	暗号とセキュリティの数理	応数	
	デジタル系の数理	応数	
	ことばの数理	応数	
	ビジネスと確率の数理	応数	
	経済の数理	応数	

副専攻	対象科目	設置学科 1	設置学科 2
機械科学・航空宇宙副専攻	工学系の数理 1	機航	
	材料の力学 1	機航	
	機械材料学	機航	
	工学系の解析設計演習	機航	
	工学系の数理 2	機航	
	流体の力学 1	機航	
	熱力学 1	機航	
	材料の力学 2	機航	
	ダイナミクス	機航	
	制御工学	機航	
	熱力学 2	機航	
	流体の力学 2	機航	
	航空材料学	機航	
	ターボ機械	機航	
	伝熱工学	機航	
	弾性力学	機航	
	精密工学	機航	
	解析力学	機航	
	制御系の設計と応用	機航	
	高速流体力学	機航	
	ガスタービン・ジェットエンジン概論	機航	
	燃烧工学	機航	
	破壊力学	機航	
	航空構造力学	機航	
	エネルギー変換工学	機航	
	統計力学	機航	
	数値計算法	機航	
	有限要素法	機航	
	溶接・接合	機航	
	凝固・鋳造工学	機航	
	鉄鋼材料学	機航	
	塑性力学・塑性加工学	機航	
電子物理システム学副専攻	解析力学	電子	
	電磁気学 A	電子	
	回路理論 A	電子	
	量子力学 A	電子	応数
	電磁気学 B	電子	
	回路理論 B	電子	
	情報数学	電子	
	論理回路	電子	
	熱力学	電子	

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

副専攻	対象科目	設置学科 1	設置学科 2
電子物理システム学副専攻	既約表現論	電子	
	電子デバイス	電子	
	電子回路 A	電子	
	光エレクトロニクス	電子	
	分子エレクトロニクス	電子	
	電子回路 B	電子	
	量子力学 B	電子	応数
	LSI アーキテクチャ	電子	
	量子化学	電子	
	伝送理論	電子	
	固体物理	電子	
	統計力学	電子	
	量子デバイス	電子	
	材料科学概論	電子	
	電磁気学 C	電子	
	光ファイバ通信	電子	
	制御工学	電子	
	マイクロ波フォトンクス	電子	
	MEMS	電子	
	医用電子工学	電子	
情報理工・情報通信副専攻	高密度集積回路工学	電子	
	センサ工学	電子	
	センサネット	電子	
	材料集積工学	電子	
	プログラミング A	情報	通信
	情報数学 A	情報	通信
	コンピュータアーキテクチャ A	情報	通信
	情報通信ネットワーク A	情報	通信
	情報数学 B	情報	通信
	アルゴリズムとデータ構造 A	情報	通信
	アルゴリズムとデータ構造 B	情報	通信
	ソフトウェア工学 A	情報	通信
	オペレーティングシステム A	情報	通信
	プログラミング B	情報	通信
	コンピュータアーキテクチャ B	情報	情報
	プログラミング言語	情報	通信
	言語処理系	情報	通信
	情報社会論	情報	通信
	情報系の生命学	情報	通信
	生命情報処理と ICT	情報	通信
	ソフトウェア工学 B	情報	通信
	オペレーティングシステム B	情報	通信
	データベース	情報	通信

副専攻	対象科目	設置学科 1	設置学科 2
情報理工・情報通信副専攻	人工知能 A	情報	通信
	人工知能 B	情報	通信
	統計解析実習	情報	通信
	回路理論	通信	情報
	信号処理	通信	情報
	論理回路	通信	情報
	情報理論 A	通信	情報
	通信理論	通信	情報
	電子回路	通信	情報
	トラヒック理論	通信	情報
	離散数学	通信	情報
	ディジタル信号処理	通信	情報
	情報通信ネットワーク B	通信	情報
	マルチメディア工学 A	通信	情報
	マルチメディア工学 B	通信	情報
	最適化と認識・学習	通信	情報
	情報理論 B	通信	情報
	無線通信技術	通信	情報
	次世代ネットワーク	通信	情報
	ディジタル放送技術	通信	情報
	コミュニケーション品質理論	通信	情報
表現工学副専攻	CG 基礎	表現	
	表現構造論	表現	
	音楽表現基礎	表現	
	音響学基礎	表現	
	ロボティクス表現デザイン	表現	
	認知科学基礎	表現	
	映像・映画構造論	表現	
	視覚芸術理論	表現	
	奇想のテレビドキュメンタリー論	表現	
	メディアアート表現論	表現	
	芸術表現	表現	
	視覚芸術キュレーション論	表現	
	視覚メディアマネージメント A	表現	
	視覚メディアマネージメント B	表現	
	新メディア論	表現	
	アートマネージメント	表現	
	メディアエルゴノミクス	表現	
	応用音響	表現	
	音響表現基礎	表現	
	録音技術論	表現	

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現

11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

副専攻	対象科目	設置学科 1	設置学科 2
表現工学副専攻	音コミュニケーション	表現	
	様相と論理	表現	
	映画から学ぶ映像表現	表現	
	テレビ論	表現	
材料科学副専攻	熱・統計力学	応数	
	材料の力学 1	機航	
	機械材料学	機航	
	材料の力学 2	機航	
	航空材料学	機航	
	弾性力学	機航	
	破壊力学	機航	
	統計力学	機航	
	溶接・接合	機航	
	凝固・鋳造工学	機航	
	鉄鋼材料学	機航	
	塑性力学・塑性加工学	機航	
	量子力学 A	電子	応数
	既約表現論	電子	
	量子力学 B	電子	応数
	量子化学	電子	
	固体物理	電子	
	統計力学	電子	
	材料科学概論	電子	
	相平衡	電子	
	材料の機器分析	電子	

(5) 大学院授業科目の先取り履修制度

学部・大学院一貫教育の観点から、学部 4 年生を対象に進学予定の研究科から指定された講義科目を先取り履修する制度を実施している。先取り履修し、修得した単位は、次年度に大学院に進学後、当該各専攻が定めた上限単位数の範囲内において、大学院の「修了に必要な単位 (30 単位)」として認定される。

	専攻名	先取り履修の 認定上限単位数
基幹理工学研究科	数学応用数理	10 単位
	機械科学・航空宇宙	4 単位
	電子物理システム学	10 単位
	情報理工・情報通信	10 単位
	表現工学	10 単位
	材料科学	4 単位

詳細な内容、手続方法等については、理工学術院の Web サイトを参照すること。

(6) 欠席届

- ① 本学部およびグローバルエデュケーションセンターで登録したすべての科目の授業および試験について、これらを欠席した場合は、欠席届を理工学術院統合事務所で取得の上、担当教員に直接提出すること。ただし実験科目については各実験室に提出すること（実験室によっては、別に指定用紙がある）。また、英語科目については英語教育センターの Web サイトを参照してその指示に従うこと。
- ② 他学術院開講科目については、当該箇所の欠席届を使用し、その箇所の手続方法に従うこと。
- ③ 欠席の事由が確認できるもの（診断書の写し等）を添付すること。

7 複合領域科目、外国語科目（A 群科目）

A 群科目は、複合領域科目（A1 群科目）および外国語科目（A2 群科目）に分かれる。各学科が指定する履修条件・制約のもと、系列内の所定単位数を修得すること。

複合領域科目（A1 群科目）については、半期で登録できる単位数の上限を 6 単位*とする。

※グローバルエデュケーションセンターの科目を A1 群として算入した場合も、この 6 単位に含まれる。

(1) 学科別所定単位数

数学科、応用数理学科、機械科学・航空宇宙学科、電子物理システム学科、情報理工学科、情報通信学科：
18 単位のうち英語（必修科目）で 8 単位を充足しなければならない。

	複合領域科目 (A1 群)	外国語科目 (A2 群)		
		英語（必修科目）	英語（選択科目）	初修外国語
所定単位数	—	8 単位	—	—
18 単位				

表現工学科

	複合領域科目 (A1 群)	外国語科目 (A2 群)		
		英語（必修科目）	英語（選択科目）	初修外国語
所定単位数	16 単位	8 単位	2 単位	
26 単位				

※一部の他学科・他学部・他学術院等設置科目は A1 群または A2 群に算入できる。詳細については「12 他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講」を参照すること。

(2) 複合領域科目（A1 群科目）

世界の政治・経済・社会・文化等の構造の大幅な変動や科学技術の飛躍的な進歩とともに、価値観の多様化、流動化が進み、学問や研究のあり方も大きく転換しつつある。また、学生の関心や要望も従来とは異なり、卒業後の進路も多岐にわたっている。こうした状況をふまえて、理工系 3 学部では、多角的知識と総合的かつ自主的判断力を身につけると同時に、人文・社会科学系だけでなく、理工学系をも横断する複合的な視点から、多領域にまたがる新しい問題や複雑な現象に挑む能力を養うことをめざして、複合領域科目を設置している。

複合領域科目は、総合科目・基礎科目・特論科目・領域コース科目に区分され、以下 25 頁の表のように配置されているが、その中から自己の選択に基づいて、4 年間で所定の単位を修得しなければならない。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目専履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

総合科目・基礎科目

総合科目は、現代社会における特定の重要な課題を、様々な学問領域から多角的に究明することによって、異なった学問領域間相互の関連性を理解し、現象の総合的把握の能力を育むとともに、創造的思考を養成するために開設されたものである。基礎科目は、そうした総合的把握の能力の基礎となる人文・社会科学系学問の素養を身につけるための科目である。両科目とも半期2単位の科目であるが、一部科目についてはクォーター1単位となる。第1年度から履修が可能であり、低学年の間に履修することが望ましい。

特論科目

理工系の学生たちが複合的な視点から問題に取り組むことができるよう編成された科目群が用意されている。この中には、主として人文・社会科学系の発展的な科目、科学技術をめぐる諸問題を複合的な視点から捉える科目、表現の問題を重視する芸術系の科目や実習、外国文化を主として扱う科目などが設置されている。特論科目は半期科目であるが、一部の実習科目については、週2時間、半期4単位となる。第2年度から履修が可能で、総合・基礎科目よりもレベルを高く設定しているので、関連する総合・基礎科目の学習をふまえて履修することが期待される。

社会文化領域コース科目

原則として社会文化領域コース（以下、領域コースという）に進入した学生が選択する科目である。基礎演習は3年の秋学期、領域演習・卒業論文（領域コース）は4年で選択する。基礎演習は半期2単位、領域演習は通年4単位、卒業論文は2単位となっている。領域コースを選択する場合には、通常の単位のほかに、複合領域科目の中から領域コース科目8単位を含む一定単位以上を修得しなければならない。なお、領域コースの概要および進入手続については、別途、領域のWebサイトや説明会等で配布するパンフレットを参照すること。

A1 群科目履修上の注意

- ・ 学科目のあとにⅠ、Ⅱ…を付してある学科目は、その順序に従って履修しなければならない（Ⅰの単位修得が確認できた後に、Ⅱの履修が可能となる）。
- ・ 学科目のあとに、A、B…のついている学科目は重複して履修してはならない（ただし、経済制度論 A、B、C、D 及び、産学連携、ベンチャー起業の基礎 A、B については、この限りではない）。
- ・ 学科目のあとに（1）（2）…を付してある学科目は重複して履修してはならない。
- ・ 文化・言語・地域の各国語圏文化論（ドイツ語圏、フランス語圏、中国語圏、スペイン語圏）を履修するには、各国語の中級Ⅱ A か中級Ⅱ B、あるいは「学院クラス」のⅡ A かⅡ B の単位を修得していなければならない。ただし、該当科目担当教員が履修条件を満たしていると認めた学生についてはその限りではない。

履修モデルと認定制度

複合領域科目（A1 群）と初修外国語（A2 群）の科目を対象とした履修モデルを設定し、モデルに即して履修した学生には、認定証を授与する制度を設けている。履修モデルには、A 群の科目を幅広く履修する多様性の側面と、特定分野を履修する専門性の側面がある。詳しくは、以下のWebサイトを参照のこと。

社会文化領域 Web サイト <http://www.div.sci.waseda.ac.jp/>

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

複合領域科目および領域コース

	総合科目	基礎科目	特論科目
知的財産		知財のグローバル化と言語の多様性 ロボット産業とイノベーション 国際知財政策 A, B 国際コンテンツビジネスと著作権	産学連携、ベンチャー起業の基礎 A, B 新規市場開拓としてのイノベーション経営 (CSR 経営) 知的財産と起業 パイオ・イノベーションと知財 中国産業・知財の基礎 A, B
産業政策	開発協力論		雇用環境と労働 産業・技術移転論 産業政策とデジタルコンテンツ論の基礎 デジタル化社会の興亡 ニーズ型社会と新産業創出 マーケティング論基礎 マーケティング論応用 CIO (最高情報責任者) 概論
科学技術	日常生活とリスク 21 世紀における科学技術と社会	科学・技術の社会史 日本科学技術史 生命の思想史	改善技術論 科学技術とコミュニケーション 技術開発論 運動と重力の物理思想史 光と電子の物理思想史 科学社会学 先端技術と暮らしのイノベーション 科学技術政策論 科学技術と現代社会 技術倫理
環境・倫理・生命	国際保健医療論		開発文化論 生命倫理 健康の生態学 生物と環境適応 自然生態調査論
政治・経済・法律	企業行動と経営 現代経済の構造と変容	経済制度論 A, B 政治学 法学入門 憲法 I, II	経営戦略論 経営管理論 経済学 A (ミクロ), A (マクロ) 経済学 B (ミクロ), B (マクロ) 経済制度論 C, D 現代企業論 確率・統計基礎 確率・統計と機械学習
社会・生活	高度情報社会における人間関係	社会調査の設計 社会調査データの分析 都市と地域の社会学 社会学概論 文化人類学概論 フィールドワーク概論 観光文化論 情報とメディアの社会学 持続可能な生活とデザイン	情報倫理 都市人類学 応用人類学 都市のフィールドワーク
心理・精神・認知	ストレスと自殺 変革期の社会と心理 産業社会のメンタルヘルス		精神分析論 認知心理学 I, II 社会心理学 I, II 心理学 I, II 心理療法・心理的支援法 産業・組織心理学

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部受講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

	総合科目	基礎科目	特論科目
文化・言語・地域	生活空間の文化 文学論	人間の表現 劇場と文化 舞台芸術論 プレゼンテーションスキル 複合文章表現 01, 02, 03 身体論 比較文学論 文学表現論 食文化論 サブカルチャー論 国際交流論 人文地理学 スペイン文化研究 朝鮮半島文化研究 地域研究：スペインとスペインアメリカ	歴史社会学 伝統都市と文化遺産 過去の伝承 口頭伝承と文学 文学と科学 宗教と世界 ラテンアメリカの文化と歴史 西洋古典思想 中国の「こころ」 中国の科学と社会 東アジア文化研究 各国語圏文化論 (ドイツ語圏, フランス語圏, 中国語圏, スペイン語圏) 文化研究 (ドイツ, フランス, 東アジア, イスラム) 地域研究 (ドイツ, フランス, 中国, ロシア, アフリカ, 中南米, 英語文化圏) グローバル社会
芸術・思想・メディア	科学と芸術 音と音楽の表現領域	表現とコトバ マスタース・オブ・シネマ映画のすべて1 マスタース・オブ・シネマ映画のすべて2 プラクティカルリーズニング 哲学概論 認知とコミュニケーション 社会思想史 映像史 I, II	インターメディア作曲 I, II 音楽論 境界領域アート論 クロスメディアビジネス 芸術表現 現代マスコミ論 I, II 写真表現 I, II 心身問題研究 プロデュース特論 現在表現概論 A (美術)・B (音楽) 西洋美術史 映画から学ぶ映像表現 映像制作実習 I 映像制作実習 II 奇想のテレビドキュメンタリー論 テレビ論

領域による コース 科目 (3,4年)	基礎演習	演習	卒業論文(領域コース) ※基礎演習は, 3 年次秋学期に履修のこと。
	各領域の主な分野 —— 社会文化領域(知的財産, 産業政策, 科学技術政策/社会システム, 文化, 言語, 地域)		

(I) 総合科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
日常生活とリスク	2	○							
開発協力論	2	○							
現代経済の構造と変容	2	○							
変革期の社会と心理	2	○							
ストレスと自殺	2	○							
産業社会のメンタルヘルス	2	○							
音と音楽の表現領域	2	○							
生活空間の文化	2	○							
21 世紀における科学技術と社会	2		○						
国際保健医療論	2		○						
企業行動と経営	2		○						
高度情報社会における人間関係	2		○						
科学と芸術	2		○						
文学論	2		○						

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内
(C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の
履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

(Ⅱ) 基礎科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
国際知財政策 A	2	○							
科学・技術の社会史	2	○							
ロボット産業とイノベーション	2	○							
人文地理学	2	○							
プラクティカルリーズニング	2	○							
生命の思想史	2	○							
政治学	2	○							
社会調査の設計	2	○							
憲法 I	2	○							
経済制度論 A	2	○							
映像史 I	2	○							
社会学概論	2	○							
舞台芸術論	2	○							
文化人類学概論	2	○							
フィールドワーク概論	2	○							
文学表現論	2	○							
サブカルチャー論	2	○							
マスタース・オブ・シネマ 映画のすべて 1	1	春Q							
複合文章表現	1	春Q							
マスタース・オブ・シネマ 映画のすべて 2	1	夏Q							
複合文章表現	1	夏Q							
国際知財政策 B	2		○						
知財のグローバル化と言語の多様性	2		○						
表現とコトバ	2		○						
認知とコミュニケーション	2		○						
哲学概論	2		○						
都市と地域の社会学	2		○						
社会思想史	2		○						
法学入門	2		○						
持続可能な生活とデザイン	2		○						
人間工学とデータサイエンス	2		○						
社会調査データの分析	2		○						

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
憲法Ⅱ	2	○							
経済制度論B	2	○							
情報とメディアの社会学	2	○							
国際コンテンツビジネスと著作権	2	○							
日本科学技術史	2	○							
人間の表現	2	○							
映像史Ⅱ	2	○							
劇場と文化	2	○							
比較文学論	2	○							
観光文化論	2	○							
食文化論	2	○							
国際交流論	2	○							
身体論	2	○							
スペイン文化研究	2	○							
地域研究：スペインとスペインアメリカ	2	○							
プレゼンテーションスキル	2	集中							
複合文章表現	1		秋Q						

I 特 徴

Ⅱ 沿革と概要

Ⅲ 学部要項

Ⅳ 学生生活

Ⅴ 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内
(C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の
履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(Ⅲ) 特論科目

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
映画から学ぶ映像表現	4			○					
中国産業・知財の基礎 A	2			○					
心理学 I	2			○					
生物と環境適応	2			○					
情報倫理	2			○					
デジタル化社会の興亡	2			○					
生命倫理	2			○					
開発文化論	2			○					
雇用環境と労働	2			○					
心理療法・心理的支援法	2			○					
技術開発論	2			○					
健康の生態学	2			○					
先端技術と暮らしのイノベーション	2			○					
バイオ・イノベーションと知財	2			○					
確率・統計基礎	2			○					
経済学 A (ミクロ)	2			○					
経済学 B (ミクロ)	2			○					
経営戦略論	2			○					
経済制度論 D	2			○					
マーケティング論基礎	2			○					
認知心理学 I	2			○					
改善技術論	2			○					
知的財産と起業	2			○					
産学連携, ベンチャー起業の基礎 A	2			○					
運動と重力の物理思想史	2			○					
インターネットメディア作曲 I	4			○					
CIO (最高情報責任者) 概論	2			○					
現代マスコミ論 I	2			○					
技術倫理	2			○					

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
科学社会学	2			○					
社会心理学Ⅰ	2			○					
現在表現概論A（美術）	2			○					
西洋美術史	2			○					
朝鮮半島文化研究	2			○					
歴史社会学	2			○					
中国の「こころ」	2			○					
過去の伝承	2			○					
ラテンアメリカの文化と歴史	2			○					
地域研究：中国	2			○					
イスラム文化研究	2			○					
地域研究：中南米	2			○					
フランス文化研究*	2			○					
ニーズ型社会と新産業創出	2			集中					
科学技術とコミュニケーション	2				○				
音楽論	2				○				
奇想のテレビドキュメンタリー論	2				○				
産業・組織心理学	2				○				
精神分析論	2				○				
中国産業・知財の基礎B	2				○				
心理学Ⅱ	2				○				
現代企業論	2				○				
科学技術政策論	2				○				
自然生態調査論	2				○				
産業政策とデジタルコンテンツ論の基礎	2				○				
確率・統計と機械学習	2				○				
経済学A（マクロ）	2				○				
経済学B（マクロ）	2				○				
経営管理論	2				○				
経済制度論C	2				○				

I 特 徴
Ⅱ 沿革と概要
Ⅲ 学部要項
Ⅳ 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴	学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
			第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
			春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
II 沿革と概要	マーケティング論応用	2				○				
III 学部要項	認知心理学Ⅱ	2				○				
IV 学生生活	産業・技術移転論	2				○				
V 付 録	産学連携、ベンチャー起業の基礎B	2				○				
	境界領域アート論	2				○				
1. 単位制	心身問題研究	2				○				
2. 学位・卒業	光と電子の物理思想史	2				○				
3. 進級制度	芸術表現	2				○				
4. 転部・転科	インターメディア作曲Ⅱ	4				○				
5. 学 費	クロスメディアビジネス	2				○				
6. 学科目系列	現代マスコミ論Ⅱ	2				○				
7. A 群科目	科学技術と現代社会	2				○				
8. B 群科目	社会心理学Ⅱ	2				○				
9. C 群科目	新規市場開拓としてのイノベーション経営（CSR 経営）	2				○				
10. 学科別案内 (C 群科目)	現在表現概論B（音楽）	2				○				
数学	都市のフィールドワーク	2				○				
応数	応用人類学	2				○				
機航	東アジア文化研究	2				○				
電子	伝統都市と文化遺産	2				○				
情報	地域研究：ドイツ	2				○				
通信	地域研究：フランス	2				○				
表現	地域研究：ロシア	2				○				
11. D 群科目	地域研究：アフリカ	2				○				
12. 他学部聴講	地域研究：英語文化圏	2				○				
13. 教職免許	西洋古典思想	2				○				
14. 科目登録	ドイツ文化研究*	2				○				
15. 授業時間帯	ドイツ語圏文化論（応用）*	2				○				
16. 試 験	フランス語圏文化論（応用）*	2				○				
17. レポート・ 論文作成	中国の科学と社会*	2				○				
18. 成績の表示	中国語圏文化論（応用）*	2				○				
19. 復学者の 履修方法										
20. 科目等履修生										

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
都市人類学	2				○				
宗教と世界	2				○				
口頭伝承と文学	2				○				
文学と科学	2				○				
グローバル社会	2				○				
プロデュース特論	1				秋Q				
映像制作実習Ⅰ	4					○			
写真表現Ⅰ	4					○			
スペイン語圏文化論（基礎）*	2					○			
映像制作実習Ⅱ	4						○		
テレビ論	4						○		
写真表現Ⅱ	4						○		
スペイン語圏文化論（応用）*	2						○		

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内
(C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の
履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(Ⅳ) 領域コース科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
社会文化領域基礎演習	2						○		
社会文化領域演習	4							○	○
卒業論文（社会文化）	2							○	○

※ Q はクォーターの略。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

(3) 外国語科目 (A2 群科目)

科学技術の進歩、たとえば交通手段や情報機器の発達には、地球上の人や物の交流を飛躍的に増大させた。この傾向は 21 世紀にはいってさらに増大の度を加えていくことであろう。一方で、地球上にさまざまな社会があり多種多様な文化が存在することはまぎれもない事実であり、それだけにいっそう異なる社会、異なる文化圏同士の相互理解が緊急不可欠なものとなっている。このような状況のもと、異なる文化や社会と接触し理解するのに有効な手段の 1 つが、外国語の習得である。外国語を学ぶとは、単に言語の運用能力を身につけることに留まるものではない。言語感覚を錬磨し、言語表現の可能性を模索することで、自己の表現能力を高めることでもある。そして、他を知ることによって自己を知る道でもある。学生諸君には、将来の活躍の場を広げる意味でも、外国語に積極的に取り組んでほしい。

英語

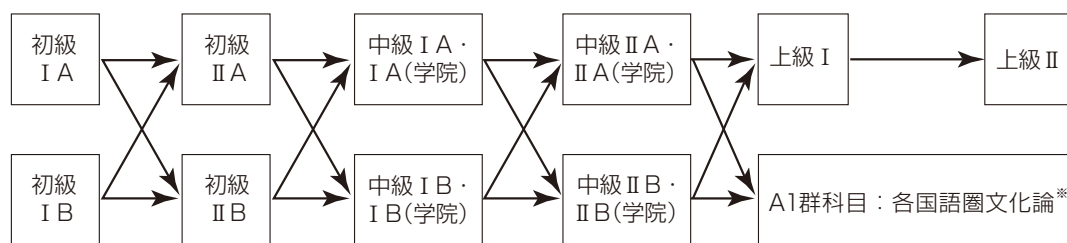
卒業までに、学科ごとに定められた所定単位数以上を修得する。すべての英語科目は全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を要する。

- ① 1 年次には、Academic Lecture Comprehension 1・2 (各 1 単位) と Communication Strategies 1・2 (各 1 単位) を履修しなければならない。尚、年度始めに開催する英語プレースメントテストの結果に基づき、クラス分けを行う。
- ② 2 年次には、Academic Reading 1・2 (各 1 単位) と Concept Building and Discussion 1・2 (各 1 単位) を履修しなければならない。尚、1 年次の年末に開催する英語統一テストの結果に基づき、クラス分けを行う。
- ③ 3 年次以降には、Technical Writing 1・2 (各 1 単位)、Technical Presentation (1 単位)、Special Topics in Functional English (1 単位) が履修できる。

初修外国語

・英語以外の理工学術院設置の外国語科目には、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語がある。

下図は半期ごとの履修例を示すものである。



※ (2) 複合文化領域科目 (A1 群科目) の科目表の「学科目名」に*のついている科目が該当する。

- ・グローバルエデュケーションセンター設置の「言語科目」を A2 群 (初修外国語) として算入することができる。詳細は「12 他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講」を参照すること。具体的な参入方法は理工学術院 Web サイト上の「科目登録の手引き」を参照すること。
- ・外国学生のための科目として、日本語教育研究センター設置の日本語科目があり、A2 群 (初修外国語) として履修することができる。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)

数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現

11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

A2 群科目履修上の注意

- ・学科目のあとに I, II を付してある学科目は、その順序に従って履修しなければならない（I の単位修得が確認できた後に、II の履修が可能となる）。

初修外国語履修上の注意

- ・学科目のあとに A を付してある学科目は言語の構造を理解し、文の形を習得するためのベーシック・トレーニングを行う。B を付してある学科目では表現を学ぶプラクティカル・トレーニングを行う。
- ・A, B を同時履修することが望ましいが、どちらか一方のみを履修することも可能。前頁の図に示されているように、I A の次に II B を履修することも可能。
- ・複数の言語の科目の同時履修も可能。
- ・文化・言語・地域の各国語圏文化論（(2) 複合文化領域科目（A1 群科目）の科目表の「学科目名」に＊のついている科目が該当）を履修するには、各国語の中級 II A か中級 II B, あるいは「学院クラス」の II A か II B の単位を修得していなければならない。ただし、該当科目担当教員が履修条件を満たしていると認めた学生についてはその限りではない。
注：スペイン語・ロシア語に上級科目は設置していない。

【既習者のための科目】

ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語の既習者には、IA（学院）、IB（学院）、IIA（学院）、IIB（学院）が準備されている。履修例については、前頁の図の学院 IA、学院 IB 以降を参照。
※主に早稲田大学高等学院の出身者を対象とする学院クラス。中級との合併。

【日本語未履修外国生のための科目】

別途、クラス担任の指示に従うこと。

(I) 英語（必修科目）

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
Academic Lecture Comprehension 1 (ALC 1)	1	○							
Academic Lecture Comprehension 2 (ALC 2)	1		○						
Communication Strategies 1 (CS 1)	1	○							
Communication Strategies 2 (CS 2)	1		○						
Academic Reading 1 (AR 1)	1			○					
Academic Reading 2 (AR 2)	1				○				
Concept Building And Discussion 1 (CBD 1)	1			○					
Concept Building And Discussion 2 (CBD 2)	1				○				
英語（必修科目）合計	8								

(Ⅱ) 英語（選択科目）

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期			
		第1年度		第2年度	
		春	秋	春	秋
Technical Writing 1 (TW 1)	1			○	
Technical Writing 2 (TW 2)	1				○
Technical Presentation (TP)	1			○	○
Special Topics in Functional English (STFE)	1			○	○

※ TP および STFE は春学期、秋学期科目を重複して履修することはできない。

(Ⅲ) 初修外国語 ドイツ語

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期			
		第1年度		第2年度	
		春	秋	春	秋
独語 初級 I A	1	○			
独語 初級 I B	1	○			
独語 初級 II A	1		○		
独語 初級 II B	1		○		
独語 I A（学院クラス）	1	○			
独語 I B（学院クラス）	1	○			
独語 II A（学院クラス）	1		○		
独語 II B（学院クラス）	1		○		
独語 中級 I A	1			○	
独語 中級 I B	1			○	
独語 中級 II A	1			○	
独語 中級 II B	1			○	
独語 上級 I	1				○
独語 上級 II	1				○

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内 (C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・ 論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の 履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(Ⅳ) 初修外国語 フランス語

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
仏語 初級ⅠA	1	○							
仏語 初級ⅠB	1	○							
仏語 初級ⅡA	1		○						
仏語 初級ⅡB	1		○						
仏語 ⅠA（学院クラス）	1	○							
仏語 ⅠB（学院クラス）	1	○							
仏語 ⅡA（学院クラス）	1		○						
仏語 ⅡB（学院クラス）	1		○						
仏語 中級ⅠA	1			○					
仏語 中級ⅠB	1			○					
仏語 中級ⅡA	1				○				
仏語 中級ⅡB	1				○				
仏語 上級Ⅰ	1					○			
仏語 上級Ⅱ	1						○		

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)

(Ⅴ) 初修外国語 中国語

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
中国語 初級ⅠA	1	○							
中国語 初級ⅠB	1	○							
中国語 初級ⅡA	1		○						
中国語 初級ⅡB	1		○						
中国語 ⅠA（学院クラス）	1	○							
中国語 ⅠB（学院クラス）	1	○							
中国語 ⅡA（学院クラス）	1		○						
中国語 ⅡB（学院クラス）	1		○						
中国語 中級ⅠA	1			○					
中国語 中級ⅠB	1			○					
中国語 中級ⅡA	1				○				
中国語 中級ⅡB	1				○				
中国語 上級Ⅰ	1					○			
中国語 上級Ⅱ	1						○		

数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

(Ⅵ) 初修外国語 スペイン語

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
スペイン語 初級ⅠA	1	○							
スペイン語 初級ⅠB	1	○							
スペイン語 初級ⅡA	1		○						
スペイン語 初級ⅡB	1		○						
スペイン語 中級ⅠA	1			○					
スペイン語 中級ⅠB	1			○					
スペイン語 中級ⅡA	1				○				
スペイン語 中級ⅡB	1				○				

(Ⅶ) 初修外国語 ロシア語

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
露語 初級ⅠA	1	○							
露語 初級ⅠB	1	○							
露語 初級ⅡA	1		○						
露語 初級ⅡB	1		○						
露語 ⅠA (学院クラス)	1	○							
露語 ⅠB (学院クラス)	1	○							
露語 ⅡA (学院クラス)	1		○						
露語 ⅡB (学院クラス)	1		○						
露語 中級ⅠA	1			○					
露語 中級ⅠB	1			○					
露語 中級ⅡA	1				○				
露語 中級ⅡB	1				○				

※ Q はクォーターの略。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

8 数学，自然科学，実験・実習・制作，情報関連科目（B 群科目）

専門の基礎を与えることを目標にしている学科目で、数学，物理学，化学，理工学基礎実験，情報関連科目がこれにあたる。各学科が必修科目として指定する学科目を履修し，系列内の所定単位数を修得すること。

（1）学科別必修科目・選択科目，所定単位数

数学科，応用数理学科

	必修科目									
系列	数学（B1 群）			自然科学（B2 群）			実験・実習・制作（B3 群）		情報関連科目（B4 群）	
学科目名	基礎の数学	数学 A2	数学 B2	物理学		化学	理工学基礎実験		プログラミング入門	プログラミング
				基礎物理学A	基礎物理学B	化学C	1A	1B		
所定単位数	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 通年 (5 単位)	1 年 通年 (6 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	1 年 春学期 (3 単位)	1 年 秋学期 (3 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)
	13 単位			4 単位		2 単位	6 単位		4 単位	

	選択科目			
系列	情報関連科目（B4 群）			
学科目名	Java プログラミング 入門	Java プログラミング	数値 シミュレーション	ハイパフォーマンス コンピューティング
単位数	3 年 春学期 (2 単位)	3 年 秋学期 (2 単位)	3,4 年 春学期 (2 単位)	3,4 年 秋学期 (2 単位)

機械科学・航空宇宙学科

	必修科目										
系列	数学（B1 群）			自然科学（B2 群）			実験・実習・制作（B3 群）			情報関連科目（B4 群）	
学科目名	基礎の数学	数学 A2	数学 B2	物理学		化学	理工学基礎実験			プログラミング入門	プログラミング
				基礎物理学A	基礎物理学B	化学C	1A	1B	2A		
単位数	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 通年 (5 単位)	1 年 通年 (6 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	1 年 春学期 (3 単位)	1 年 秋学期 (3 単位)	2 年 春学期 (2 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)
所定単位数	13 単位			4 単位		2 単位	8 単位			4 単位	

	選択科目				
系列	情報関連科目（B4 群）				
学科目名	FORTRAN プログラミング 入門	Java プログラミング 入門	FORTRAN プログラミング	Java プログラミング	アプリケーション 開発環境
単位数	2 年 春学期 (2 単位)	2 年 春学期 (2 単位)	2 年 秋学期 (2 単位)	2 年 秋学期 (2 単位)	3 年 春学期 (2 単位)

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

電子物理システム学科，表現工学科

	必修科目										
系列	数学（B1 群）			自然科学（B2 群）			実験・実習・制作（B3 群）			情報関連科目（B4 群）	
学科目名	基礎の数学	数学 A2	数学 B2	物理学		化学	理工学基礎実験			プログラミング入門	プログラミング
				基礎物理学A	基礎物理学B	化学C	1A	1B	2A		
単位数	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 通年 (5 単位)	1 年 通年 (6 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	1 年 春学期 (3 単位)	1 年 秋学期 (3 単位)	2 年 春学期 (2 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)
所定単位数	13 単位			4 単位		2 単位	8 単位			4 単位	

	選択科目							
系列	情報関連科目（B4 群）							
学科目名	FORTRAN プログラミング 入門	Java プログラミング 入門	FORTRAN プログラミング	Java プログラミング	C#アプリケーション 開発入門	数値 シミュレーション	ハイパフォーマンス エンジニアリング	
単位数	2 年 春学期 (2 単位)	2 年 春学期 (2 単位)	2 年 秋学期 (2 単位)	2 年 秋学期 (2 単位)	3 年 春学期 (2 単位)	3,4 年 春学期 (2 単位)	3,4 年 秋学期 (2 単位)	

情報理工学科

	必修科目										
系列	数学（B1 群）			自然科学（B2 群）			実験・実習・制作（B3 群）			情報関連科目（B4 群）	
学科目名	基礎の数学	数学 A2	数学 B2	物理学		化学	理工学基礎実験			プログラミング入門	プログラミング
				基礎物理学A	基礎物理学B	化学C	1A	1B	2A		
所定単位数	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 通年 (5 単位)	1 年 通年 (6 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	1 年 春学期 (3 単位)	1 年 秋学期 (3 単位)	2 年 春学期 (2 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)
	13 単位			4 単位		2 単位	8 単位			4 単位	

	選択科目			
系列	情報関連科目（B4 群）			
学科目名	FORTRAN プログラミング 入門	FORTRAN プログラミング	C#アプリケーション 開発入門	数値 シミュレーション
単位数	2 年 春学期 (2 単位)	2 年 秋学期 (2 単位)	3 年 春学期 (2 単位)	3,4 年 春学期 (2 単位)

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内
(C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

情報通信学科

	必修科目										
系列	数学（B1 群）			自然科学（B2 群）			実験・実習・制作（B3 群）			情報関連科目（B4 群）	
学科目名	基礎の 数学	数学 A2	数学 B2	物理学		化学	理工学基礎実験			プログラミング 入門	プログラミング
				基礎 物理学A	基礎 物理学B	化学C	1A	1B	2A		
所定単位数	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 通年 (5 単位)	1 年 通年 (6 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	1 年 春学期 (3 単位)	1 年 秋学期 (3 単位)	2 年 春学期 (2 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)
	13 単位			4 単位		2 単位	8 単位			4 単位	

	選択科目			
系列	情報関連科目（B4 群）			
学科目名	FORTRAN プログラミング 入門	FORTRAN プログラミング	Cアプリケーション 開発環境	数値 シミュレーション
単位数	2 年 春学期 (2 単位)	2 年 秋学期 (2 単位)	3 年 春学期 (2 単位)	3,4 年 春学期 (2 単位)

B 群科目履修上の注意

- ・専門教育科目（C 群科目）中で、指定された数学，自然科学の学科目の単位を修得しなければ履修できない学科目があるので，科目登録にあたってはこの履修順序に注意すること。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

(I) 数学配当表

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
基礎の数学	2	○							
数学A 2 (線形代数)	5	○	○						
数学B 2 (微分積分)	6	○	○						
数学E (関数論)	2					○			

(II) 物理学配当表

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
基礎物理学A	2	○							
基礎物理学B	2		○						

(III) 化学配当表

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
化学C	2		○						

(IV) 生命科学配当表

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
生命科学概論A	2					○			
細胞生物学A	2						○		

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の
履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(V) 実験・実習・制作配当表

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
理工学基礎実験 1 A	3	○							
理工学基礎実験 1 B	3		○						
理工学基礎実験 2 A	2			○					
地球科学実験	2			集中					
生物学実験	1					集中			

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

(VI) 情報関連科目配当表

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
C プログラミング入門	2	○							
C プログラミング	2		○						
FORTRAN プログラミング入門	2			○					
Java プログラミング入門	2			○		(○)*			
FORTRAN プログラミング	2				○				
Java プログラミング	2				○		(○)*		
C アプリケーション開発	2					○			
数値シミュレーション	2					○			
ハイパフォーマンスコンピューティング	2						○		

※数学科，応用数理学科の Java プログラミング入門，Java プログラミングの履修は第3年度。

9 専門教育科目、基幹共通科目（C 群科目）

専門教育科目は、専門必修科目、専門選択必修科目、専門選択科目および自由科目に分かれる。

(1) 専門必修科目

この学科目は、各学科の性格を特色づけるものである。学生諸君は、所属学科配当の学科目を、配当年度に従って履修しなければならない。

(2) 専門選択必修科目

この学科目は、指定された範囲から必ず所定の科目を履修し、定められた単位を修得しなければならない。

※基幹理工学部では、次の2科目を学系別の共通専門選択必修科目（C 群科目）として設置しており、本学部に所属する教員が講義を担当している。

学系Ⅰ

数理科学展望（1 年次春学期 2 単位）

集合入門（1 年次秋学期 2 単位）

学系Ⅱ

工学系のモデリング A（1 年次春学期 2 単位）

工学系のモデリング B（1 年次秋学期 2 単位）

学系Ⅲ

情報通信基礎（1 年次春学期 2 単位）

メディア表現技術の基礎（1 年次秋学期 2 単位）

(3) 専門選択科目

この学科目は、学生各人の希望によって選択・履修できるものであって、各年度に配当されている学科目の中から選択修得しなければならない。

※専門選択必修科目および専門選択科目の中で、大学院進学の際に単位修得が義務づけられている学科目、単位修得が望ましいとされている学科目等がある。詳細については、年度始めのガイダンスで確認すると共に、疑問がある場合はクラス担任に相談すること。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内
(C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の
履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(4) 基幹共通科目

この学科目は、基幹理工学部の2年生以上を対象とした学部共通の選択科目であって、各学科が定めたルールに基づいて選択履修できる。基幹共通科目と各学科の選択指定科目は下表の通りである。

基幹共通科目	数学科	応用数理 学科	機械科学・ 航空宇宙 学科	電子物理 システム 学科	情報理工 学科	情報通信 学科	表現工学科
フーリエ解析(基幹)			○	○	○	○	○
微分方程式(基幹)				○	○	○	○
ベクトル解析(基幹)				○	○	○	○
複素関数論(基幹)					○	○	○
続線形代数(基幹)	○	○	○	○	○	○	○
電磁気学(基幹)			○		○	○	○

※「○」の付いていない科目は履修することができない。

履修した科目は、各学科の定めるルールに従って、卒業必要単位に算入できる。各学科が定める基幹共通科目の所定単位数を超えて単位修得した場合、超過分は卒業必要単位には算入されない。

基幹共通科目の開講状況に関しては、年度始めに発表する。

(5) 自由科目

この学科目は、合格点を取れば単位を与えられ、成績通知書にも記入されるが、卒業必要単位には算入されない。

C 群科目履修上の注意

- ・学科目名の次に番号（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ）等を付してある学科目、および特に履修順序の指定されている学科目は、先行して履修すべき学科目の単位を修得していなければ、次の学科目を履修できない。
- ・学科目名の次に A，B，C のついている学科目履修の順序に規定はない。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

10 学科別 C 群科目配当表および学修案内

数 学 科

数学科は、数学を幅広く捉え、代数・幾何・解析・統計から計算機科学に至る広範な数学の知識を修得できる学科である。整数論、代数幾何学、代数解析学、微分幾何学、トポロジー、偏微分方程式論、実解析学、変分問題、数学基礎論、確率論、数理物理学のスタッフがそろい、日本でも類を見ない充実を見ており、それが可能となっている。さらに、応用数理学科と密接な連携を取ることで、応用数学に関してもカリキュラムの一層の充実が実現されている。

所定単位数

	専門必修科目	専門選択必修科目	専門選択科目	
			学科専門選択科目	基幹共通科目
			24～26 単位	0～2 単位
所定単位数	30 単位	20 単位※ ¹	26 単位※ ²	

※¹ 専門選択必修科目のうち 20 単位を超えるものについては、専門選択科目に算入する。

※² 数学科と共通しない応用数理学科の専門教育科目も 12 単位を上限として数学科専門選択科目の所定単位に算入できる。ただし代数学基礎は、類似内容の科目が数学科にあるため算入できない。

数学講究着手の条件

1. 卒業に必要な 126 単位のうち 90 単位以上を修得していること。
2. A 群科目を 14 単位以上修得していること。
3. B 群科目を 27 単位以上修得していること。
4. C 群専門必修科目を 20 単位以上修得していること。

数学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期			
		第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	第 4 年度
		春 秋	春 秋	春 秋	春 秋
代数学序論	4		○ ○		
代数学 A	4		○ ○		
ベクトル空間と幾何	4		○ ○		
多変数解析	4		○ ○		
解析学入門	4		○ ○		
位相入門	2		○		
現代数学演習	2			○	
関数論 A	2			○	
数学講究 A	2				○
数学講究 B	2				○
専門必修科目合計	30				

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内
(C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

(Ⅱ) 専門選択必修科目 (20 単位※以上修得すること)

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
【学系Ⅰ】									
数理科学展望	2	○							
集合入門	2		○						
【学系Ⅱ】									
工学系のモデリングA	2	○							
工学系のモデリングB	2		○						
【学系Ⅲ】									
情報通信基礎	2	○							
メディア表現技術の基礎	2		○						
【数学科】									
測度論	4					○	○		
関数解析A	4					○	○		
関数論B	2					○			
数学基礎論A	2					○			
代数学B 1	2					○			
代数学C 1	2					○			
幾何学B 1	2					○			
数学基礎論B	2						○		
代数学B 2	2						○		
代数学C 2	2						○		
幾何学B 2	2						○		
幾何学C	2						○		
物理数学	2						○		
専門選択必修科目合計	42								

※第1年度設置科目から該当の学系に設置されている科目を4単位、第2年度以降設置科目から16単位を修得しなければならない。第1年度設置科目は、4単位を超えて修得した単位は卒業に必要な単位数として算入されない。第2年度以降設置科目は、16単位を超えて修得した単位については、専門選択科目に算入する。

(Ⅲ) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
計算機概論	2					○			
確率統計概論 A	2					○			
保険数学	2						○		
数学特別演習	2						○		
数式処理プログラミング	2						○		
確率統計概論 B	2						○		
代数学 D 1	2							○	
代数学 E 1	2							○	
幾何学 E 1	2							○	
関数論 C	2							○	
関数解析 B	2							○	
応用数学 A	2							○	
数学史	2							○	
微分方程式 1	2							○	
確率論 A	2							○	
数理科学特別講義 C	2							集中	
数理科学特別講義 E	2							集中	
代数学 D 2	2								○
代数学 E 2	2								○
幾何学 D 1	2								○
幾何学 D 2	2								○
幾何学 E 2	2								○
関数論 D	2								○
上級解析	2								○
応用数学 B	2								○
計画数学	2								○
数学と文化史	2								○
応用トポロジー	2								○
卒業研究	2								○
微分方程式 2	2								○
確率論 B	2								○
数理科学特別講義 A	2							集中	
数理科学特別講義 B	2							集中	
数理科学特別講義 D	2								秋Q
専門選択科目合計	68								

※このほかに、数学科と共通しない応用数理学科の専門科目も 12 単位を上限として数学科専門科目の卒業単位に算入できる。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(Ⅳ) 基幹共通科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
続線形代数（基幹）	2			○					
基幹共通科目合計	2								

※上記1科目以外の基幹共通科目は履修できない。

※開講学期・時間割等はシラバスで確認すること。

※ Q はクォーターの略。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

応用数理学科

応用数理学科では数学の基礎を学習した上で、理工学や社会科学に現れる現象の本質を数理的に抽出する力を身につけることができるように科目を設置している。設置科目は、講義、実験、演習科目に分かれている。まず、数学の基礎を丁寧に学習するために、数学系の科目は2年次、3年次のうちに履修できるように配置されている。

一方、熱統計力学・電磁気学・量子力学などの物理的なセンスを養う科目、プログラミング・回路理論・情報理論などの情報数理に接するための科目、確率統計概論・数理統計学・保険数理などの社会現象を分析・モデル化するための科目は3年次以降に配置されている。これらの科目、および数学系の科目のうち、学科全体の共通基盤となる最重要科目は必修科目となっている。また、3年次と4年次の設置科目を共通化し、個々の学生の興味・特性に合わせて高度な内容の科目も柔軟に履修できる仕組みを設けている。

さらに、実験科目「応用数理実験」を設置し、現実の対象に対するセンスを磨き、対象を数理モデルとしてどのように表現するかを学ぶ機会も与えられている。また、4年次で研究室配属を行い、きめ細かい研究指導を実施している。

所定単位数

	専門必修科目	専門選択必修科目	専門選択科目	
			学科専門選択科目	基幹共通科目
			23～25単位	0～2単位
所定単位数	31単位	20単位※ ¹	25単位※ ²	

※¹ 専門選択必修科目のうち20単位を超えるものについては、専門選択科目に算入する。

※² 応用数理学科と共通しない数学科の専門教育科目も16単位を上限として応用数理学科専門選択科目の所定単位数に算入できる。

応用数理講究着手の条件

1. 卒業に必要な126単位のうち90単位以上を修得していること。
2. A群科目を14単位以上修得していること。
3. B群科目を27単位以上修得していること。
4. C群専門必修科目を20単位以上修得していること。

応用数理学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期			
		第1年度	第2年度	第3年度	第4年度
		春 秋	春 秋	春 秋	春 秋
応用数理概論	2		○ ○		
常微分方程式入門	2		○		
応用数理演習A	2		○		
代数学基礎A	2		○		
集合と位相入門A	2		○		
複素関数論入門	2		○		

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学
応数

機航
電子

情報
通信

表現

11. D群科目

12. 他学部受講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)

数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
確率と統計の基礎	2			○					
プログラミング基礎A	2			○					
回路理論	2			○					
集合と位相入門B	2				○				
応用数理演習 B	2				○				
応用数理実験	1					○			
情報理論	2					○			
応用数理演習 C	2					○			
応用数理講究 A	2							○	
応用数理講究 B	2								○
専門必修科目合計	31								

(Ⅱ) 専門選択必修科目 (20 単位※以上修得すること)

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
【学系Ⅰ】									
数理科学展望	2	○							
集合入門	2		○						
【学系Ⅱ】									
工学系のモデリングA	2	○							
工学系のモデリングB	2		○						
【学系Ⅲ】									
情報通信基礎	2	○							
メディア表現技術の基礎	2		○						
【応用数理学科】									
ベクトル解析と幾何	2				○				
代数学基礎B	2				○				
測度と積分入門	2				○				
プログラミング基礎B	2				○				
フーリエ解析入門	2				○				
確率統計概論A	2					○			
微分方程式と数理モデル	2					○			

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
コンピューティングの数理	2					○			
数値計算 A	2					○			
確率統計概論 B	2						○		
応用トポロジー	2						○		
関数解析入門	2						○		
数値計算 B	2						○		
専門選択必修科目合計	38								

※第1年度設置科目から該当の学系に設置されている科目を4単位、第2年度以降設置科目から16単位を修得しなければならない。第1年度設置科目は、4単位を超えて修得した単位は卒業に必要な単位数として算入されない。第2年度以降設置科目は、16単位を超えて修得した単位については、専門選択科目に算入する。

(Ⅲ) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
関数論 A	2				○				
測度論	4					○	○		
代数学序論	4					○	○		
関数解析 A	4					○	○		
関数論 B	2					○			
電磁気学	2					○			
計算機概論	2					○			
ビジネスと確率の数理	2					○			
離散数学入門	2					○			
応用代数学	2					○			
数学基礎論 A	2					○			
幾何学 B 1	2					○			
保険数理	2						○		
確率過程論	2						○		
数理物理	2						○		
熱・統計力学	2						○		
流体の数理	2						○		
量子力学の数理 A	2						○		
数式処理プログラミング	2						○		
データサイエンス基礎	2						○		

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の履修方法

20. 科目等履修生

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
暗号とセキュリティの数理	2						○		
統計的推測論	2							○	
最適化の数理	2							○	
量子力学の数理B	2							○	
基幹理工学特論B	2							○	
基幹理工学特論C	2							○	
微分方程式 1	2							○	
数理科学特別講義 C	2							集中	
数理科学特別講義 E	2							集中	
基幹理工学特論 A 1	1							春Q	
基幹理工学特論 A 2	1							夏Q	
時系列解析	2								○
デジタル系の数理	2								○
微分方程式 2	2								○
数理科学特別講義 A	2								集中
数理科学特別講義 B	2								集中
数理科学特別講義 D	2								秋Q
卒業研究	2								○
専門選択科目合計	80								

※このほかに、応用数理学科と共通しない数学科の専門科目も 16 単位を上限として応用数理学科専門科目の卒業単位に算入できる。

(IV) 基幹共通科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
続線形代数（基幹）	2			○					
基幹共通科目合計	2								

※上記 1 科目以外の基幹共通科目は履修できない。

※開講学期・時間割等はシラバスで確認すること。

※ Q はクォーターの略。

機械科学・航空宇宙学科

機械科学・航空宇宙学科は、1つの大きな特異分野であると考えられてきた航空宇宙分野を、広い意味で機械工学分野の一部と捉えなおし、その分野に対して新たに展開する意図で設立されている。

教育面では科学系の数学・物理などの基礎を背景とした機械系力学すなわち材料力学、流体力学、熱力学およびメカニクス（力学）を中心とした講義、演習、実験、実習をベースとする。これらの学問は、過去の実績や未来を展望するとき、機械系エンジニアがあらゆる産業界で高い信頼を得て永続的活動をするために必修であり、世界に共通するエンジニアとしての道具である。さらに、これらの学問やさまざまな技術を統合して、あらゆる問題を解決する高い能力を備えたエンジニアの養成を目指す。この系統的な学術大系に立脚し、学部と大学院修士課程の一貫教育を原則とする。これらの学問体系は既存技術の高度化・発展に役立つだけでなく、深い造詣とほかの追隨を許さない新分野展開にも応用できると信じている。

一方、研究面では、航空宇宙を加えた新しい分野で着実な研究を展開していく。学部・大学院のコース制度を充実させ、今後は機械工学および航空宇宙分野のより一層の発展のみならず、さらに高速安全化輸送、高度動力エネルギー、高機能性材料・加工、高精度モデリングなどの分野にも展開させて行く。

所定単位数

	専門必修科目	専門選択必修科目	専門選択科目	
			学科専門選択科目	基幹共通科目
			23～27単位	0～4単位
所定単位数	43単位	4単位	27単位	

卒業論文着手の条件

機械科学・航空宇宙学科では、4年次に「卒業論文」を必修科目として履修する。卒業論文は機械科学・航空宇宙学科における教育の中核をなし、自主的な学習態度が強く要求されると共に、大学院における各専攻分野での教育・研究の出発点となるものである。卒業論文を履修するためには、原則的に、次の条件を満足しなければならない。詳細な条件については、各年度毎にクラス担任より説明がある。

- 1. 第3年度までのA群、B群の必修科目、およびC群の専門必修科目と専門選択必修科目の単位を修得していること。
- 2. A群については、必修科目を含めて18単位を修得していること。

機械科学・航空宇宙学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期			
		第1年度	第2年度	第3年度	第4年度
		春 秋	春 秋	春 秋	春 秋
工学系の数理Ⅰ	2		○		
材料の力学Ⅰ	3		○		
機械材料学	2		○		
熱力学Ⅰ	3		○		
加工学・実習F	3		○		

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
機械製図法 F	2				○				
工学系の数理 2	2				○				
材料の力学 2	2				○				
ダイナミクス	2				○				
熱力学 2	2				○				
工学系の解析設計演習	3					○			
機械設計法 F	2					○			
流体の力学 1	3					○			
機械科学・航空宇宙実験 1	2					○			
流体の力学 2	2						○		
機械科学・航空宇宙実験 2	2						○		
卒業論文	6							○	○
専門必修科目合計	43								

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)

(Ⅱ) 専門選択必修科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
【学系Ⅰ】									
数理科学展望	2	○							
集合入門	2		○						
【学系Ⅱ】									
工学系のモデリングA	2	○							
工学系のモデリングB	2		○						
【学系Ⅲ】									
情報通信基礎	2	○							
メディア表現技術の基礎	2		○						
専門選択必修科目合計	12								

※該当の学系に設置されている科目から 4 単位を修得しなければならない。4 単位を超えて修得した単位は卒業に必要な単位数として算入されない。

11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

(Ⅲ) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
航空材料学	2				○				
伝熱工学	2					○			
弾性力学	2					○			
精密工学	2					○			
凝固・鋳造工学	2					○			
機械製図法A	2						○		
制御工学	2						○		
ターボ機械	2						○		
加工学・実習A	2						○		
解析力学	2						○		
ガスタービン・ジェットエンジン概論	2						○		
燃焼工学	2						○		
破壊力学	2						○		
航空構造力学	2						○		
塑性力学・塑性加工学	2						○		
機械設計法A	2							○	
電子・電機実験	2							○	
制御系の設計と応用	2							○	
高速流体力学	2							○	
エネルギー変換工学	2							○	
統計力学	2							○	
数値計算法	2							○	
鉄鋼材料学	2							○	
基幹理工学特論B	2							○	
基幹理工学特論C	2							○	
基幹理工学特論A 1	1							春Q	
基幹理工学特論A 2	1							夏Q	
有限要素法	2								○
専門選択科目合計	54								

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(IV) 基幹共通科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
続線形代数（基幹）	2			○					
電磁気学（基幹）	2			○					
フーリエ解析（基幹）	2				○				
基幹共通科目合計	6								

※上記3科目以外の基幹共通科目は履修できない。

※4単位までC群専門選択科目として卒業必要単位に算入できる。

※開講学期・時間割等はシラバスで確認すること。

※Qはクォーターの略。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

電子物理システム学科

電子物理システム学科は物理学に基礎を置くと同時に、電子と光の科学技術を基盤として、これらを専門的かつ体系的に修得し、この学問領域の基礎の理解と高度な応用力とを涵養することを目的として設立された。

物理学は物質の構造、熱、および電磁気的作用を中心に扱う学問である。長い歴史を経て完成し、恒久普遍的で、自然科学の中心をなす。電子物理システム学科では、解析力学、電磁気学、量子力学、熱統計力学、固体物理を基礎科目として位置づけ、必修科目に指定している。物質は原子や分子で構成されている。温度が変わると、物質の構造が変化する。原子や分子は主に電気と光のエネルギーを介して相互作用し、自然界のさまざまな事象となって現れる。もうそれ以上に小さく分割できない基本的な物理量を量子とよび、電子や光子は量子の1つである。これらの基本原理と現象は、材料、電気電子回路、光工学などの基盤をなすだけでなく、化学や生物といった垣根を越えた分野の基礎も築く。

一方、自然科学における原理と現象を応用し、役立てるための技術が工学である。この工学領域の基礎をなすのが、電磁気学、電気回路・電子回路、情報理論・情報数学であり、これらの基礎科目もまた本学科の必修科目に位置づけられている。今日の高度情報化社会では電気と光のエネルギーが利用される。さまざまな自然現象は、熱、電気、光エネルギーの変化として観察され、電気・光信号として高速に伝達される。高速化、高精度化、省エネルギー化に向けて、今日のセンサや電子素子はナノスケールの精度で製造されている。ミクロの世界で起こるさまざまな自然現象を理解するだけでなく、それを手に取って扱えるサイズの機器に具現化し、役立てることで、安心・安全と豊かな暮らしや経済活動が成り立っている。ミクロからマクロまで、そしてナノテクノロジーからバイオ医用応用まで、幅広い選択科目を本学科は備えている。

このように、本学科では、恒久普遍的な物理に立脚しつつ、それを工学的に活用するための知識と技能を修得できる。基礎を重視したカリキュラムとなっており、2年生の専門科目はすべて必修科目である。必修科目のそれぞれに対応する演習実験科目が設置されており、演習や実験を通した基礎の定着に重きが置かれている。学年が進むにつれてより専門的な内容へと発展するので、3年生以降では、必修科目に加えて選択科目を履修することになる。専門性をより高めたり、視野を広げたりできるよう、幅広い分野の選択科目が設置されている。4年生では、基礎物性分野、エレクトロニクス分野、フォトンクス分野、情報システム分野のいずれかの分野の研究室に所属し、卒業論文を作成する。卒業論文の内容に応じて、理学と工学のいずれかの学位を授与できることは本学科の特徴の1つである。基幹理工学部の6年一貫教育に理念に基づき、より高度で専門的な能力を習得するための大学院修士課程進学が推奨される。また、電気・電子機器メーカー、精密機器メーカー、素材メーカー、通信・放送事業者、自動車・航空宇宙などの企業、および官公庁への就職に加え、金融、商社、教育機関などへの就職が見込まれる。

所定単位数

	専門必修科目	専門選択必修科目	専門選択科目	
			学科専門選択科目	基幹共通科目
			24 単位	0 単位
所定単位数	44 単位	4 単位	24 単位	

卒業論文着手の条件

原則として本学科が第3年度までに設置している専門必修科目および専門選択必修科目のうち、指定科目についてそれらの単位を修得していることが要求される。なお、詳細については、年度当初のガイダンス時に周知する。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内
(C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

電子物理システム学科 専門教育科目配当表

(Ⅰ) 専門必修科目

学科目名	単 位 数	開 講 学 期							
		第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
解析力学	2			○					
電磁気学 A	2			○					
回路理論 A	2			○					
電子物理システム演習 A	2			○					
情報数学	2			○					
論理回路	2			○					
量子力学 A	2				○				
電磁気学 B	2				○				
回路理論 B	2				○				
電子物理システム演習 B	2				○				
電子物理システム実験 A	2				○				
熱力学	2				○				
電子デバイス	2				○				
既約表現論	2					○			
電子回路 A	2					○			
光エレクトロニクス	2					○			
電子物理システム実験 B	2					○			
電子物理システム演習 C	1					○			
電子物理システム特別概論	1					○			
電子物理システム実験 C	2						○		
電子回路 B	2						○		
卒業論文 A	2							○	
卒業論文 B	2								○
専門必修科目合計	44								

(Ⅱ) 専門選択必修科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
【学系Ⅰ】									
数理科学展望	2	○							
集合入門	2		○						
【学系Ⅱ】									
工学系のモデリングA	2	○							

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
工学系のモデリングB	2		○						
[学系Ⅲ]									
情報通信基礎	2	○							
メディア表現技術の基礎	2		○						
専門選択必修科目合計	12								

※該当の学系に設置されている科目から 4 単位を修得しなければならない。4 単位を超えて修得した単位は卒業に必要な単位数として算入されない。

(Ⅲ) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
生命科学概論 A	2					○			
数学 E (関数論)	2					○			
量子力学 B	2					○			
統計力学	2					○			
材料科学概論	2					○			
システム制御と機械学習	2					○			
細胞生物学 (概論) A	2						○		
IoT システム設計	3					○			
素材物理化学 B	2					○			
LSI アーキテクチャ	2					春Q			
情報理論	2						○		
量子化学	2						○		
伝送理論	2						○		
固体物理	2						○		
量子デバイス	2						○		
電磁気学 C	2						○		
相平衡	2						○		
マイクロ波フォトニクス	2						○		
センサ工学	2						○		
分子エレクトロニクス	2							○	
光ファイバ通信	2							○	
MEMS	2							○	
医用電子工学	2							○	
高密度集積回路工学	2							○	

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
- 数学
- 応数
- 機航
- 電子
- 情報
- 通信
- 表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)

数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目

12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
エネルギーエレクトロニクス	2							○	
センサネット	2							○	
光物性工学	2							○	
材料の機器分析	2							○	
先端情報通信技術とオープンイノベーション	2							○	
基幹理工学特論B	2							○	
基幹理工学特論C	2							○	
集積回路システム設計	2							春Q	
基幹理工学特論A 1	1							春Q	
基幹理工学特論A 2	1							夏Q	
量子力学特論	2								○
材料集積工学	2								○
専門選択科目合計	71								

(Ⅳ) 基幹共通科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
微分方程式（基幹）	2			○					
ベクトル解析（基幹）	2			○					
続線形代数（基幹）	2			○					
フーリエ解析（基幹）	2				○				
基幹共通科目合計	8								

※上記 4 科目以外の基幹共通科目は履修できない。

※ C 群専門選択科目として卒業必要単位に算入することはできない。

※開講学期・時間割等はシラバスで確認すること。

※ Q はクォーターの略。

情報理工学科

情報理工学科では、情報や計算の理論的基礎とコンピュータ上での処理を扱う情報科学と、コンピュータ・ネットワークシステムの工学的利用を扱う情報工学を融合した学問領域に関して、基礎的な専門知識を修得した上での高度な専門知識を有する学生を社会に輩出することを目指している。

情報科学・情報工学は、情報の処理と応用をもって、自然現象や技術活動および社会活動を分析し、新たな仕組みや価値を創造して人々の生活や世界に変化をもたらす学際的学問である。情報機器、スマートフォン、インターネット、ゲーム、ホームオートメーション、ロボット、超高性能コンピュータ、およびそれらを使用する全産業分野の競争力強化のため、当該技術を修得した多数の優れた人材が求められている。本学科では、ハードウェア（システム LSI 設計、超高性能コンピュータアーキテクチャ）、ソフトウェアおよび基礎（プログラミング言語、コンパイラ、ソフトウェア工学、アルゴリズム、人工知能）、ネットワーク（インターネット、マルチメディア、モバイル、セキュリティ、ユビキタスネットワーク）、コンピュータ・ネットワーク活動（ヒューマノイド、クラウド、ビッグデータ、情報検索、音楽、バイオインフォマティクス）などの最先端技術を統合的に教育・研究し、世界の科学技術の発展に貢献できる人材の育成を目指している。

情報科学・情報工学は、ハードとソフトの両面をベースとした、情報の科学的基礎と工学的応用の一体化によって成り立つ。従って同学問領域の修得を目指す学生は、情報科学と情報工学の関係の深さと、それら基礎の重要性を認識する必要がある。社会的にも、情報科学と情報工学の基礎的な専門知識を修得した上での高度な専門知識を有することが要請されている。

専門知識の修得に加えて、学生に要求される資質は多岐にわたる。例えば、想像力、解析能力、コミュニケーション能力、チャレンジ精神、知識の自己培養、開発・研究のセンス、ベンチャー指向、集団思考からの脱皮、問題設定力、課題探求力、統率力、国際性などの資質が学生に要求されている。それら資質を助長するように、多くの講義は組み立てられているので、学生諸君は、専門科目を単に学ぶことで満足することなく、なお一層の精進により、自己の向上を目指して、大きな目的意識をもって積極的かつ自発的に取り組んでほしい。さまざまな分野に積極的に挑戦して、成功と失敗を繰り返すことによって、経験を積み、判断能力を高め、自己啓発を図ることを望みたい。

教育体系に関しては、最先端のハード・ソフト・ネットワークとその活用技術がバランス良く習得できるシステムを用意している。世界標準とも言える IEEE/ACM Computing Curricula をベースとしつつ、情報科学と情報工学により重点を置いたカリキュラムの設計により、個々人の能力を最大限に伸ばし世界で活躍できる技術者の育成を目指している。例えば、各科目を 1 学期で集中的に学べるセメスター制（週 2 回講義）、少人数クラス並列授業、大学院科目の先取り履修、学部 3 年から最先端研究が行えるプロジェクト研究などの新しい教育方式も導入している。また、実践力向上のために、Waseda Vision Next 150 が目指す「対話型、問題解決型教育」に重点を置いた座学に留まらない知識習得のための演習科目、および、産業界における実践的知識・技術の習得のための「システム開発プロジェクト基礎」といった産業界協力科目を多数設置している。大学院においても学部での教育内容と有機的関連を持たせてカリキュラム編成を行っており、学部一大学院一貫教育をコンセプトに、計画性のある人材育成とそれに基づく研究の活性化を図っているため、意欲のある学生は、大学院進学を念頭において学生生活を設計してほしい。さらに本学科では、英語による授業のみで学位を取得できる英語学位プログラムを併設しており、相互乗り入れにより留学生との交流を促すとともに、海外留学やインターンシップを推奨する。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内
(C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

情報科学・情報工学は、情報・電気・電子・通信・放送・金融・商社・交通・自動車・航空宇宙・バイオ・官公庁・教育などの種々の分野で求められており、またベンチャーなどの新しいビジネスチャンスにも恵まれ、幅広い分野での活躍が期待される。情報理工学科では、情報科学・情報工学を基礎から最先端、ハードウェアからソフトウェアまで、相互の関係を考慮しながら、バランスよく有機的に理解させる教育体系を構築しているので、情報技術の急速な進展に対する強い社会的な要請に鑑み、卒業生への求人はますます増大されることが予想される。

所定単位数

	専門必修科目	専門選択必修科目	専門選択科目	
			学科専門選択科目	基幹共通科目
			21～25 単位	0～4 単位
			25 単位	

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)

卒業論文着手の条件

情報理工学科において卒業論文 A 及び卒業論文 B を履修するためには、4 年次進級時点で、原則的に下表の卒論着手条件を満足しなければならない。なお、卒論着手必要総単位数（下表の※ 1）を含めた卒論着手条件の詳細については、年度当初のガイダンス時に周知する。

系列	A ～ C 群の所定単位数														A～D 群、その他から任意に選択できる単位数	合計	備考	
	A 群				B 群				C 群						D 群			
	A1	A2			B1	B2		B3	B4	専門教育科目								選択任意
	複合領域科目	英語または初修外国語	英語必修	数学	自然科学		実験・実習・制作	情報関連科目	必修2年	必修3年		必修4年	選択必修	選択	保健体育・自主挑戦科目			
物理学					化学	右記以外				情報理工実験B								
卒業に必要な単位数	10	8	13	4	2	8	4	21	16	2	4	4	25	5	126	本学部要項のⅢ-6の(3)を参照		
卒論着手条件	10	8	13	4	2	8	4	21	14	—	—	4	—	—	※1 ※2	各系列で必要な最低単位数を示す		

注意：各系列の必要最低単位数を満たすだけでなく卒論着手必要総単位数（※ 1）を満たさなければならない。
「卒論着手条件（※ 2）」に示す単位数は「卒業に必要な単位数」に示す単位数の内数であり、卒業に必要な単位数に算入されない単位は含まれない。

情報理工学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期			
		第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	第 4 年度
		春	秋	春	秋
プログラミング A	3		○		
情報数学 A	2		○		
回路理論	2		○		
論理回路	2		○		
アルゴリズムとデータ構造 A	2		○		
情報理工学実験 A	2			○	
コンピュータアーキテクチャ A	2			○	
電子回路	2			○	
情報数学 B	2			○	
アルゴリズムとデータ構造 B	2			○	
情報通信ネットワーク A	2				○

11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期			
		第1年度	第2年度	第3年度	第4年度
		春 秋	春 秋	春 秋	春 秋
情報理工学実験B	2			○	
ソフトウェア工学A	2			○	
オペレーティングシステムA	2			○	
プログラミングB	2			○	
言語処理系	2			○	
コンピュータアーキテクチャB	2				○
プログラミング言語	2				○
データベース	2				○
卒業論文A	2				○
卒業論文B	2				○
専門必修科目合計	43				

※「卒業論文A」、「卒業論文B」を特別の事情により所定以外の学期に履修する場合は学科の承認を要する。

(Ⅱ) 専門選択必修科目 (4単位以上修得すること)

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
【学系Ⅰ】									
数理科学展望	2	○							
集合入門	2		○						
【学系Ⅱ】									
工学系のモデリングA	2	○							
工学系のモデリングB	2		○						
【学系Ⅲ】									
情報通信基礎	2	○							
メディア表現技術の基礎	2		○						
専門選択必修科目合計	12								

※該当の学系に設置されている科目から4単位を修得しなければならない。4単位を超えて修得した単位は卒業に必要な単位数として算入されない。

(Ⅲ) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期			
		第1年度	第2年度	第3年度	第4年度
		春 秋	春 秋	春 秋	春 秋
確率・統計概論	2		○		
信号処理	2		○		
情報理論A	2		○		
情報系の生命学	2			○	

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴	学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
			第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
			春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
II 沿革と概要										
III 学部要項										
IV 学生生活										
V 付 録										
1. 単位制	通信理論	2				○				
2. 学位・卒業	システム開発プロジェクト基礎	2					集中	集中		
3. 進級制度	トラヒック理論	2					○			
4. 転部・転科	プロジェクト研究 A	2					○			
5. 学 費	人工知能 A	2					○			
6. 学科目系列	IoT システム設計	3					○			
7. A 群科目	生命情報処理と ICT	2					○			
8. B 群科目	ディジタル信号処理	2					○			
9. C 群科目	情報理論 B	2					○			
10. 学科別案内 (C 群科目)	無線通信技術	2					○			
数学	グローバルビジネス世界における、サイバーセキュリティを考える	2					○			
応数	情報社会論	2						○		
機航	最適化と認識・学習	2						○		
電子	高性能計算	2						○		
情報	光通信技術	2						○		
通信	マルチメディア工学 B	2						○		
表現	エクシオグループ株式会社寄附講座 インフラ関連業界における デジタル化と安全・安心の実状・動向	2						○		
11. D 群科目	人工知能 B	2						○		
12. 他学部聴講	情報理工学実験 C	2						○		
13. 教職免許	プロジェクト研究 B	2						○		
14. 科目登録	ソフトウェア工学 B	2						○		
15. 授業時間帯	オペレーティングシステム B	2						○		
16. 試 験	情報通信ネットワーク B	2						○		
17. レポート・ 論文作成	マルチメディア工学 A	2						○		
18. 成績の表示	次世代ネットワーク	2						○		
19. 復学者の 履修方法	コミュニケーション品質理論	2						○		
20. 科目等履修生	ディジタル放送技術	2						○		
	統計解析実習	1						秋Q		
	自然言語処理	2							○	
	データマイニング	2							○	
	コンピュータグラフィクス	2							○	
	情報通信と国際標準化	2							○	
	画像情報特論	2							○	
	高信頼ソフトウェア	2							○	
	コンピュータ・アーキテクチャ特論	2							○	
	先端プロセッサ技術	2							○	
	無線通信ネットワーク	2							○	
	コンピュータービジョン	2							○	
	情報アクセス評価基盤	2							○	

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
モデリングとシミュレーション	2							○	
ネットワークサービスとビジネスモデル	2							○	
先端情報通信技術とオープンイノベーション	2							○	
基幹理工学特論B	2							○	
基幹理工学特論C	2							○	
集積回路システム設計	2							春Q	
基幹理工学特論A 1	1							春Q	
基幹理工学特論A 2	1							夏Q	
生命情報解析技術	2								○
衛星通信技術	2								○
移動通信技術	2								○
分散組込み・リアルタイム処理	2								○
情報セキュリティ基礎	2								○
情報検索	2								○
ワイヤレスアクセス特論	2								○
ソーシャルネットワークサイエンス	2								○
情報通信関連法規	2								○
SDGs と ICT	2								○
暗号プロトコル理論とブロックチェーン	2								○
デジタルコンテンツと知的財産権	2								集中
計算機支援設計	2							秋Q	
デジタルシステム設計	2							冬Q	
専門選択科目合計	130								

(Ⅳ) 基幹共通科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
微分方程式（基幹）	2			○					
ベクトル解析（基幹）	2			○					
続線形代数（基幹）	2			○					
電磁気学（基幹）	2			○					
フーリエ解析（基幹）	2				○				
複素関数論（基幹）	2				○				
基幹共通科目合計	12								

※上記 6 科目以外の基幹共通科目は履修できない。

※ 4 単位まで C 群専門選択科目として卒業必要単位に算入できる。

※開講学期・時間割等はシラバスで確認すること。

※ Q はクォーターの略。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

情報通信学科

情報通信学科では、ネットワーク技術と情報処理技術の融合技術領域である情報通信技術（ICT, Information and Communications Technology）の学問領域において、基礎的な専門知識を修得した上で、時代に即した高度な専門知識を有する通信分野及び情報処理分野の専門家を社会に輩出することを目的としている。

様々な産業分野に必要とされる高度な知的活動を支える必須技術として、情報通信技術は現代社会に欠かせない技術領域となっている。大容量のブロードバンド通信・放送ネットワーク等の社会インフラに加えて、スマートフォンやクラウドサーバ、家電、自動運転車、ドローン、住宅、工場、環境センサー等のあらゆる“モノ”同士が接続するIoT（Internet of Things）環境は、高度な通信技術により支えられている。また、これらを介して収集されるデータは、情報処理技術を用いて効率的かつ効果的に分析することで、様々な分野で活用されている。その結果、情報通信技術は、教育、交通、医療、金融、労働、農業、エネルギー等、あらゆる社会分野に影響を及ぼし、今や我々の生活に必要な不可欠な技術となっている。

情報通信技術は加速的に発展を続けており、5G/6G 移動通信技術に代表される超広帯域・超低遅延ワイヤレス技術や、IoT デバイス等を用いたエッジコンピューティング等の分散処理技術、深層学習を用いた画像・映像・音声・言語処理等の人工知能（AI, Artificial Intelligence）技術、量子コンピューティングや量子通信・暗号技術等、新たな技術革新が世界中で起こっている。さらに、このような情報通信技術の革新は、様々な社会的課題を解決する鍵ともなっている。例えば、情報通信技術を活用し、場所や時間に縛られない柔軟な働き方を実現するスマートワークは人材不足の解決策となる。スマート農業は、天候情報や生育データを用いて超省力化や生産物の品質向上を可能にすることで農業問題を解決する切り札の一つとなる。また、交通インフラやエネルギー消費を効率化・高度化することで都市問題を解決するスマートシティも期待されている。そして、こうした革新的な情報通信技術に支えられるシステム・インフラの安全・安心を実現する基盤技術の確立が急務である。

これら情報通信技術の長足の進歩を支えているのは、半導体技術、記憶装置技術、ネットワーク技術、情報処理技術、数理工学等の要素技術の地道な積み重ねであり、決して基礎学問自体が大きく変化している訳ではない。したがって、情報通信学科では、情報通信応用分野に重点を置きつつ、情報通信の基礎教育にも十分に配慮し、グローバル競争社会の中で本質を見極めることができる人材の育成を目指している。情報通信学科では、情報通信に関わる時代の変化に依存しない普遍的な学問領域と、時代と共にダイナミックに変化しうる応用的な学問領域とをバランス良く体系的に修得することを学生の到達目標として設定している。

情報通信学科では、情報通信技術を、情報システム、通信ネットワーク、メディア・コンテンツの3分野に分け、それぞれの分野をカバーするカリキュラムを提供している。具体的には、2年次からの専門必修科目では、「回路理論」、「信号処理」、「情報理論 A」、「通信理論」、「マルチメディア工学 A」といった3分野にまたがる基礎的な科目を履修することとしている。また、情報通信技術の原理や先端的な応用事例を実際に自分の目で、耳で、手で確認すべく「情報通信実験 A/B」を設置している。さらに、4年次には、先端的な情報通信に関する知識の習得だけでなく、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養うべく、卒業論文 A/B を設置している。一方、選択科目としては、各分野に特化した専門性の高い科目と、3分野に跨がる分野共通科目を設置している。各分野における選択科目の例として、情報システム分野では「デジタルシステム設計」、通信ネットワーク分野では「無線通信技術」、メディア・コンテンツ分野では「マルチメディア工学 B」等を設置している。また、分野共通科目の例として「情報セキュリティ基礎」が設置されている。さらに、AI に関係する技術を学ぶ科目も充実している。分野共通科目の多くは、本学科で学んできたことが現実の情報通信ネットワークあるいはサービスにどのように活かされているのかを学習することを主眼にしており、産業界及び官界から講師を招いて開講している。大学院においては、学部で学んだ内容をさらに発展させた先進的なカリキュラムを提供している。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

基幹理工学部では、グローバルに活躍する高度な専門知識を有する人材を育成する「学部大学院一貫教育」を掲げており、当学科においても学生が意欲を持って大学院に進学することを推奨している。

総務省発行の情報通信白書によれば、情報通信分野は産業成長のエンジンとして位置づけられており、あらゆる領域で応用可能なツールとして様々な産業分野で活用されている。また、世界の情報通信市場は成長著しく、持続的な成長が見込まれている。特に、アジア・太平洋地域は大きな潜在成長力を持っているとされ、未来のスマート社会を実現するためには、情報通信技術の積極的な導入が必須であると報告されている。実際、日本における情報通信産業の市場規模（名目国内生産額）は全産業の約 10% を占めている。このように、情報通信関連の人材需要は高まるばかりであり、情報通信学科はその社会的な需要と要求に即した人材育成を行っている。

所定単位数

	専門必修科目	専門選択必修科目	専門選択科目	
			学科専門選択科目	基幹共通科目
			19 ～ 27 単位	0 ～ 8 単位
所定単位数	41 単位	4 単位	27 単位	

卒業論文着手の条件

情報通信学科において卒業論文 A 及び卒業論文 B を履修するためには、4 年次進級時点で、原則的に下表の卒論着手条件を満足しなければならない。なお、卒論着手必要総単位数（下表の※ 1）を含めた卒論着手条件の詳細については、年度当初のガイダンス時に周知する。

系列	A ～ C 群の所定単位数													A～D 群、その他から任意に選択できる単位数	合計	備考		
	A 群			B 群				C 群					D 群					
	A1	A2		B1	B2		B3	B4	専門教育科目								選択任意	
	複合領域科目	英語または初修外国語	英語必修	数学	自然科学		実験・実習・制作	情報関連科目	必修2年	必修3年		必修4年	選択必修				選択	保健体育・自主挑戦科目
					物理学	化学				右記以外	情報通信実験B							
卒業に必要な単位数	10	8	13	4	2	8	4	21	14	2	4	4	27	5	126	本学部要項のⅢ-6の(3)を参照		
卒論着手条件	10	8	13	4	2	8	4	21	10	—	—	4	—	—	※1 ※2	各系列で必要な最低単位数を示す		

注意：各系列の必要最低単位数を満たすだけでなく卒論着手必要総単位数（※ 1）を満たさなければならない。

「卒論着手条件（※ 2）」に示す単位数は「卒業に必要な単位数」に示す単位数の内数であり、卒業に必要な単位数に算入されない単位は含まれない。

情報通信学科 専門教育科目配当表

（I）専門必修科目

学 科 目 名	単位数	開 講 学 期							
		第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
プログラミング A	3			○					
アルゴリズムとデータ構造 A	2			○					
回路理論	2			○					
信号処理	2			○					
論理回路	2			○					
情報理論 A	2			○					
通信理論	2				○				

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現

11. D 群科目
12. 他学部受講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
コンピュータアーキテクチャ A	2				○				
電子回路	2				○				
情報通信実験 A	2				○				
トラヒック理論	2					○			
情報通信ネットワーク A	2					○			
オペレーティングシステム A	2					○			
離散数学	2					○			
デジタル信号処理	2					○			
情報通信実験 B	2					○			
情報通信ネットワーク B	2						○		
マルチメディア工学 A	2						○		
卒業論文 A	2							○	
卒業論文 B	2								○
専門必修科目合計	41								

※「卒業論文 A」、「卒業論文 B」を特別の事情により所定以外の学期に履修する場合は学科の承認を要する。

(Ⅱ) 専門選択必修科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
【学系Ⅰ】									
数理科学展望	2	○							
集合入門	2		○						
【学系Ⅱ】									
工学系のモデリングA	2	○							
工学系のモデリングB	2		○						
【学系Ⅲ】									
情報通信基礎	2	○							
メディア表現技術の基礎	2		○						
専門選択必修科目合計	12								

※該当の学系に設置されている科目から 4 単位を修得しなければならない。4 単位を超えて修得した単位は卒業に必要な単位数として算入されない。

(Ⅲ) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
確率・統計概論	2			○					
アルゴリズムとデータ構造 B	2				○				

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
情報系の生命学	2				○				
システム開発プロジェクト基礎	2					集中	集中		
言語処理系	2					○			
情報理論 B	2					○			
ソフトウェア工学 A	2					○			
プログラミング B	2					○			
生命情報処理と ICT	2					○			
無線通信技術	2					○			
プロジェクト研究 A	2					○			
IoT システム設計	3					○			
人工知能 A	2					○			
グローバルビジネス世界における、サイバーセキュリティを考える	2					○			
高性能計算	2						○		
マルチメディア工学 B	2						○		
最適化と認識・学習	2						○		
コンピュータアーキテクチャ B	2						○		
情報通信実験 C	2						○		
プログラミング言語	2						○		
データベース	2						○		
光通信技術	2						○		
エクシオグループ株式会社寄附講座 インフラ関連業界におけるデジタル化と安全・安心の実状・動向	2						○		
ソフトウェア工学 B	2						○		
次世代ネットワーク	2						○		
デジタル放送技術	2						○		
コミュニケーション品質理論	2						○		
プロジェクト研究 B	2						○		
オペレーティングシステム B	2						○		
情報社会論	2						○		
人工知能 B	2						○		
統計解析実習	1						秋Q		
モデリングとシミュレーション	2							○	
ネットワークサービスとビジネスモデル	2							○	
コンピュータグラフィクス	2							○	
自然言語処理	2							○	
データマイニング	2							○	
画像情報特論	2							○	
高信頼ソフトウェア	2							○	
コンピュータ・アーキテクチャ特論	2							○	
先端プロセッサ技術	2							○	

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
無線通信ネットワーク	2							○	
コンピュータービジョン	2							○	
情報アクセス評価基盤	2							○	
情報通信と国際標準化	2							○	
先端情報通信技術とオープンイノベーション	2							○	
基幹理工学特論B	2							○	
基幹理工学特論C	2							○	
基幹理工学特論A 1	1							春Q	
基幹理工学特論A 2	1							夏Q	
衛星通信技術	2								○
移動通信技術	2								○
ソーシャルネットワークサイエンス	2								○
情報通信関連法規	2								○
情報セキュリティ基礎	2								○
分散組込み・リアルタイム処理	2								○
ワイヤレスアクセス特論	2								○
情報検索	2								○
SDGs と ICT	2								○
暗号プロトコル理論とブロックチェーン	2								○
ディジタルコンテンツと知的財産権	2								集中
計算機支援設計	2								秋Q
ディジタルシステム設計	2								冬Q
専門選択科目合計	126								

(Ⅳ) 基幹共通科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
微分方程式（基幹）	2			○					
ベクトル解析（基幹）	2			○					
続線形代数（基幹）	2			○					
電磁気学（基幹）	2			○					
フーリエ解析（基幹）	2				○				
複素関数論（基幹）	2				○				
基幹共通科目合計	12								

- ※上記 6 科目以外の基幹共通科目は履修できない。
- ※ 8 単位まで C 群専門選択科目として卒業必要単位に算入できる。
- ※開講学期・時間割等はシラバスで確認すること。
- ※ Q はクォーターの略。

表現工学科

表現工学科は、科学技術と芸術表現の融合による新たな表現形態の模索へ挑戦していくことをその理念とし設立された。科学技術を理解した上での高度な表現の実践、表現／コミュニケーションの幅を広げる技術の開発において活躍できる人材の育成を目標としている。

表現工学科では工学、芸術の基礎を学習した上で、幅広い知識と創造力を身につけることができるように科目を設置している。具体的には、表現工学基礎（科学）、同（芸術）、を履修した上で、映像・画像工学、音響工学、映像空間表現、音楽表現、表現構造、コンピュータ・グラフィックス、ビジュアル・プログラミング、認知科学、ロボティクスなどの基礎を必修科目として履修する。それら知識を基礎とし、映像・音響工学、人間工学、センシング工学、バーチャルリアリティ、デザイン、音楽、美術、記号論、様相倫理、インタラクション、実験デザイン、人工知能などの分野における専門選択科目を履修する。40科目以上の専門選択科目が用意されており、個々の興味にあった科目選択、少人数教育を実現している。

講義形式の授業ばかりでなく、作品制作などの実習をとともう授業が多く設置されていることも特徴であり、知識の獲得とともに技術の獲得も目指す。さらに、キャリアデザイン、プロジェクト学習などの演習形式やプロジェクト参加形式の授業を2年次から配置し、体系的な学習環境を実現している。これら学習を基礎に、4年次では卒業論文・制作を行なう。

所定単位数

	専門必修科目	専門選択必修科目	専門選択科目	
			学科専門選択科目	基幹共通科目
			10～20単位	0～10単位
所定単位数	40単位	4単位	20単位	

卒業論文着手の条件

1. A群科目を、26単位以上修得していること
2. B群については31単位すべてを修得していること
3. C群は、3年次までの専門必修科目、及び専門選択必修科目をすべて修得していること

表現工学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期			
		第1年度	第2年度	第3年度	第4年度
		春 秋	春 秋	春 秋	春 秋
CG基礎	2		○		
ビジュアルプログラミング	2		○		
音響学基礎	2		○		
キャリアデザインA	1		○		
表現構造論	2			○	
表現工学基礎（科学）	2			○	

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
表現工学基礎（芸術）	2				○				
音楽表現基礎	2				○				
立体映像表現	2				○				
ロボティクス表現デザイン	2				○				
認知科学基礎	2				○				
映像・映画構造論	2				○				
キャリアデザインB	1				○				
プロジェクト学習A	4					○			
プロジェクト学習B	4						○		
卒業論文・制作	8							○	○
専門必修科目合計	40								

（Ⅱ）専門選択必修科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
【学系Ⅰ】									
数理科学展望	2	○							
集合入門	2		○						
【学系Ⅱ】									
工学系のモデリングA	2	○							
工学系のモデリングB	2		○						
【学系Ⅲ】									
情報通信基礎	2	○							
メディア表現技術の基礎	2		○						
専門選択必修科目合計	12								

※該当の学系に設置されている科目から4単位を修得しなければならない。4単位を超えて修得した単位は卒業に必要な単位数として算入されない。

(Ⅲ)－1 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期									
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度			
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
【インターメディア芸術系科目】											
インターメディア作曲Ⅰ	4			○							
音楽プログラミングⅠ	2			○							
現代芸術理論	2			○							
視覚芸術理論	2				○						
芸術表現	2				○						
インターメディア作曲Ⅱ	4				○						
音楽プログラミングⅡ	2				○						
メディアアート表現論	2					○					
写真表現Ⅰ	4					○					
コンピュータ・グラフィック制作Ⅰ	4					○					
様相と論理	2					○					
映像制作実習Ⅰ	4					○					
写真表現Ⅱ	4						○				
コンピュータ・グラフィック制作Ⅱ	4						○				
音空間デザイン	2						○				
インタラクションデザイン	2						○				
インターメディア芸術実習	2						○				
映像制作実習Ⅱ	4						○				
【インターメディア工学系科目】											
表現工学のための基礎数学	2			○							
統計・パターン認識	2			○							
心理実験のための統計	2				○						
情報理論	2				○						
応用音響	2				○						
メディアエルゴノミクス	2					○					
バーチャルリアリティ制作	4					○					
インタラクティブ・センシング	2					○					
音響表現基礎	2					○					
音声処理	2					○					
音コミュニケーション	2					○					
動的知能表現システム基礎	2					○					

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
認知心理学	2					○			
放送配信技術・信号処理	2						○		
録音技術論	2						○		
認知実験デザイン論	2						○		
【メディアマネジメント系科目】									
アートマネジメント	2			集中	集中				
インタラクション研究	2			○					
視覚芸術キュレーション論	2			○					
映画から学ぶ映像表現	4			○					
奇想のテレビドキュメンタリー論	2				○				
映画監督と学ぶ映像表現	2					集中	集中		
視覚メディアマネジメント A	2					○			
新メディア論	2					○			
視覚メディアマネジメント B	2						○		
テレビ論	4						○		
専門選択科目合計	110								

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)

(IV) 基幹共通科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
微分方程式（基幹）	2			○					
ベクトル解析（基幹）	2			○					
続線形代数（基幹）	2			○					
電磁気学（基幹）	2			○					
フーリエ解析（基幹）	2				○				
複素関数論（基幹）	2				○				
基幹共通科目合計	12								

※10 単位までC群専門選択科目として卒業必要単位に算入できる。

※開講学期・時間割等はシラバスで確認すること。

※Q はクォーターの略。

17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

11 保健体育・自主挑戦科目（D 群科目）

本学部の学科目の単位のほかに保健体育科目と自主挑戦科目を併せて 4 単位までを卒業に必要な単位数として履修できる。

(1) 保健体育科目

1 年間に履修できる保健体育科目は、年間 4 単位に限る。その組み合わせは、スポーツ理論とスポーツ実習をどのように組み合わせてもよい。

詳細については、グローバルエデュケーションセンターの発行する『全学オープン科目履修ガイド』を参照すること。

(2) 自主挑戦科目

「理工文化論」

20 世紀は人類史上最も「理工文明」の栄えた時代であった。21 世紀に人類に課された命題は、その成果をいかに人類に回帰するかにある。すなわち、21 世紀は「理工文明」から「理工文化」への脱却の時代であると言っても過言ではない。本講義では、早稲田大学教授陣に加えて各界のオピニオン・リーダーでもある、学外の著名な科学者・文化人がそれぞれの立場から「理工文化」への熱き思いを語る。

講義への出席状況および提出されたレポートによって評価が行われ、所定の基準以上の評価を得た者に D 群科目として 2 単位が与えられる。

「ボランティア」

この科目は、学内外で学生が自らの意志で自発的に関った福祉・災害救援・人権・平和環境などの人間社会の切実な諸問題に対する実質 5 日間程度の活動を対象とする。「活動報告書」と「活動を通じて得たもの」を述べたレポートの 2 つの提出物を基に評価が行われ、所定の基準以上の評価を得た者に D 群科目として 2 単位（重複履修不可）が与えられる。

ただし、特定の宗教、政治に関わるようなものは、本科目の対象としない。

（注）事前に、理工学術院統合事務所に「ボランティア申請書」、「保護者等の同意書」を提出すること。

加えて、「早稲田大学学生補償制度（傷害補償）：略称『学傷補』」と「早稲田大学学生補償制度（賠償責任補償）：略称『学賠補』」に加入すること。

「インターンシップ」

理工学術院では、60 時間以上（実質 10 日以上）のインターンシップ実習について、申請に基づき、「D 群自主挑戦科目（3 年生配当 2 単位、重複履修不可）」として単位認定を行う。

研究室での研究内容や関連分野が実際の生産現場の研究・開発の課程の中でどのように活用されているかを体験する等、高度な能力を養うことを目的とする。指導教員と協議の上、今後の研究に役立てられる企業、プログラムを選定すること。

（注）実習前後に MyWaseda からの申請および企業等受入機関による実習評価書の送付が必要となる。

詳細は理工学術院 Web サイトを確認すること。

（注）学生が個人で参加するインターンシップについては、早稲田大学学生補償制度（傷害補償）（略称：学傷補）および早稲田大学学生賠償制度（略称：学賠補）への加入ができないため、任意の保険への加入を強く推奨する。なお、早稲田大学生活協同組合各店舗にて大学生協の学生総合共済加入を受け付けている。学科・専攻が推奨しているインターンシップについては、学傷補、学賠補への加入が可能。また、学科・専攻が推奨しているインターンシップにおいて海外で実習を行う場合は、大学指定の海外旅行保険への加入が義務付けられているため、理工学術院統合事務所教学支援課に

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内
(C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部受講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の
履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

て申請書類を受け取り、必ず手続きをすること。

(注) 受入企業によっては、インターンシップを行う際に、参加学生の誓約書等以外に大学との契約締結を求められる場合があるが、学生が個人で参加する自由応募のインターンシップについては、大学として契約締結は行わない。学科・専攻が推奨するインターンシップについても、原則として契約締結は行わない。

自主挑戦科目配当表

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
理工文化論	2	○							
ボランティア	2			○	○				
インターンシップ	2					○	○		

※ Q はクォーターの略。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

12 他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講

(1) 他学科・他学部・他学術院・他コース設置科目

他学科・他学部・他学術院・他コース（※）の学科目を聴講し、単位を修得した場合には、「表1」で区分を確認すること。

他学科・他学部・他学術院聴講の区分となっているものについては、「表2」の単位数を上限に卒業に必要な単位数に算入できる。他コース聴講の区分となっているものについては「表3」の単位数を上限に卒業に必要な単位数に算入できる。

なお、所属学科に設置されている科目と同一名称および実質的に同一内容の科目の聴講は認めない。

※数学科および応用数理学科は、別途、聴講科目に制限を設けているので、科目登録前にクラス担任と相談し、指導を受けること。

また、原則として、実験・実習・演習・製図科目および卒業論文または卒業研究は他学科・他学部聴講を認めない。

※他コース：英語による授業のみで学位を取得できる国際コースおよび英語学位プログラムのこと。

表1：自学科以外の科目を履修した場合の単位取扱区分

科目設置箇所	科 目	区 分
他学科	すべて	他学科聴講
理工学術院内他学部	すべて	理工学術院内他学部聴講
他学術院	学部等提供オープン科目 その他他学部設置科目	他学術院聴講
	各種資格に関する科目 (教育学部・文学部)	教職課程 ※卒業必要単位には算入されない
他コース	すべて (通常コースとの合併科目を除く)	他コース聴講
グローバルエデュケーションセンター	アカデミックライティング科目	A1 群に8単位まで算入可能 /9 単位目からは他学術院聴講
	自然科学科目	
	人文・社会科学科目	
	人間的力量科目（全区分）	
	数学科目	自由科目扱い ※卒業必要単位には算入されない
	英語科目	他学術院聴講
	言語科目	A2 群に4単位まで算入可能 /5 単位目からは他学術院聴講
	保健体育科目	本要項「Ⅲ－11.D 群科目」参照
	協定他大学提供科目 (2年生以上対象・一部1年生も可)	他学術院聴講
	データ科学科目	算入可否は科目により異なる※ ¹
	情報科目	
	日本語教育科目	
	その他	自由科目扱い ※卒業必要単位には算入されない
留学センター	すべて	他学術院聴講

※¹ 下記 Web サイトにて確認すること

<https://www.waseda.jp/fsci/students/registration/>

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内
(C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

表 2：他学科・他学部・他学術院聴講 卒業必要単位数に算入できる上限単位数

学科名	他学科聴講	理工学術院内他学部聴講	他学術院聴講	計
数学科	3 単位 ※応用数理学科を除く	3 単位	3 単位	3 単位
応用数理学科	3 単位 ※数学科を除く	3 単位	3 単位	3 単位
機械科学・航空宇宙学科	3 単位	3 単位	3 単位	3 単位
電子物理システム学科	5 単位	5 単位	5 単位	5 単位
情報理工学科	5 単位 ※情報通信学科を除く	5 単位	5 単位	5 単位
情報通信学科	5 単位 ※情報理工学科を除く	5 単位	5 単位	5 単位
表現工学科	5 単位	5 単位	5 単位	5 単位

※数学科と応用数理学科間の単位互換についてはⅢ- 10 の数学科および応用数理学科の「C群科目担当表および学修案内」を参照すること。

表 3：他コース聴講 卒業必要単位数に算入できる上限単位数

学科名	他コース聴講	計
数学科	3 単位	3 単位
応用数理学科	3 単位	3 単位
機械科学・航空宇宙学科	3 単位	3 単位
電子物理システム学科	5 単位	5 単位
情報理工学科	5 単位	5 単位
情報通信学科	5 単位	5 単位
表現工学科	5 単位	5 単位

※他コース聴講として修得した単位は、他学科・他学部・他学術院聴講として修得した単位とは別に、学科が設定している 上限単位数まで卒業必要単位数に算入できる。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

(2) 全学オープン科目

早稲田大学には、学部・学年を問わず全学生が履修できる科目が数多くある。これらの科目を総称して「全学オープン科目」という。全学オープン科目は、グローバルエデュケーションセンター（GEC）、留学センターをはじめ、学部や研究科、協定を結んでいる他大学などから幅広い分野にわたって提供されている。

学生は、所属学部独自のカリキュラムに加えて「全学オープン科目」を選択履修し、修得した単位を所属学部の規定にしたがって卒業単位に算入することができる。所属学部の授業と学部の垣根を越えた総合大学ならではのスケールで学ぶことのできる全学オープン科目を上手に組み合わせて、自分の世界を広げ、学ぶことの楽しさを実感してもらいたい。

全学オープン科目の提供箇所と履修方法について

科目提供箇所	項目	科目、講義内容、科目登録関連の参照先	授業・試験関連の参照先
学部・研究科			
グローバルエデュケーションセンター（GEC）	・ 科目提供箇所の Web サイト ・ シラバスシステム（Web） ・ 「全学オープン科目履修ガイド」		・ 科目提供箇所の Web サイト
留学センター			
協定他大学 （2年生以上対象・一部1年生も可）	・ グローバルエデュケーションセンター Web サイト ・ 他大学交流システム（*1）		・ 科目を提供している大学の Web サイト（*2）

※全学オープン科目の単位の取り扱いについては、所属学部が発行する「学部要項」および「科目登録の手引き」、マニュアル等で確認すること。

*1…協定他大学提供科目を検索、登録するためのサイト。アクセス方法は、グローバルエデュケーションセンター Web サイトで確認できる。

*2…各大学 Web サイトは、「全学オープン科目履修ガイド」およびグローバルエデュケーションセンター Web サイトで確認できる。

(3) 学部・研究科以外の全学オープン科目提供箇所

- ① グローバルエデュケーションセンター（GEC）（URL：https://www.waseda.jp/inst/gec/）

GEC では、全学部・全研究科の学生が、専門分野に限らず全く異なる分野も学習できる多種多様な科目を展開している。

すべての学問の基礎となる大学生の必須スキルとして、アカデミック・ライティング科目（「学術的文章の作成」ほか）、数学科目（「数学基礎プラスα（金利編）」ほか）、データ科学科目（「統計リテラシーα」「データ科学入門α」ほか）、情報科目（「プログラミング初級」ほか）、英語科目（「General Tutorial English」「Academic Writing and Discussion in English」ほか）を提供している。また、早稲田大学以外では学ぶ機会の少ない言語科目や、多数の特色あるスポーツ実習科目（「ラグビー」「弓道」ほか）、日本語教育科目（「日本語教育学入門」ほか）も提供している。

人間的力量と呼ばれる科目群には、国内・海外での実習や企業等と協同で実施するワークショップといった問題解決型・体験型の実践的な学びを多く取り入れている。

科目の提供に加えて、GEC では「全学副専攻制度」を設けている。所属している学部で重点的に学ぶ「主専攻」のほかに、その他の学問分野を「副専攻」として体系的に学び、主専攻の補強、第二の強みの獲得、主専攻の応用領域の獲得などをを目指す。全学副専攻の修了者には、卒業時に修了証明書が発行される。

I	特 徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付 録

1.	単位制
2.	学位・卒業
3.	進級制度
4.	転部・転科
5.	学 費
6.	学科目系列
7.	A 群科目
8.	B 群科目
9.	C 群科目
10.	学科別案内 (C 群科目)

数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現

11.	D 群科目
12.	他学部聴講
13.	教職免許
14.	科目登録
15.	授業時間帯
16.	試 験
17.	レポート・論文作成
18.	成績の表示
19.	復学者の履修方法
20.	科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

② 留学センター（URL：https://www.waseda.jp/inst/cie/）

留学センターは、海外からの留学生受入れや早大生の海外留学支援はもちろん、国際教育プログラムの実施拠点として、留学プログラムと連動し留学先で履修できる科目、外国語学習・テーマ研究・異文化体験を中心とした短期留学科目のほか、海外の学生とともに授業を本学で履修するサマーセッション科目、海外大学からの教員を招へいして実施する「International Japanese Studies」の科目など、独自の科目を学部生に提供している。

なお、短期留学については、「海外語学・文化研修プログラム」として、春季および夏季の両方が科目登録の対象となっている。この制度により、長期留学が難しい学生にも、短期で海外経験を積み、かつ単位を修得できる機会を提供している。

③ 協定他大学（URL：https://www.waseda.jp/inst/gec/undergraduate/other_univ/）

早稲田大学は協定を結んでいる他大学と互いに科目を提供しあっている。早稲田大学には設置されていない各大学特有の科目も多くラインナップされており、登録の選択肢も広がる。他大学からの提供科目も所属学部の規定に従い卒業単位に算入することが可能である。ただし、履修は2年生以上が対象（一部科目については、1年生も履修可能）である。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

13 教員免許状取得方法

中学校および高等学校の教育職員（以下「教員」）となるためには、教員免許状を取得しなければならない。免許状取得には、卒業に必要な単位を修得すること（学士の学位を有すること）のほかに、「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」、「教科及び教職に関する科目」について所定単位を修得する必要がある。

免許状の取得を希望する学生は、**教育・総合科学学術院 教職支援センター**発行の『教職課程履修の手引き』を熟読のうえ、**1 年生から計画を立てて必要な科目を履修すること**。特に、「教科に関する専門的事項」以外の科目の履修方法及び修得単位数は「教職課程の手引き」に従い履修すること。また、教育学部の設置科目なので（授業は早稲田キャンパスで実施）、教育学部 Web サイトや掲示に十分注意すること。「教科に関する専門的事項」（主として自学科の専門教育科目）は、別掲の（7）学科別「教科に関する専門的事項」一覧表にしたがって履修すること。

履修学年 3 年以上の教職課程履修者が同課程必修科目の科目登録において選外となった場合、3 次登録期間初日までに、理工学術院統合事務所（kyousyoku17@list.waseda.jp）まで申し出ること。

本学部で取得できる教員免許状の種類、免許状取得に関する最低修得単位数は以下の通りである。

（1）各学科で取得できる教員免許の種類

学 科	免許状の種類	
	中学 1 種	高校 1 種
数 学 科	数学	数学
応 用 数 理 学 科	数学	数学
機 械 科 学 ・ 航 空 宇 宙 学 科		
電 子 物 理 シ ス テ ム 学 科		情報
情 報 理 工 学 科		情報
情 報 通 信 学 科		情報
表 現 工 学 科		情報

（2）免許状取得に関する法令上の最低修得単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	
	中学 1 種	高校 1 種
教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目	合計 8 単位	合計 8 単位
日本国憲法※ ¹	2	2
体育（実技）	2	2
外国語コミュニケーション	2	2
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作※ ²	2	2
教科及び教職に関する科目	合計 59 単位	合計 59 単位
①教科及び教科の指導法に関する科目※ ³	小計 28 単位	小計 24 単位
教科に関する専門的事項※ ³		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）※ ³	8	4
②教育の基礎的理解に関する科目	10	10
③道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10	8
④教育実践に関する科目	7	5
大学が独自に設定する科目※ ⁴	4	12
最低修得単位数の合計	67	67

※¹ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目における「日本国憲法」項目を満たすためには、憲法Ⅰ及び憲法Ⅱの両方を修得する必要がある。

※² 必ず「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」2 単位もしくは「情報機器の操作」2 単位のいずれかを選択してください。「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」1 単位と「情報機器の操作」1 単位の組み合わせは認められません。

※³ 「教科に関する専門的事項」と「各教科の指導法（情報機器及び機材の活用を含む。）」との合算で「小計」に記載の単位数を修得する必要がある。

※⁴ 上表①～④の最低修得単位数を超えて単位を修得した場合は、「大学が独自に設定する科目」の単位として計算される。「大学が独自に設定する科目」の科目区分に設置されている科目を、記載されている単位数以上履修しなければならないという意味ではない。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内
(C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の履修方法

20. 科目履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(3) 各教科の指導法、「教育の基礎的理解に関する科目」等（必修）

科目設置箇所は教育学部（教職課程）。教職に関する科目の年間登録制限単位数は 20 単位。

教育職員免許法施行規則に定める科目		早稲田大学設置科目名	配当年次	単位数	履修方法	
					中学	高校
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	教科教育法 1 ※ ¹	2 または 3	2	必修	必修
		教科教育法 2		2	必修	必修
		教科教育法 3 ※ ²		2	必修	選択
		教科教育法 4 ※ ²		2	必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育基礎総論 1（中・高）	1	2	必修	必修
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職概論（中・高）	1	2	必修	必修
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度総論（中・高）	1	2	必修	必修
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学（中・高）	1	2	必修	必修
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育（中・高）	1	1	必修	必修
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程編成論（中・高）	2	1	必修	必修
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育論（中・高）※ ²	1	2	必修	選択
	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習・探究論（中・高）	1	1	必修	必修
	特別活動の指導法	特別活動論（中・高）	1	1	必修	必修
	教育の方法及び技術	教育方法・技術論（中・高）	2	2	必修	必修
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育における ICT 活用（中・高）	2	1	必修	必修
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導論（中・高）	1	2	必修	必修
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	生徒理解と教育相談（中・高）	1	2	必修	必修
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習演習（中・高）※ ³ （3 週間）	4	5	必修	—
		教育実習演習（中・高）※ ³ （2 週間）	4	3	—	必修※ ⁴
	教職実践演習	教職実践演習（中・高）※ ⁵	4	2	必修	必修

※¹「教科教育法」は、各自が取得を希望する免許状の教科ごとに履修すること。

※² 高等学校 1 種免許状を取得する場合に「教科教育法 3」「教科教育法 4」「道徳教育論」を履修した場合は「大学が独自に設定する科目」の単位として算入される。

※³「教育実習演習」を履修するためには前提条件が設定されている（詳細は、『教職課程履修の手引き』を参照）。この条件を満たさない場合は、教育実習が行えないので注意すること。

※⁴ 中学校および高等学校の両免許状を取得する場合は、教育実習演習（中・高）（3 週間）を履修すること。

※⁵「教職実践演習」を履修するためには、「教職履修カルテ」の作成が必要となる（詳細は、『教職課程履修の手引き』を参照）。準備が整わない場合は履修することはできない。

(4) 「教育の基礎的理解に関する科目」等（選択）

科目設置箇所は教育学部（教職課程）。教職に関する科目の年間登録制限単位数（20 単位）に含まれる。
履修した単位は、「大学が独自に設定する科目」に算入される。

教育職員免許法施行規則に定める科目		早稲田大学設置科目名	配当 年次	単位数	履修方法	
					中学	高校
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育学部に関する歴史及び思想	教職研究Ⅲ（日本教育史）	2	2	選択	選択
		教職研究Ⅳ（西洋教育史）	2	2	選択	選択
		教職研究Ⅰ（学校教育法規）	2	2	選択	選択
		教職研究Ⅱ（教育行政法規）	2	2	選択	選択
		教職研究Ⅴ（学校外教育）	2	2	選択	選択
		教職研究Ⅸ（教育経営）	2	2	選択	選択
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術	授業技術演習	3	2	選択	選択

(5) 大学が独自に設定する科目

科目設置箇所は教育学部（教職課程）。教職に関する科目の年間登録制限単位数（20 単位）には含まれない。
中学校 1 種免許状を取得する場合は、介護等体験は必修となる（詳細は、『教職課程履修の手引き』を参照）。

教育職員免許法施行規則に定める科目		早稲田大学設置科目名	配当 年次	単位数	履修方法	
					中学	高校
教科又は教職に関する科目		介護体験実習講義※	3	2	必修	選択
		教職研究Ⅵ（生涯教育）	2	2	選択	選択
		教職研究Ⅷ（総合学習の研究）	2	2	選択	選択
		人間理解基盤講座（心の健康教育に関する理論と実践）	2	2	選択	選択
		初等教育インターンシップ	3	4	選択	選択
		学級経営インターンシップ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	3	4	選択	選択
		特別支援教育インターンシップ	3	4	選択	選択
		インクルーシブ教育インターンシップ	3	4	選択	選択

※介護等体験を行うには前提条件が設定されている（詳細は、『教職課程履修の手引き』を参照）。この条件を満たさない場合は、介護等体験が行えないので注意すること。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部受講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

(6) 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

本学部における「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」の履修方法は以下の通りである。

教育職員免許法施行規則に定める科目		早稲田大学設置科目名	配当 年次	単位数	履修方法	
					中学	高校
日本国憲法		「憲法Ⅰ」(A1 群)	1	2	必修	必修
		「憲法Ⅱ」(A1 群)	1	2	必修	必修
体育(実技)		「スポーツ実習Ⅰ」 (GEC 設置科目)	1	1 または 2	2 単位を 選択必修	2 単位を 選択必修
		「スポーツ実習Ⅱ」 (GEC 設置科目)	1	1 または 2		
外国語コミュニケーション		「Communication Strategies 1」(A2 群)	1	1	必修	必修
		「Communication Strategies 2」(A2 群)	1	1	必修	必修
		「Academic Lecture Comprehension 1」(A2 群)	1	1	必修	必修
		「Academic Lecture Comprehension 2」(A2 群)	1	1	必修	必修
数 理 、 デ ー タ 活 用 及 び 人 工 知 能 に 関 する 科 目 又 は 情 報 機 器 の 操 作	情報機器の操作	「C プログラミング入門」(B4 群)	1	2	「情報機器の操作」または「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」から 2 単位を選択必修	「情報機器の操作」または「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」から 2 単位を選択必修
		プログラミング入門	1	1		
		プログラミング初級 (C/C++)	1	2		
		プログラミング初級 (Java)	1	2		
		プログラミング中級 (Java)	1	2		
		プログラミング中級 (C/C++)	1	2		
		ソフトウェア開発技術α	1	2		
		ソフトウェア開発技術β	1	2		
		情報セキュリティ技術	1	2		
		Web デザイン実践	1	2		
		サーバサイド Web プログラミング初級	1	2		
		クライアントサイド Web プログラミング初級	1	2		

教育職員免許法施行規則に定める科目		早稲田大学設置科目名	配当年次	単位数	履修方法	
					中学	高校
数 理 、 デ ー タ 活 用 及 び 人 工 知 能 に 関 す る 科 目 又 は 情 報 機 器 の 操 作	情報機器の操作	サーバサイド Web プログラミング中級	1	2	「情報機器の操作」または「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」から2単位を選択必修	「情報機器の操作」または「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」から2単位を選択必修
		クライアントサイド Web プログラミング中級	1	2		
		データベース (SQL 入門)	1	2		
		データベース (管理と運用)	1	2		
		マルチメディア初級 (画像処理とアニメーション) α	1	1		
		マルチメディア初級 (画像処理とアニメーション) β	1	1		
		マルチメディア中級 (画像処理とアニメーション) α	1	1		
		マルチメディア中級 (画像処理とアニメーション) β	1	1		
		ミュージック・プログラミング	1	2		
		CG エンジニア入門	1	2		
	数理、データ活用及び人工知能に関する科目	統計リテラシー α	1	1		
		統計リテラシー β	1	1		
		データ科学入門 α	1	1		
		データ科学入門 β	1	1		

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(7) 学科別「教科に関する専門的事項」一覧表

各学科には取得できる免許状の種類に応じて教科に関する科目が設置されているが、他学科・他学部聴講が必要な場合がある。実験を他学科・他学部聴講する場合は、設置学科の許可が必要のため、授業開始前に理工学術院統合事務所に申し出ること。

数学科：数学（中学１種・高校１種）

教育職員免許法施行 規則に定める科目	科 目 名	単 位 数		履修方法		設置学科
		必修	選択	中学	高校	
代 数 学	○ 代数学序論	4				
	○ 代数学 A	4				
幾 何 学	○ ベクトル空間と幾何	4				
	○ 位相入門	2				
	○ 関数論 A	2				
	幾何学 B 1		2			
	幾何学 B 2		2			
解 析 学	○ 解析学入門	4				
	○ 多変数解析 物理数学	4	2			
「確率論、統計学」	確率統計概論 A	2				
	確率統計概論 B		2			
	※ 確率と統計の基礎		2			応数
コンピュータ	計算機概論	2				
	数学基礎論 A		2			
	数学基礎論 B		2			

○自学科のカリキュラムにおける必修科目

※他学科聴講が必要な科目

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

応用数理学科：数学（中学１種・高校１種）

教育職員免許法施行規則に定める科目	科 目 名	単 位 数		履修方法		設置学科
		必修	選択	中学	高校	
代 数 学	○ 代数学基礎 A 代数学基礎 B 代数学序論	2	2 4			
幾 何 学	○ 集合と位相入門 A ○ 集合と位相入門 B 関数論 A 応用トポロジー	2 2	2 2			
解 析 学	○ 複素関数論入門 測度と積分入門 ○ 常微分方程式入門 ベクトル解析と幾何	2 2	2 2			
「確率論，統計学」	○ 確率と統計の基礎 確率統計概論 A 確率統計概論 B	2	2 2			
コンピュータ	○ プログラミング基礎 A プログラミング基礎 B 計算機概論	2	2 2			

○自学科のカリキュラムにおける必修科目

※他学科聴講が必要な科目

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内
(C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の
履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

電子物理システム学科：情報（高校1種）

教育職員免許法施行 規則に定める科目	科 目 名	単 位 数		履修方法 高校	設置学科
		必修	選択		
情報社会・情報倫理	高度情報社会における人間関係 情報倫理	2 2			A1 群 A1 群
コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)	○ 電子回路A ○ 電子回路B ○ 電子物理システム実験A ○ 電子物理システム演習B LSI アーキテクチャ	2 2 2 2 2			
情報システム (実習を含む。)	○ 論理回路 ○ 電子物理システム演習A	2 2			
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	○ 電子物理システム実験C マイクロ波フォトンクス 伝送理論	2 2		2	
マルチメディア表現・マルチ メディア技術（実習を含む。)	○ 電子物理システム実験B ○ 電子物理システム演習C ※ マルチメディア工学 A ※ 言語処理系	2 1 2		2	情報理工, 情報通信 情報理工, 情報通信
情報と職業	※ 情報社会論	2			情報理工, 情報通信

○自学科のカリキュラムにおける必修科目
※他学科聴講が必要な科目

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

情報理工学科：情報（高校１種）

教育職員免許法施行規則に定める科目	科目名	単位数		履修方法 高校	設置学科
		必修	選択		
情報社会・情報倫理	高度情報社会における人間関係 情報倫理	2 2			A1 群 A1 群
コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)	○ 情報理工学実験 A ○ 電子回路 ○ オペレーティングシステム A ○ コンピュータアーキテクチャ A	2 2 2 2			
情報システム (実習を含む。)	○ ソフトウェア工学 A ○ データベース データマイニング	2 2	2		
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	○ 情報通信ネットワーク A ○ 情報理工学実験 B 情報通信ネットワーク B トラヒック理論 通信理論	2 2 2	2 2		
マルチメディア表現・マルチ メディア技術（実習を含む。)	マルチメディア工学 A ○ 言語処理系	2 2			
情報と職業	情報社会論	2			

○自学科のカリキュラムにおける必修科目
※他学科聴講が必要な科目

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

情報通信学科：情報（高校１種）

教育職員免許法施行 規則に定める科目	科 目 名	単 位 数		履修方法 高校	設置学科
		必修	選択		
情報社会・情報倫理	高度情報社会における人間関係 情報倫理	2 2			A1 群 A1 群
コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)	○ 情報通信実験 A ○ 電子回路 ○ コンピュータアーキテクチャ A ○ 論理回路	2 2 2 2			
情報システム (実習を含む。)	ソフトウェア工学 A データベース データマイニング	2	2 2		
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	○ 情報通信ネットワーク A ○ 情報通信ネットワーク B ○ 通信理論 ○ トラヒック理論 ○ 情報通信実験 B ○ 情報理論 A	2 2 2 2 2 2			
マルチメディア表現・マルチ メディア技術（実習を含む。)	○ マルチメディア工学 A 言語処理系	2	2		
情報と職業	情報社会論	2			

○自学科のカリキュラムにおける必修科目
※他学科聴講が必要な科目

数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

表現工学科：情報（高校１種）

教育職員免許法施行 規則に定める科目	科 目 名	単 位 数		履修方法 高校	設置学科
		必修	選択		
情報社会・情報倫理	高度情報社会における人間関係 情報倫理 メディアエルゴノミクス	2 2	2		A1 群 A1 群
コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)	○ ロボティクス表現デザイン	2			
情報システム (実習を含む。)	統計・パターン認識	2			
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	情報理論	2			
マルチメディア表現・マルチ メディア技術（実習を含む。）	視覚芸術理論 ○ CG 基礎 ○ 音楽表現基礎 ○ 音響学基礎 ○ ビジュアルプログラミング ○ 立体映像表現 インターメディア作曲Ⅰ インターメディア作曲Ⅱ バーチャルリアリティ制作 インタラクティブ・センシング インタラクションデザイン	2 2 2 2 2 2 4 4 4 2 2			
情報と職業	※ 情報社会論	2			情報理工, 情報通信

○自学科のカリキュラムにおける必修科目
※他学科聴講が必要な科目

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の 履修方法
20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

14 履修科目の登録

(1) 選択・申請・確認

学生は、指定された科目登録手続期間内に、当該年度に履修しようとする学科目を登録（申請および確認）しなければならない。

学科目の選択にあたっては、本学部要項と Webシラバス、『科目登録の手引き』等を熟読して、各自の学習目標を定め、時間の余裕等も考慮しながら、必要に応じクラス担任と相談し指導を受け、適切な選択を行う必要がある。登録方法については、年度始めに理工学術院 Web サイトに公開される『科目登録の手引き』を熟読し、登録間違い・登録漏れのないよう注意すること。

なお、他学部、他学科の学科目を聴講したい場合には、「Ⅲ-12 他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講」のページを参照すること。

理工学術院 Web サイト <https://www.waseda.jp/fsci/students/registration/>

Web シラバス <https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>

(2) 無登録科目の受講禁止

登録した学科目以外の受講は認めない。無登録科目を聴講・受験しても単位は与えられない。

(3) 登録後の変更禁止

登録した学科目の変更・取消は、決められた期間以外は認めない。登録にあたっては慎重を期し、本人が行うこと。また、必ず登録の結果を確認すること。

15 授業時間帯

早稲田大学の授業時間帯は下表のとおりである。

時 限	1	2	3	4	5	6	7
時 間	9：00 ～ 10：30	10：40 ～ 12：10	13：00 ～ 14：30	14：45 ～ 16：15	16：30 ～ 18：00	18：15 ～ 19：45	19：55 ～ 21：25

16 試験

試験には、定期試験期間に行われる試験のほか、レポート試験、授業時間中におこなわれる理解度の確認（教場試験）等がある。

定期試験

春学期試験および学年末（秋学期）試験として試験時間割を組んで実施する試験である。

試験に際しては、下記の注意事項に留意して受験すること。

- ① 試験時間割、および時間割発表後の試験に関する連絡は、理工学術院 Web サイト上にて行うので、見落としのないようにすること。
- ② 同一科目でも学籍番号、クラス、学科等によって試験の日時が違ったり、試験場を分ける場合がある。
- ③ 同一時間に受験科目が重複している者は、理工学術院統合事務所に申し出て指示を受けること。
- ④ 学生証は、表面の署名欄に自筆署名をしたものを携帯し、受験中は机の端に提示しておくこと。
学生証を携帯していない場合には、試験を受験できないことがある。

なお、学生証を紛失した者は、再交付を受けておくこと。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

- ⑤ 試験場においては、監督員の指示に従うこと。

なお、着席位置確認のため「座席表」を使用する場合がある。指示があった場合には、座席表の着席位置に学籍番号・氏名を記入し、次の学生に回すこと。

- ⑥ 答案用紙には、氏名・学籍番号を明記すること。

- ⑦ 身内の不幸や病気・事故などによる入院、医師からの外出禁止措置等がとられた場合など、やむを得ない事情により試験を欠席した場合には、試験の代替措置等が考慮される場合がある。至急、公的機関の証明書または医師の診断書を理工学術院統合事務所に提出して確認すること。

不正行為

不正行為を行った場合には、本学学則および本学部内規に基づき、原則として停学、および停学に付随する措置として、履修している全科目を無効とする。

また、答案用紙はたとえ解答ができなくても持ち帰らず、必ず提出すること。答案を持ち帰る行為も不正行為と同等の扱いになるので、十分注意すること。

17 レポート・論文作成にあたっての注意事項

出典を明示せずに書物、Web サイトなどから他人の文章や資料の全部または一部をレポート・論文等に記載した場合、「盗用」・「剽窃」にあたり不正行為に該当し、厳しい処分の対象になる。

自分の考えを述べる上で他人の文章や資料を「引用」・「参照」する際は、引用箇所を「 」等で明示し、出典（著者名、タイトル、該当ページ、出版社、出版年、Web サイトの場合はアドレスとアクセスした日付）を正確に記載することが一般的なルールである。ただし、引用の分量が多くなる場合は、「引用」・「転載」の許可を著者に求める必要があるので、必要最小限にとどめること。

18 成績の表示

成績は、学期ごとに定められた発表日に MyWaseda 上で発表される。成績発表日については理工学術院 Web サイトを確認すること。

成績表記は A⁺・A・B・C・F をもって表示し、A⁺～C を合格、F を不合格とする。なお、成績発表の際にはこのほかに H・S・* という記号を使用する。

H…… 成績保留を意味する。担当教員から課題提出の指示などがある場合があるので、教員の指示を確認すること。なお、教員からの指示に従わずに成績保留期間を越えた場合には自動的に F となる。

S…… 不合格と評価された専門必修科目であるが、次年度の科目登録の際にほかの学科目との曜日・時限重複を許可する。当該科目は、担当教員から指示された試験またはレポート課題等により評価する。

* …… 登録している科目で、担当教員からの成績がまだ出ていない科目を示す。

評 価	A ⁺	A	B	C	F	H	S
点 数	100 ～ 90	89 ～ 80	79 ～ 70	69 ～ 60	59 ～		
成績証明書	A ⁺	A	B	C	表 示 な し		
判 定	合 格				不 合 格		

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内
(C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部受講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の履修方法

20. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

【GPA について】

①計算式

科目の成績評価に対して Grade Point と呼ばれる換算値（A+ は 4 点，A は 3 点，B は 2 点，C は 1 点，不合格は 0 点）が決められている。それぞれの「科目の単位数」と「成績評価の Grade Point」の積の総和を「総登録単位数」で割って，スコア化したものが GPA（Grade Point Average）である。総登録単位数には，不合格科目の単位も含まれる。これを式で表すと，次のようになる。

$$\frac{(A^+ \text{修得単位数} \times 4) + (A \text{修得単位数} \times 3) + (B \text{修得単位数} \times 2) + (C \text{修得単位数} \times 1) + (\text{不合格科目単位数} \times 0)}{\text{総登録単位数 (不合格科目を含む)}}$$

※ GPA は小数第 2 位まで表示される。（小数第 3 位は，四捨五入とする）

②対象科目

卒業算入単位として登録した科目が対象となる。（教職等の資格関連科目や自由科目等の卒業非算入科目は対象外）

ただし，以下の成績評価の場合は GPA の計算対象から除外される。

- ・「H」（成績保留） ※成績確定後に対象となる。
- ・「P」（合格）および「Q」（不合格）
- ・「N」（単位認定）

③ GPA の通知・証明

GPA 対象科目の成績および GPA が記載された「GPA 証明書」を発行する。

なお，「成績証明書」には GPA は記載されない。成績通知書，MyWaseda の成績照会には記載される。

19 復学者の履修方法

休学者が復学した場合の履修方法は次のとおりである。

- ① 卒業に必要な所定単位およびその内訳は，入学した年度の規定による。
- ② 復学者の学科目履修上の学年は，原則として入学した年度より起算した学年から休学年数を除いた学年とする。
- ③ 入学時と復学時の規定に相違がある場合に，復学後履修する学科目の指定は所属する学科の主任がこれを行う。

20 科目等履修生（一般科目等履修生・教職課程履修生）

科目等履修生の入学は，年度の始めに限って選考のうえ，許可される。在籍期間は 1 年間に限り，引き続き聴講を希望する場合は，改めて願い出る必要がある。

(1) 一般科目等履修生

履修を許可された科目を半期 15 単位（年間 30 単位）まで履修できる。科目について合格と判定された場合，所定の単位を授与し，本人の申請により証明書を発行する。

(2) 教職課程履修生

本学部卒業生または本学大学院理工系研究科に在籍する学生で，教職に関する科目（教育学部設置科目）および教科に関する科目の履修を希望する場合，履修を許可された科目を半期 15 単位まで（年間 30 単位，教育学部設置の「教職に関する科目」の年間履修単位は合計 20 単位まで）履修できる。在籍可能な期間は通算で 3 年を限度とする。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 転部・転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A 群科目
8. B 群科目
9. C 群科目
10. 学科別案内 (C 群科目)
数学
応数
機航
電子
情報
通信
表現
11. D 群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者の履修方法
20. 科目等履修生

(3) 学科目の履修について

①履修可能科目

原則として講義の専門教育科目とする。

※正規学生の履修に妨げがないと認められる場合に限る。

※教員免許取得のための教職関係科目については、講義の専門教育科目以外の聴講を認める場合がある。

②実験・実習科目

施設の許す範囲でこれを許可する。履修の可否については、提出された出願書類に基づいて審査し、その結果を志願者に通知する。

※本学において既に単位を修得済の科目については、履修不可。

科目等履修生の詳細については、科目等履修生募集要項（理工学術院 Web サイトで2月頃公開）で確認すること。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 転部・転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A 群科目

8. B 群科目

9. C 群科目

10. 学科別案内
(C 群科目)

数学

応数

機航

電子

情報

通信

表現

11. D 群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者の
履修方法

20. 科目等履修生

IV

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

学生生活

1	Support Anywhere	1. Support Anywhere
2	理工学術院および基幹理工学部 Web サイト	2. Web サイト
3	学籍番号	3. 学籍番号
4	クラス担任制度	4. クラス担任
5	学生相談	5. 学生相談
6	大学院への進学	6. 大学院進学
7	就職	7. 就 職
8	学生証	8. 学生証
9	各種証明書類の交付	9. 証明書交付
10	各種異動・変更手続	10. 各種願提出
11	奨学金制度	11. 奨学金
12	掲示	12. 掲 示
13	学生の課外活動	13. 課外活動
14	安全管理	14. 安全管理
15	海外留学等	15. 海外留学
16	禁煙キャンパス	16. 禁煙 キャンパス
17	自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止	17. 自転車禁止
18	図書館（理工学生読書室・理工学図書館）	18. 図書館・ 読書室
19	コンピュータ・ルーム	19. コンピュータ・ ルーム
20	実験施設紹介	20. 実験施設
21	保健センター西早稲田分室	21. 保健センター
22	授業欠席の取り扱いについて	22. 授業欠席の取り 扱いについて
23	授業期間中の全学休講の取り扱いについて	23. 授業期間中の全学休 講の取り扱いについて
24	緊急時の通知方法	24. 緊急時の 通知方法

1 Support Anywhere

この学部要項とは別に、豊富な学内情報をまとめた Web サイト「Support Anywhere（サポエニ）」に施設利用や学生生活に関する情報が掲載されている。学部要項と共に活用してもらいたい。

<https://wnpspt.waseda.jp/student/supportanywhere/>

2 理工学術院および基幹理工学部 Web サイト

本学部では Web サイトを開設し、インターネットを通じた情報発信を行っている。各学科からの案内、各種申請手続や日程等の事務所からの情報、実験室等に関する情報を掲載している。

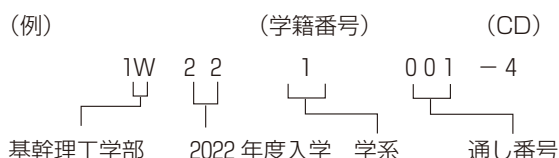
<https://www.waseda.jp/fsci/>

<https://www.fse.sci.waseda.ac.jp/>

3 学籍番号

本学部では入学のとき、学生個々について学籍番号を定めている。

学籍番号は、8 桁から成っている。初め 2 桁は学部コード（基幹理工学部は 1W）、次の 2 桁は入学年度（西暦年下 2 桁）、最後の 4 桁は基幹理工学部内における学生の番号を示す。



学籍番号とは別にコンピュータに入力する際にだけ使用するチェック・デジット(略称 CD)1 桁を付ける。これはコンピュータへの入力ミス防止のためのものである。

なお、再入学者等は学籍番号下 4 桁の番号を下表のとおり区分する。

種 別	通し番号	学科コード*
再 入 学	A601 ～	A 数学科
転部・転科	A701 ～	B 応用数理学科
編 入 学	A751 ～	C 情報理工学科
学 士 入 学	A801 ～	D 機械科学・航空宇宙学科
一般履修生	A901 ～	E 電子物理システム学科
委託履修生	A951 ～	F 表現工学科
		G 情報通信学科

4 クラス担任制度

学生生活等について、諸君の相談相手となつて、必要な指導助言を与えるために、クラス担任制度が設けられている。教員との人間的ふれあいや、勉学上・個人生活上のアドバイスを希望する者は、この制度を利用して、学生生活をより有意義なものとするのが望ましい。詳細については、理工学術院 Web サイトで確認すること。なお、面会を希望する場合は、直接研究室、教員に予約をとること。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・読書室

19. コンピュータ・ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 授業内容の問い合わせについて

23. 授業時間や学科の問い合わせについて

24. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・ 読書室
19. コンピュータ・ ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り 扱いについて
23. 授業時間外の学習の 取扱いについて
24. 緊急時の 通知方法

5 学生相談

(1) 理工学術院統合事務所 (51 号館 1 階)

科目登録・授業・試験・成績・学籍（休学・留学・退学等）・教室貸与・奨学金等、修学上に関わるすべての事項について、その相談に応じています。また、遺失物や拾得物も管理しているので、これらに関する質問があれば随時相談すること。

URL:<https://www.waseda.jp/fsci/students/counter/>

(2) ハラスメントの防止

本学では、「早稲田大学におけるハラスメント防止に関するガイドライン」を制定し、相談を受け付け、その解決に取り組むだけでなく、パンフレットや Web サイト等での広報や、研修等を通して、啓発・防止活動を実地しています。

Q ハラスメントとは何ですか？

A ハラスメントとは、性別、社会的身分、人種、国籍、信条、年齢、職業、身体的特徴等の属性あるいは広く人格に関わる事項等に関する言動によって、相手方に不利益や不快感を与え、あるいはその尊厳を損なうことをいいます。大学におけるハラスメントとしては、性的な言動によるセクシュアル・ハラスメント、勉学・教育・研究に関連する言動によるアカデミック・ハラスメント、優越的地位や職務上の地位に基づく言動によるパワー・ハラスメントなどがあります。

Q ハラスメントはどうして問題なのですか？

A ハラスメントをされた側にとっては、安心して学習・研究・労働する環境が阻害され、悪影響が生じ、学習・研究・労働する権利の侵害、つまり、人権侵害になるからです。ごく気軽な気持ちでの行為や言動が相手にとっては耐えられない苦痛となっていることもあります。結果として、日常生活に支障をきたすことも少なくありません。

Q 学生が加害者になることもあるのか？

A はい、あります。例えばサークルのコンパで性的な言動を繰り返したり、飲酒を強要したり、交際をしつこく迫った結果、相手が不快感を持った場合には、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントになりえます。

Q 「ハラスメントかな」と思ったら？

A あなた自身が被害に遭った時、友人からの相談を受けた時は、気軽に相談窓口にご連絡してください。専門のスタッフが対応します。相談の流れなど、詳しい内容につきましては、下記 Web サイトも参照してください。

■コンプライアンス推進室（旧 ハラスメント防止室）

初回相談は、電話・メール・FAX・手紙どの方法でも OK。来室前なら匿名でも結構です。あなたのプライバシーと意向を最大限に尊重します。来室希望の場合は、Web サイトをご確認の上ご予約ください。

☐相談窓口 ※相談しやすい方にご相談ください。

(学内) コンプライアンス相談窓口 (コンプライアンス推進室)

【E-mail】 compliance@list.waseda.jp

【URL】 <https://www.waseda.jp/inst/harassment/>

【開室時間】 月～金 9:30～17:00

(学外) 相談窓口 (委託先 NEC VALWAY 株式会社)

【TEL】 0120-123-393

【相談時間】 月～金 8:30～19:00 土 8:30～17:00

(日祝日, 年末年始を除く) ※英語・中国語対応可能

【URL】 <https://koueki-tsuhou.com/WFcXVtaEFdCd/>

※詳しくは Web サイトをご覧ください。

(3) スチューデントダイバーシティセンター

スチューデントダイバーシティセンターでは、国籍、エスニシティ、性別（男女だけではなく多様な性）、性的指向・性自認、障がいの有無などにかかわらず、多様な学生の豊かな学生生活環境の確保と、多様な価値観や生き方を受容するキャンパスづくりの推進を目的に、下記3オフィスが連携し支援や啓発を行っている。気軽にご相談、お問合せいただきたい。

ICC (異文化交流センター)

場所：3号館1階 TEL：03-5286-3990 E-mail：icc@list.waseda.jp

ラウンジ開室時間：授業実施期間 月～金 10:00～18:00 土 10:00～17:00

授業休止期間 月～金 10:00～17:00 土 閉室

URL：<https://www.waseda.jp/inst/icc/>

障がい学生支援室

身体障がい学生支援部門

場所：3号館1階110 TEL：03-5286-3747 E-mail：shienshitsu@list.waseda.jp

発達障がい学生支援部門

場所：27-10号館5階502 TEL：03-3208-0587 E-mail：shien02@list.waseda.jp

開室時間：月～金 9:00～17:00

URL：<https://www.waseda.jp/inst/dsso/> (両部門共通)

GSセンター (ジェンダー・セクシュアリティセンター)

場所：10号館2階213 E-mail：gscenter@list.waseda.jp

開室時間：月～金 9:00～17:00

URL：<https://www.waseda.jp/inst/gscenter/>

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・読書室

19. コンピュータ・ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 授業欠席の取り扱いについて

23. 授業時間中の学習機の利用について

24. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

6 大学院への進学

大学院は博士課程 5 年を、前期 2 年と後期 3 年に区分し、前期 2 年の課程を修士課程、後期 3 年の課程を博士後期課程として取り扱う。

修士課程を修了するには、大学院に 2 年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。修了すると修士（工学）、または修士（理学）の学位が授与される。ただし、優れた研究業績を上げた者については、研究科運営委員会が認めた場合に限り、この課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。

修士課程への進学には、推薦入学と入学試験の 2 つの方法がある。入学試験の詳細については、理工学術院統合事務所に問い合わせること。

(1) 推薦入学

本学部卒業生および卒業見込者で成績の優秀な者を対象に、推薦入学の制度がある。

(2) 入学試験

① 一般入学試験

卒業生および卒業見込者を対象に、専門科目の筆記試験（一部、口述試験）と面接により実施する。

② 飛び級入学試験（大学に 3 年以上在学する者に係わる特別選抜制度）

「大学に 3 年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者」を対象に特別選抜試験を実施する。

博士後期課程を修了するには、博士後期課程に 3 年以上在学し、各専攻の定める所定の単位を修得し、かつ、所要の研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし優れた研究業績を上げた者については、研究科運営委員会が認めた場合に限り、この課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。修了すると博士（工学）、または博士（理学）の学位が授与される。

博士後期課程への進学には、推薦入試と入学試験の 2 つの方法がある。入学試験の詳細については、理工学術院統合事務所に問い合わせること。

7 就職

(1) 就職活動

理工系学生の企業への応募方法には、「自由応募」と「推薦応募」の 2 種類がある。「自由応募」とは、各企業等からの求人情報をもとに、自分の希望する企業に直接応募する制度であり、現在の文系の就職活動はこの方法によって行われている。また、「推薦応募」とは理工系独自の応募形態であり、就職希望者の推薦を依頼してくる企業に対して、大学（学部・研究科・学科・専攻等）が推薦を行う制度である。企業が学科・専攻に推薦枠を指定してくる場合があるので、大学（学部・研究科・学科・専攻等）は学生の希望を確認し、希望者が多い場合には選考等を行った上で、被推薦者を決定することになる。詳細は各学科・専攻の就職担当教員に確認すること。

(2) 就職担当教員の指導等

各学科・専攻では、卒業予定者を対象に進路指導を行う就職担当教員を配置し、就職活動や進学について、適宜、必要な指導・アドバイスを行なっている。学生は就職内定状況等、現在の活動状況をその都度担当教員に報告すること。

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 授業時間外の学習の取扱いについて
24. 緊急時の通知方法

(3) 就職推薦状について

学部長・研究科長名での推薦状の発行は6月1日からとなる。推薦状が必要な学生は所属の学科・専攻連絡事務室にて定められた期間に所定の手続きを行うこと。発行にあたっては、6月1日に卒業・修了見込みがたっていることが前提となる。学科・専攻長名あるいは就職担当教員名で発行される「推薦状」あるいは「紹介状」については、学科・専攻の連絡事務所、就職担当教員に確認すること。

(4) 就職資料室等の利用

諸資料は、61号館1階の「就職資料室」に配架している。また、一部連絡事務室に掲示される場合がある。就職資料室では、求人情報、Uターン・Iターン情報、各企業や官公庁の資料のほかに業界・企業研究のための参考図書、情報誌、先輩の就職活動体験記等の諸資料を、自由に閲覧出来るように配架している。

(5) キャリアセンターの利用

キャリアセンターでは、自分自身のキャリア形成の考え方、学生時代の過ごし方（心構え、早稲田大学にあるリソース・チャンスをどう生かすか等）、といったアドバイスから実際の就職活動のサポートまで、幅広い支援を行っている。

〈主な活動〉

- ・ MyWaseda によるキャリア就職支援講座の配信（就活スタート講座・インターンシップガイダンスなど多数）
 - ・ その他キャリア形成支援イベント（公務員学習スタート講座、卒業生等現役社会人との交流イベント他）
 - ・ 就職支援イベント（業界・企業研究フェア、自己分析講座他）
 - ・ 企業・求人・卒業生名簿情報の提供（MyWaseda内キャリアコンパス内「企業・求人情報照会」より）
- ※キャリアセンターが提供する求人情報は「自由応募」のものです。

- ・ インターンシップの紹介および関連セミナー
- ・ キャリア・就活個別相談（進路に関することならどんなことでも）

※詳細はキャリアセンター Web サイトを確認すること。

【場所】 戸山キャンパス 30号館 学生会館3階

【時間】 平日 10:00～16:00

（変更される場合があるので、キャリアセンター Web サイトを確認すること。）

【TEL】 03-3203-4332（開室日の9:00～17:00）

【E-mail】 career@list.waseda.jp

【URL】 <https://www.waseda.jp/inst/career/>

(6) 内定・進路の報告

卒業・修了時には必ず内定（教員・公務員を含む）・進路（進学・留学・自営・未定などを含む）を報告すること。就職以外の場合も必須。

MyWaseda → 「キャリアコンパス」 → 「内定・進路の報告」より

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・読書室

19. コンピュータ・ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 夜間入居の取り扱いについて

23. 授業時間中の学生機動の取り扱いについて

24. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

8 学生証

学生証は、身分を証明するだけでなく、修学上の様々な場面で必要となるので、常に携帯し、破損・紛失のないよう注意すること。学生証は、他人に貸与または譲渡してはならない。

なお、学生証とは、「学生証カード」と有効年度を表示した「裏面シール」からなり、「学生証カード」の裏面に、「裏面シール」を貼り合わせて初めて効力が生じる。また有効期間は「裏面シール」に示された有効年度の4月1日から翌年3月31日までの1年間である。また、表面の所定の欄に氏名を記入すること。

(1) 交 付

新入生の学生証は、受験票と引き換えに交付する。

2年生以上は、学年末に裏面シールを交付するので、これを前年度のシールと貼り替えることで、学生証を更新したこととなる。

なお、学生証カードは在学期間中使用するが、写真変更希望者は、在学中1回に限り無料で交換できる。この場合は、理工学術院統合事務所に申し出ること。

(2) 紛 失

学生証を紛失した場合、悪用される恐れがあるので、ただちに警察に届け、理工学術院統合事務所で再交付の手続をすること。

(3) 再交付

紛失等のため再交付を受ける場合は、カラー写真（縦4cm×横3cm）を添付した所定の「再交付願」を理工学術院統合事務所へ提出すること。なお、紛失等による再交付の手数料として2,000円が必要となる。

(4) 提 示

試験等の受験、図書館や学生読書室の利用、各種証明書・学割の交付、種々の配付物を受けるとき、その他本学教職員の請求があったときは、学生証を提示しなければならない。

(5) 失 効

卒業または退学などにより学生の身分がなくなると同時に、その効力を失うので、ただちに理工学術院統合事務所へ返却すること。卒業の場合は、引き換えに学位記が授与される。

9 各種証明書類の交付

本学で発行する証明書は以下の表のとおりである。発行は原則として即日発行であるが、システムメンテナンスや証明書の種類等により数日かかる場合もあるので、十分な余裕をもって申し込むこと。

(1) 手数料

証明書の発行には手数料が必要になる。

在学中に関わる証明書 1通 200円（卒業者がその卒業日の属する月末までに申請した証明書を含む）

卒業生、退学者等に関わる証明書 1通 300円

(2) 発行方法

① 自動証明書発行機を利用の場合

学生証・暗証番号が必要となる。暗証番号はMyWasedaのパスワードを使用すること。

② 窓口で申し込む場合

所定の「証明書発行申込書」に必要事項を記入し、手数料収納証を貼付の上、学生証を添えて申し込むこと。

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 授業時間や学習の取扱いについて
24. 緊急時の通知方法

証明書種別一覧表（★は自動証明書発行機にて発行可）

種 別	
★在 学 証 明 書	教員免許状単位取得証明書
★成 績 証 明 書	退 学 証 明 書
★卒 業（修了）見込証明書	★英 文 在 学 証 明 書
卒 業（修了）証 明 書	★英 文 成 績 証 明 書
★成績・卒業（修了）見込証明書	★英文卒業（修了）見込証明書
成 績 ・ 卒 業 証 明 書	英文卒業（修了）証明書
教員免許状取得見込証明書	★英文成績・卒業（修了）見込証明書
★G P A 証 明 書	英文成績・卒業（修了）証明書
そ の 他 証 明 書	★英 文 G P A 証 明 書

(3) 学割

自動証明書発行機で無料で発行可能。

10 各種異動・変更手続

在学中、本人または保護者等に何らかの異動や事故等があった場合は、必ずその事項について所定の手続を行わなければならない。各種願・届は理工学術院 Web サイトで入手できる。

(1) 休学

① 休学の条件

病気やその他の正当な理由により、引き続き2か月以上授業（試験を含む）に出席できない者は、学部所定の申請手続を行い、学部長の許可を得たのち、休学できる。休学にあたっては、クラス担任または指導教員との面談を行い、必要書類を揃えたうえで、各学期の提出期日までに手続を済ませること。なお、他大学受験などの復学を前提としない休学は認められない。

休学種別	休学願の提出期日	休学終了日	復 学 日	休学年数
春学期休学	5月31日まで	9月20日	9月21日	0.5年
秋学期休学	11月30日まで	翌年3月31日	翌年4月1日	0.5年

② 休学期間

休学は春学期休学あるいは秋学期休学の2種類とし、当該学期限りとする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することがある。休学期間は在学年数に算入しない。春学期・秋学期継続休学または秋学期から次年度春学期継続休学を希望する者は復学手続時に休学継続を願い出ること。なお、在籍中に休学できる期間は、通算して4年を超えられない。

③ 休学期間の学費

休学願の提出日により、休学中の学費は下表のとおりとなる。

春学期休学願		秋学期休学願	
学費		学費	
4月30日まで	休学中在籍料 50,000円	10月31日まで	休学中在籍料 50,000円
	学生健康増進互助会費 1,500円		学生健康増進互助会費 1,500円
5月1日から5月31日まで	当該学期の全額		校友会費 (4年次秋学期の休学時のみ) 40,000円
		11月1日から11月30日まで	当該学期の全額

※入学と同時に最初の学期を休学する場合は、学費の減額はない。

※「兵役」を理由に休学する場合は、事前に理工学術院統合事務所に相談すること。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 夜間授業の取り組みについて
23. 修業年限中の学割の取り扱いについて
24. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・ 読書室
19. コンピュータ・ ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り 扱いについて
23. 授業時間外の学習の 取扱いについて
24. 緊急時の 通知方法

(2) 留学

- ① 外国の大学等高等教育機関に1学期相当期間以上在学し、学習または研究活動等を行う場合、学部所定の申請手続きに基づき、学部長の許可を得て、「留学」できる。「留学」となるかどうか不明な場合には、事前に理工学術院統合事務所に確認すること。
- ② 在籍中に留学できる期間は1年間相当とする。特別な事情がある場合は、さらにこれを延長できる。
- ③ 本学で主催する一部の留学プログラムを除いては、留学期間は在学年数に算入しない。ただし、留学先の大学において修得した単位数、その修得に要した期間、その他を勘案して、本学における教育課程の一部を履修したと認められた場合は、留学期間のうち1年または1学期を在学年数に算入できる。詳細は理工学術院統合事務所に問い合わせること。
- ④ 留学期間中の学費については、理工学術院統合事務所に問い合わせること。ただし、留学センターが主催する留学の場合は、留学センターにて確認すること。「15. 海外留学等」も確認すること。

(3) 復学

- ① 復学対象者（休学・留学期間終了者）に対し、復学の手続が必要とされる時期に、理工学術院統合事務所からその手続に関する書類を送付するので、これに従って手続を行うこと。
- ② 復学は学期始めに限られる。

(4) 退学

- ① 退学を希望する場合は、学生証を添えて、理工学術院統合事務所へ申し出ること。
- ② 学期の途中で退学をする場合でも、その期の学費を納めなければならない。
ただし、手続を4月14日までに完了した場合には春学期分学費が、9月末日までに完了した場合には秋学期分学費が、それぞれ発生しない。
詳細については、理工学術院統合事務所に問い合わせること。

(5) 再入学

正当な理由で退学した者が、再入学を願い出た場合、退学した学年の翌年度から起算して、7年度までの間に限り許可されることがある。詳細については、理工学術院統合事務所に問い合わせること。

(6) 保護者等・学費負担者変更届

- ① 本人の住所・電話番号等が変更された場合は、直ちに MyWaseda の「個人情報照会・変更」画面から変更届けを行うこと。また、本人の住所が変更された場合は、Waseda メールアドレス宛に承認メールが届いた後、理工学術院統合事務所にて新しい学生証の裏面シールを受け取ること。
- ② 保護者等または学費負担者の住所・電話番号が変更された場合は、直ちに理工学術院統合事務所で所定の手続を行うこと。
- ③ 在学中に改姓（名）をした場合は、戸籍抄本等を添付のうえ、直ちに理工学術院統合事務所で所定の手続を行うこと。
- ④ 死亡その他の理由で保護者等を変更する場合は、直ちに新しい保護者等を届け出ること。

11 奨学金制度

本学には、多くの奨学金制度が準備されている。奨学金には返還の必要のない「給付」奨学金と返還の必要がある「貸与」奨学金がある。

奨学金に出願する場合は、毎年、西早稲田キャンパス 53 号館 1 階にて配布する「奨学金情報 Challenge」を入手し、そこに記載されている所定の手続（奨学金登録）をする必要があるため十分に注意すること（一部の奨学金を除く）。なお、登録の出願資格は日本国籍を有する者、または永住者・定住者・日本人（永住者）

の配偶者、子である。

その他の奨学金の募集等があった場合は、随時、正門掲示板、および理工学術院 Web サイトに掲示する。各学科における独自の奨学金に関しては、学科からの情報に注意すること。

なお、家計支持者の死亡・失職または災害等により、家庭の経済状況が急変した場合は、未登録であっても奨学課に申し出ると、早稲田大学緊急奨学金・日本学生支援機構奨学金の緊急・応急採用等が適用される場合がある。

在留資格が、永住者・定住者・日本人（永住者）の配偶者、子以外の場合、外国人留学生向けの奨学金の対象となる。外国人留学生対象の奨学金の一覧は、「早稲田大学留学生ハンドブック」に記載されている。奨学金希望者は、理工学術院 Web サイトにて周知される奨学金に、募集のある都度申し込むこと。

12 掲示

(1) 立看板について

原則として西早稲田キャンパス内でのサークル等学生団体の立看板は認めない。ただし、正当な理由であると判断された場合は設置を許可する場合もある。理工学術院統合事務所総務課に問い合わせること。

許可された場合は、①通行の妨げになるような場所への設置はしないこと、②倒れないように針金等で固定をすること、③保護のため樹木への固定は行わないこととする。

また貸出しは掲示板のみ行っている。掲示物の印刷・貼り付け等は借主が各自で行うこと。

(2) 掲示物・ビラについて

掲示板については、次項の表を参照すること。掲示板を使用する際は、次のルールに従うこと。ルールに反する場合には撤去する。

- ① 理工学術院統合事務所に申し出て承認を受けること。
- ② 掲示の期限を明示すること。
- ③ 期限を過ぎたものは自ら撤去すること。
- ④ ビラの配布は原則禁止とする。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙
キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・
読書室

19. コンピュータ・
ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 夜間大講の取り
扱いについて

23. 夜間講義や夜間講義の
取り扱いについて

24. 緊急時の
通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

掲示板一覧

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 授業時間外の学習の取扱いについて
24. 緊急時の通知方法

場所	掲示板名称	掲示内容
正門掲示板	総合案内掲示板	各掲示板の掲示内容案内 講演会案内 催物案内 学生の会イベント インターンシップ情報 イベント情報
	入試掲示板	入試情報
	学生支援掲示板	学部奨学金・大学院奨学金 就職情報・キャリアセンターからのお知らせ 資格
	授業関連掲示板	他箇所関係（グローバルエデュケーションセンター，教職他） 科目登録情報 休講情報 レポート 試験情報
51・60・61号館北側 外通路	学科・専攻ごとの掲示板	学科・専攻ごとのお知らせ
56号館1階	実験掲示板	応用物理学実験等の情報
57号館2階 ラウンジ	案内掲示板	催物案内 イベント情報
51号館学生ラウンジ	学生の会限定掲示板	学生の会 告知スペース
西門掲示場	西門掲示板	各掲示板の掲示内容案内 講演会案内
50号館3階	50号館事務所掲示板	TWIns 関連情報，50号館セミナールーム時間割表，講演会案内

13 学生の課外活動

学生生活は本来勉学を中心として展開されるべきである。しかし専門の知識を得ることのみに終始することは決して望ましいことではない。科学技術の根幹を理解するには多くの知識を必要とするが、それだけに、視野が狭くなりがちである。孤立した個人的な生活、少数の仲間とだけの閉鎖的な生活からは、広い教養と豊かな人間性を持った人物は生まれにくいものである。

本学術院には教員、卒業生、在學生で構成されている多くの学会がある。この学会には学生会があって、課外活動に対して種々の便宜が与えられている。本学術院の特殊性を生かした学生会と連絡を密にし、課外活動によって学生生活の充実をはかることが望まれる。

学生の課外活動は、大学という集団の中で最大限の自由が保障されなければならないことはいうまでもないが、それだけに、諸君は責任を持ち、規律を守らなければならない。課外活動はそれを通じて自己の人間形成をはかり、将来社会で活動する準備をすることが目的であるから、ある特定の目的をもつ外部の団体に左右され、プロ化して行動をすることは慎むべきだろう。

学生生活で諸君は種々の困難につきあたるにちがいない。その時は学友、クラス担任との話し合い、あるいは保健センターの利用等を通してそれらを乗り越え、悔いのない学生生活を送るよう努力してほしい。

本学には多くの学生の会およびサークルがあり（早稲田大学学生部 Web サイト参照）、本学部の学生もこれに参加し、活躍している。

14 安全管理

西早稲田キャンパスには、学生・教職員 10,000 人以上が集い、教育研究活動を行っている。理工系の特徴でもあるが、主に研究活動に専念する学部 4 年生、大学院生は 4,000 名を超え、多種多様な研究活動が展開されている。教育研究活動中の事故を未然に防ぐため、その他安全に関する諸課題を検討し改善を図るべく、教職員からなる「西早稲田キャンパス安全衛生委員会」が設置され、そのもとに様々な安全管理体制が組織され、安全衛生一斉点検をはじめキャンパス内の安全管理が行われている。

このような中、学生諸君には、以下の点を遵守してもらいたい。

- ・各実験科目においては、実験ガイダンスを通して、安全に関する注意があるので、それらを必ず守り、常に安全を意識して実験に取り組むこと。
- ・卒論実験における安全については、研究分野ごとに特殊な内容があるので、指導教員等の指示に従い、作業の安全を確認して実験すること。
- ・各実験室等が開催する安全講習会等に積極的に参加し、学内ルール等を遵守すること。

また、新入生や研究室配属前の学部 3 年生を対象とした「安全 e-learning プログラム」(MyWaseda) や研究時の安全対策をまとめた「安全のてびき」(技術企画総務課 Web サイトの「安全衛生関連情報」からダウンロード可) などを活用するとともに、不明な点は関係する実験室等の技術系職員に問い合わせを欲しい。

(メールの問い合わせ: anzenrenraku@list.waseda.jp)

理工系の学生として、学内のルールはもちろん、関係する法律・条令を遵守し、自分のみならず、周囲の安全、広くは地球規模の環境安全・保全を意識し行動すること。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・読書室

19. コンピュータ・ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 授業力向上の取り組みについて

23. 国際化推進の取り組みについて

24. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

緊急時の対応

(1) けが・重病

大けが・重病の場合には、学内緊急電話（学内緊急電話：内線 2000（西早稲田キャンパス内からのみ）、外線 03-5286-3022）に連絡すること。緊急性（動かさないほうがよい・動かせない場合も含む）があると判断し、直接 119 番に通報した場合は、救急車誘導のため学内緊急電話にも必ず連絡すること。けがをした人・具合の悪い人が動かせる場合には、保健センター（西早稲田分室 51 号館 1 階：内線 2640）で処置を受け、必要があれば学外の医療機関で治療を受ける。同センターが不在のときは学内緊急電話に連絡すること。

西早稲田キャンパスには 7 台の AED が設置されていて緊急事態の場合、状況に応じて使用できる。

【参考：AED 設置場所】http://www.tps.sci.waseda.ac.jp/03_safety/aed/aedlayout.pdf

緊急時の心肺蘇生、AED の使用方法などに関心がある学生は「普通救命講習」を受講すること。詳細は技術企画総務課 Web サイトまたは MyWaseda などでも通知する。

(2) 火 災

近くにある消火器で初期消火するとともに、場所・状況等を学内緊急電話に至急連絡し、その指示を受けること。消火器で消火できない場合には、近くの人とともに避難すること。教室棟の廊下等には非常用電話（赤いボックス）が設置されているので、それを使って学内緊急電話（内線 2000）に連絡できる。

(3) 大地震

地震が静まるまで、机等の下で身の安全を確保する。大学は、大学本部・各キャンパスに対策本部を設け、情報の収集、学生・教職員の安全確保をはかることにしているため、その指示に従うこと。大学総務部発行の「大地震対応マニュアル（学生用）」を参考にすると良い。

15 海外留学等

海外留学についての時期・学費・単位認定の可否および学部独自のプログラムについては理工学術院統合事務所教学支援課に相談し、全学生を対象にした本学の海外留学プログラムの内容や応募手続方法などについては、留学センター作成の「留学の手引き」や留学センター Web サイト（<https://www.waseda.jp/inst/cie/>）をまず参照すること。

全学生を対象にした本学の留学プログラムの概要は、大別すると以下のとおりであるが、留学センター提供の留学プログラムへの参加を検討する学生は、4 月と 10 月に開催される「留学フェア」への参加を勧める。留学の概要説明や注意点、プログラムの情報入手方法、Waseda Global Gate の使用方法など、留学を検討するのに有益な情報が得られる。特に長期留学の場合、遅くとも 1 年以上前からの準備が必要であるため、年間を通した留学応募手続案内などの具体的日程や情報案内等について、随時留学センター Web サイトで確認すること。

本学の留学プログラムの留学費用については、プログラムによって取扱いが異なる。奨学金は、日本学生支援機構（JASSO）の海外留学支援制度（協定派遣）奨学金、WSC メンバーズ基金グローバル人材育成奨学金、早稲田大学学生交流奨学金等があり、奨学金の募集要項等は留学先大学が決定した後に配付される。また、留学先が決定する前に奨学金受給の可否が分かる「（予約採用型）早稲田の栄光奨学金」、「（新設、予約採用型）ハバタケ世界の空奨学金」などもある。詳細については、留学センターの Web サイトや「留学の手引き」を確認すること。

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 履修期間や学習時間の取扱いについて
24. 緊急時の通知方法

プログラムの概要

(1) Double Degree Programs (DD)

本学在学中にダブルディグリーのカリキュラムを提供する大学に留学し、所定の要件を満たせば、卒業する際に本学の学位と留学先大学所定の学位の両方を取得できるプログラム。留学先大学におけるダブルディグリー課程修了のためには、外国語に関する高度な読解力、聴解力、会話力が求められるため、参加希望者の語学力については特に厳格な審査を行う。なお、プログラムによって、対象学部・研究科や期間が異なる。

(2) Exchange Programs (EX)

大学間あるいは箇所間の交換協定に基づき留学する制度。留学期間は原則として1学年相当期間だが、1学期間のものもある。最初から比較的高い語学力が要求され、現地の学生と共に通常科目を履修するプログラムが一般的である。ただし、一部外国語学習を中心としたプログラムもある。人数枠は通常、各校1～3名である。学費は原則として本学に支払い、留学先大学の学費は免除される。

(3) Customized Study Programs (CS)

留学先大学が早稲田大学生のために定めるカリキュラムに参加するプログラム。最初から通常科目を履修できるプログラムと、外国語学習を中心としながら、語学レベルに応じてテーマに基づいたカリキュラムを履修するプログラムの大きく分けて2種類がある。留学期間は原則として1学年相当期間だが、1学期間のものもある。学費は原則として本学のものは免除になり、留学先大学に所定のプログラムフィーを支払う。

【プログラム種別】

上述の(2)・(3)のプログラムは更に、以下の2種類に分類される。

a. Regular Academic Programs

留学先大学の通常カリキュラムの中で、現地の学生と共に通常科目を履修する。

b. Language Focused Programs

留学先大学では外国語を中心として学習するが、一部、通常科目を履修することが可能な場合もある。

<組み合わせ例>

プログラム名称	プログラム種別	略称
Exchange Programs (EX)	Regular Academic Programs	EX-R
	Language Focused Programs	EX-L
Customized Study Programs (CS)	Regular Academic Programs	CS-R
	Language Focused Programs	CS-L

(4) 短期プログラム

夏季・春季休業期間に実施する2週間から8週間程度の短期プログラム。内容はプログラムごとに異なるが、語学研修、テーマ研究等を学ぶカリキュラムになっている。長期での留学が難しい学生、あるいは長期留学の前に自分の異文化適応力や外国語能力を試す目的で短期留学プログラムに参加してみたい学生にすすめる。交換留学協定校による学費免除のプログラムも一部提供している。留学センターの短期留学プログラムは、海外研修科目「海外語学・文化研修プログラム」の科目登録を行うことで単位の取得が可能である。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support
Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙
キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・
読書室

19. コンピュータ・
ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 授業内容の取り
扱いについて

23. 授業時間や学習場所の
取り扱いについて

24. 緊急時の
通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 授業時間外の学習の取扱いについて
24. 緊急時の通知方法

(5) その他の留学

早稲田大学が提供するプログラムの中に希望する留学先がない場合や、早稲田大学を卒業後に大学院留学をする場合は、自分で留学先を探して留学することになる。私費留学は、自分で希望大学から入学許可を得、私費で留学先の学費と生活費をまかなう形の留学形態をいう。私費留学のカテゴリーの中には、もっぱら語学学習のための留学や、Visiting StudentあるいはNon-degree Studentといった呼称で呼ばれるものもある。出願は通常入学する時期の約半年前で締め切られる。最近ではインターネットで出願を受け付ける大学も出てきているが、余裕をもった準備が必要となる。また、留学先で取得した単位が帰国後に早稲田大学で認定されない場合があるので、理工学術院統合事務所でよく確認すること。学籍上の扱いについても、ケースによって異なるため理工学術院統合事務所に確認すること。また、学部独自に主催される留学プログラムが、その都度学部・掲示板にて募集される場合がある。

16 禁煙キャンパス

受動喫煙（他人のタバコの煙を吸わされること）の防止を謳った健康増進法の施行、文部科学省通達、新宿区条例の施行および分煙化徹底についての本学理事会決定に基づき、西早稲田キャンパスにおける分煙ルールを以下のように定めている。各自、分煙ルールを厳守すること。また、通学中の路上喫煙に関しては、マナーとルールを守ること。早大生としての自覚を持った行動が望まれる。

1. 「喫煙指定場所」を除き、公共の場所（教室・ゼミ室、実験室、会議室、ラウンジ、ホワイエ、アトリウム、図書館・学生読書室、生協施設、中庭、廊下・階段・通路・エレベータ、トイレ等）、および屋外エリアを禁煙とする。
2. 研究室など、ゼミや学生指導を行う場合は教室とみなし、禁煙とする。
3. 歩行喫煙、吸殻の投げ捨て等は厳禁とする。

17 自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止

学生が西早稲田キャンパス内へ自転車、バイク、自動車を乗り入れ、駐輪・駐車することは、原則として禁止している。また、周辺道路も終日駐車禁止となっているため、自転車、バイクおよび自動車を通学に利用することを禁止する。なお、自転車の場合に限り、特別の事情がある場合は理工学術院統合事務所総務課（51号館1階）に問い合わせること。

これまで、本学の学生によるものと思われる正門前道路や明治通り側歩道等の違法駐輪・駐車に対して近隣住民からたびたび苦情が寄せられ、所轄の警察署からも再三にわたり厳しい注意をうけている。また、この迷惑駐車が原因となって交通事故も発生している。周辺通路の駐車禁止を厳守すること。自分だけなら、違法駐輪しても問題ない、という意識を捨て、早大生としての自覚を持った行動が望まれる。

18 図書館（理工学生読書室・理工学図書館）

早稲田大学には全学で20以上の図書館・図書室等があり、総称して「早稲田大学図書館」という。学部学生は12箇所、大学院学生は14箇所の図書館・学生読書室等で資料の貸出を受けることができる。サービス全般については、図書館Webサイト <https://www.waseda.jp/library/> に詳細な案内がある。図書館システムやサービスについての最新情報は図書館Webサイトで確認すること。

所蔵資料は統合検索システムWINE（ワイン）<https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/> でどこからでも検索できる。WINE上でログインすることで、自分が借り出している資料の状況確認や貸出期間の

延長、資料のリクエストもできる。

図書や雑誌、新聞、視聴覚資料といった現物資料だけではなく、電子ブック、電子ジャーナルやオンラインデータベースの電子資料も多数契約しているので、活用してほしい。リサーチ NAVI「データベース・電子ジャーナルを利用する」<https://waseda-jp.libguides.com/research-navi/e-resources/jp> で案内している。自宅等、学外から電子資料を利用するには、「学外アクセス」https://www.waseda.jp/library/search_find/off-campus-access/ を経由すること。

西早稲田キャンパスには、理工学生読書室と理工学図書館がある。以下それぞれの特長と利用上の注意事項を紹介する。

(1) 理工学生読書室 52 号館地下 1 階

理工学術院の学生を主な対象とする学習図書館であり、理工系分野を中心に学習に適した日本語図書がそろっている。利用の多い本は複本制をとり、複数冊用意している。

(2) 理工学図書館 51 号館地下 1 階

理工系分野の学術雑誌と外国語を含めた図書（参考図書含む）を蔵書の中心とした研究図書館である。学習・研究のためのラーニング・コモンズを設置しており、図書館の資料や電子資料を利用しながらの議論やグループ学習ができる。

(3) 利用上の注意事項

- ① 通常授業期間中の開館時間 月～金 9:00～21:00 土 9:00～19:00
(長期休業期間中等は変更になるので図書館 Web サイトにあるカレンダーを参照のこと)
- ② 学生証は必ず持参。忘れた場合は図書館を利用できない。
- ③ 館内では喫煙、雑談、携帯電話での通話、飲食は禁止。
- ④ 図書資料は大切に扱うこと。無断持ち出し、書き込み、線引き、汚損等があった場合は厳正に対処する。
- ⑤ 貸出期限を 4 日以上超えた場合は、その本を返却するまで貸出停止となり、返却後は 1 冊につき返却期限日から経過日数分の貸出停止となる。
- ⑥ 契約電子資料の利用に際しては、ルールを遵守すること。<https://waseda-jp.libguides.com/imas/help#notice>
- ⑦ 一部の雑誌については、埼玉県にある本庄保存書庫へ別置している。
- ⑧ 理工学生読書室には図書館ラーニング・アシスタントがいるので、わからないことがあれば、質問すること（大学・図書館の方針等により、活動を休止する場合あり）。
- ⑨ その他図書館利用上で不明な点があったら、まずは図書館 Web サイトを検索する。それでもわからない場合は、カウンターで問い合わせるか、MyWaseda からオンラインレファレンスを利用すること。

MyWaseda → 「研究」タブ → 図書館申請フォーム → オンラインレファレンス

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 長期休業中の学習の取り組みについて
24. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 授業中の学習機材の取扱いについて
24. 緊急時の通知方法

19 コンピュータ・ルーム

西早稲田キャンパスには、約 700 台のコンピュータが授業等で利用されている。授業等による利用が優先されるが、利用していない時間帯は、レポート作成やインターネット閲覧など自由に利用できる（オープン利用）。

63 号館 3 階（2022 年 4 月現在）

名 称	収容人数	利用可能な OS				備 考
		Win (日)	Win (英)	Linux	MacOS X	
A ルーム	80 名	○	○	○	—	島型レイアウト
B ルーム	80 名	○	○	○	—	
C ルーム	100 名	○	○	○	—	
D ルーム	48 名	○	○	—	○	教室型レイアウト
E ルーム	50 名	○	○	—	○	
F ルーム	48 名	○	○	○	—	MacBook Air を設置
G ルーム	48 名	○	○	○	—	教室型レイアウト
GroupWorkSpace	約 10 名	—	—	—	—	語学授業を想定した構成 ワイヤレスプレゼンテーションシステム設置

その他（2022 年 4 月現在）

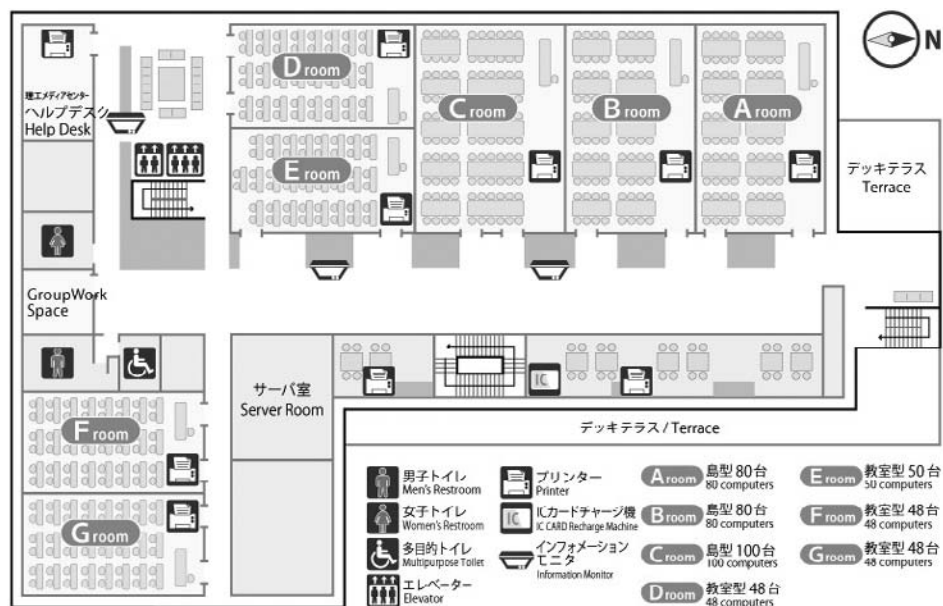
名称	収容人数	利用可能な OS	場所
製図 / CAD 室	222 名	Windows (日)	57 号館 1 階

各コンピュータ・ルームの利用状況は、インフォメーションディスプレイ（63 号館 1 階・3 階に設置）および理工メディアセンターの Web サイト（<http://www.waseda.jp/mse/>）“コンピュータ・ルーム利用スケジュール”で確認できる。

〈相談窓口〉

学内の情報環境や各種サービス利用についての相談窓口として、ヘルプデスクが 63 号館 3 階南側に設けられている。

63 号館 3 階 情報フロアマップ / Third Floor Map at Building 63



○ Windows 環境を利用する

すべてのコンピュータ・ルームで Windows が利用できる。Word, Excel, PowerPoint のほか、理工系ソフトウェア、ソフトウェア開発環境などが用意されている。

○ Linux 環境を利用する

63 号館 3 階の A, B, C, F, G ルームでは Linux 環境が利用できる。主にプログラミング言語やアルゴリズム、数値解析などの授業で利用されている。

○ MacOS X 環境を利用する

63 号館 3 階の D, E ルームでは MacOS X 環境が利用できる。Word, Excel, PowerPoint のほか、Photoshop や Illustrator (E ルームのみ) などが用意されている。

○ 語学学習環境を利用する

63 号館 3 階の F, G ルームでは、ヘッドセットが常設されており、語学学習を支援する CALL システムが利用できる。主に語学の授業およびオープン利用時の自主学習で活用されている。

20 実験施設紹介

(1) 共通実験室

西早稲田キャンパスや 50 号館 (TWIns) には、1 年次、2 年次、3 年次に履修する基礎実験科目や各学科が設置している専門実験科目などを実施する教育実験施設がある。これらを学科の枠を越えて共通的に利用していることから共通実験室と呼んでいる。これらの実験室では実験・実習科目を中心に実施しているが、ここで保有する設備は研究活動にも広く利用されている。

○ 理工学基礎実験室

理工学基礎実験室では、「理工学基礎実験 1」および「理工学基礎実験 2」を実施している。それぞれの学問分野ごとに、物理系基礎実験室・化学系基礎実験室・生命科学系基礎実験室・工学系基礎実験室の 4 つの実験室で構成されている。

理工学基礎実験室 (物理系) / 56 号館 2 階

「理工学基礎実験 1」の物理系分野の基礎実験を行っている。ものづくりをベースとした創造的でユニークな実験を通して物理学の基礎を学ぶ。

理工学基礎実験室 (化学系) / 56 号館 3 階

「理工学基礎実験 1」および「理工学基礎実験 2」の化学系分野の基礎実験を行っている。身近な化学的事象を扱った実験を通して、合成、抽出、分析等の化学に関する基礎的な知識と操作を学ぶ。

理工学基礎実験室 (生命科学系) / 56 号館 3 階

「理工学基礎実験 1」の生命科学系分野の基礎実験を行っている。細胞の観察や DNA の抽出などの生命科学系の基礎を学ぶ。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・読書室

19. コンピュータ・ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 授業欠席の取り扱いについて

23. 昼間部・夜間部の違いについて

24. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

理工学基礎実験室（工学系）／63号館地下1階東側
「理工学基礎実験2」の工学系分野の基礎実験を行っている。走査型電子顕微鏡操作やコンピュータ自動計測などを通して、高度で実践的な工学系の基礎技術を修得する。

○材料実験室／59号館1階東側

各種構造材料（金属・木材・コンクリート）の強度試験・物性試験や構造物の強度評価に関する専門実験を実施している。

○工作実験室／59号館1階西側

機械工作設備を用いた機械工作実習を行う実験室。工作指導を受けながら研究実験用の実験装置・部品加工や試作などを行える。

○熱工学実験室、流体実験室、制御工学実験室／58号館1階

これらの実験室ではそれぞれ、熱工学、流体工学、制御工学に関する専門実験を実施している。流体実験室では水理・水質に関する専門実験も実施している。

○製図・CAD室／57号館1階

ドラフターと平行定規（製図台）を合わせて約400台有し、建築系、機械系の製図の基礎を習得する実習やCAD（コンピュータを使用した）による設計製図演習の授業が行われている。

○測量実習室／61号館地下1階

さまざまな測量機器を用いた測量実習を実施している。測量実習以外にも写真測量による自然環境変化の判読や計測測定、遺跡調査等の研究に利用されている。

○電気工学実験室／63号館地下1館西側

電気・電子系分野および情報通信分野の専門実験を実施している。また、電圧・電流・磁場の測定や回路製作などに関する技術相談も行っている。

○化学分析実験室／56号館5階

重量分析・容量分析・機器分析など無機分析化学の専門実験を実施している。古典的な化学分析の基礎から大型装置を使用した機器分析まで幅広い知識と技術を習得できる。

○物理化学実験室／56号館4階

化学の対象である物質や物質を構成している化合物、分子などについて、物理学的な手法を用いた専門実験を実施している。

○有機化学実験室／56号館5階

試薬、器具・装置の取扱い方から有機化合物の合成、分離・精製など有機化学実験の基本を学ぶ。講義で学んだ反応機構などを実際に実験を通して確認し、有機化学の知識の理解をさらに深める。また、実

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 履修制の取消申請の取扱いについて
24. 緊急時の通知方法

験操作を繰返し訓練することで有機化学の実験操作方法の技術を習得する。

○生命科学実験室：先端生命医科学センター TWIns 共用実験室／50 号館 3 階

本実験室では遺伝子やタンパク質などの生体分子の取扱い方法や、細胞の培養や分画、生物個体を用いた形態学的・生理学的な実験を行い、生命科学の手法を幅広く習得する。

(2) 研究用共同利用施設

研究用共同利用施設では、研究用として共同利用が可能な大型装置や精密計測機器などが集中的に管理され、幅広い研究活動に利用されている。また、それぞれの機器利用講習会や技術相談なども行われている。

○物性計測センターラボ／55 号館 S 棟地下 1 階

物性計測センターラボは、物質の構造を解析するための研究用共同利用施設である。研究室に配属された 4 年生から大学院修士課程、博士後期課程、研究員まで様々な分野の研究で利用されている。最先端の研究用計測機器が整備されているため、学内だけでなく他大学や研究機関などからの利用もある。

○マイクロテクノロジーラボ／55 号館 N 棟地下 1 階

半導体加工装置やクリーンルームを研究用の共同利用設備として開放している。機械工学、物性物理、化学、材料工学など幅広い分野の研究者に利用されている。

○映像情報ラボ／61 号館 3 階

マルチメディア研究や教材作成などのための映像情報系機器を、共同利用設備として開放している。大型カラープリンターを用いた学会発表やプレゼンテーション用のポスター作成などを行える。

○先端生命医科学センター共通機器室

50 号館（TWIns）に於いて、生命科学系の資料分析に用いられる、遠心機、MS、FC、DNA シーケンサー、リアルタイム PCR、X 線回折装置、ガスクロマトグラフ、などの機器類を整備設置している。リサーチサポートセンターの管理の下、利用開放されている。

21 保健センター西早稲田分室

保健センター

保健センターは学生が健康な状態で大学生活が送れるように、健康の基礎作りと生涯を通じて心身の健康の自己管理能力を身につけるよう援助していくことを目的に設置されている。保健センターは、早稲田キャンパスのほか、各キャンパスに分室が設置されている。

なお、詳細については、Web サイト（<http://www.waseda.jp/hoken/>）を参照すること。

保健センター西早稲田分室（51 号館 1 階 07 室）

開室時間 月～土曜日 9：00～17：00

直通電話 03-5286-3021 〈学生相談直通 03-5286-3082〉

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙
キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・
読書室

19. コンピュータ・
ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 授業力向上の
取り組みについて

23. 国際化推進
の取り組みについて

24. 緊急時の
通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

【主な業務】

- (1) 学生定期健康診断
- (2) 学生・教職員の特殊健康診断
- (3) 各種健康診断書の発行
(ただし、定期健康診断を受診した者に限る)
- (4) 健康相談
月～土曜日 9:00～17:00
- (5) 医師による診察
診察受付時間 月～金曜日 13:30～15:40
- (6) 応急救急処置、傷病者の休養
月～土曜日 9:00～17:00
※西早稲田分室の前室（入り口の部屋）は常時開室しているので、簡単な傷の手当て等必要な時はいつでも利用できるようになっている。
- (7) 学生相談（51号館 1F, 9F）
月～金曜日 9:00～12:00, 13:00～17:00（予約優先）
※心理相談、学生生活全般について心理専門相談員が応じている。
- (8) 健康教育

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 授業期間中の学業上の取扱いについて
24. 緊急時の通知方法

22 授業欠席の取り扱いについて

以下の事例により、「授業欠席（オンライン授業における未受講を含む）」、「レポート未提出」、「試験未受験」に該当する場合は、所属箇所（学部・研究科等）事務所で手続きを行うことで、その間の取り扱いについて成績評価において不利にならないよう当該科目の担当教員に配慮をお願い出ることができる。ただし、欠席の取扱いの最終的な判断は、担当教員の判断による。

(1) 忌引き

- ① 対象
1 親等（親、子）、2 親等（兄弟姉妹、祖父母、孫）および配偶者
- ② 日数
授業実施日連続7日まで（ただし、対象者が海外在住者の場合は、柔軟に対応する）
- ③ 手続方法
 - I 欠席期間終了後10日以内に、所属箇所事務所より「忌引きによる欠席届」を受け取る。
 - II 「忌引きによる欠席届」（記入済）および会葬礼状等を、すみやかに所属箇所事務所に提出する。
※保護者等死去の場合は、保護者等変更の手続きも必要。
 - III 所属箇所事務所より「忌引きによる授業欠席等に関する取扱いのお願い」を受領。
 - IV 担当教員に、教場にて（オンライン授業の場合はEメール、LMS等を通じて、あるいは科目設置箇所事務所に）、「忌引きによる授業欠席等に関する取扱いのお願い」を渡し、配慮をお願い出る。

(2) 裁判員制度

① 対象

裁判員候補者に指名され、裁判員選任手続期日、審理・公判当日に、裁判所へ出頭する本学通学課程に在学する者（国内交換留学生は、これに準ずる）

※科目等履修生や人間科学部 e スクール学生は対象外とする。

【参考】法律により学生であることを理由に、裁判員の辞退を願い出ることができる。

裁判員の参加する刑事裁判に関する法律（第十六条抜粋）

（辞退事由）

第十六条 次の各号のいずれかに該当する者は、裁判員となることについて辞退の申し立てをすることができる。

- 一 年齢七十年以上の者
- 二 地方公共団体の議会の議員（会期中の者に限る。）
- 三 学校教育法第一条、第二百二十四条又は第三百二十四条の学校の学生又は生徒（常時通学を要する課程に在学する者に限る。）

② 手続方法

I) 「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」とともに、所属箇所事務所に申し出る。

II) 担当教員に、教場にて（オンライン授業の場合は E メール、LMS 等を通じて、あるいは科目設置箇所事務所に）、「配慮願」を渡し、配慮を願い出る。

(3) 学校において予防すべき感染症【保健センター／学校保健安全法による】

① 対象

保健センター Web サイト「学校において予防すべき感染症」参照

* 新型コロナウイルス関連についても以下を確認すること。

<https://www.waseda.jp/inst/hsc/information/healthcare/infection>

② 手続方法

I) 罹患したことを、所属学部または大学院事務所に連絡する。

II) 治癒後、診断を受けた医師に「学校における感染症治癒証明書」の記入を依頼し、所属学部または大学院事務所に提出する。

III) 所属学部または大学院所定の「欠席届」に記入し、所属学部または大学院事務所の指示に従い、担当教員に配慮を願い出る。

※新型コロナウイルス感染症の場合は、出席停止を指示する範囲及び手続方法が異なる場合があるため、最新の情報を上記の保健センター Web サイトで確認すること。なお、罹患の場合のみならず、ワクチン接種の副反応による欠席および大学が出席停止を指示した場合等の欠席も、配慮を願い出ることが可能である。詳細は所属の学術院事務所で問い合わせること。

(4) 「介護等体験」「教育実習」期間の取り扱い【教職課程】

① 対象

教職課程を履修し、「介護等体験」または「教育実習」を行う者

② 日数

実習期間

※クォーター科目の履修期間中に実習期間が該当する場合、配慮が難しいため、当該期間にはクォーター科目の履修登録を行わないこと。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・読書室

19. コンピュータ・ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 夜間入居の取り扱いについて

23. 緊急時の学内安全確保の取組について

24. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 授業時間中の全学休講の取り扱いについて
24. 緊急時の通知方法

③ 手続方法等

介護等体験，教育実習ともに欠席配慮の申し出方法とその手続きは，対象者へ Waseda Moodle 等で通知する。所定の手続きを行うことで欠席の配慮を申し出ることができるが，この最終的な取扱いはいは各科目担当教員の判断による。

23 授業期間中の全学休講の取り扱いについて

気象情報悪化等，次に挙げる事案に際し，全学休講とする場合がある（休日および休業期間を除く）。休講・延期となるのは，対象キャンパスにて対面で実施されるすべての授業および試験である。

学生は大学の決定した授業の休講・試験の延期措置に原則として従うこととするが，授業が実施されるキャンパスまでの経路において，交通機関の乱れや弾道ミサイル発射に伴う Jアラート発信等により通学することが危険又は困難であると自身で判断し，通学を見合わせた場合は，所属箇所事務所による承認済みの欠席届をもって，該当科目の担当教員へ配慮を願い出ることができる。

■例外的な対応

※オンライン授業受講にあたっては，授業を受講する場所において，気象状況の影響等により受講が困難である場合は，各自で判断する。各自の判断で視聴を見合わせた場合は，後日所属学部（研究科）において手続きを行うことにより，欠席の配慮を求めることができる。

(1) 気象状況悪化

気象庁による気象警報のみに基づく授業の休講・試験の延期措置は行わない。ただし，大雨，洪水，暴風，暴風雪，大雪等の気象状況および気象庁による気象警報をもとに，危険であると判断した場合は，次の通り，授業の休講・試験の延期措置をとる。なお，大学から特段の通知等がない場合は，原則として授業の休講・試験の延期措置は行わない。

- ① 授業の休講・試験の延期措置を決定する場合は，原則として，各時限の授業・試験開始 60 分前までに決定し，以下に記載の「緊急時の通知方法」に従って周知・広報する。ただし，できる限り授業・試験開始の 2 時間前までには周知できるよう努力する。
- ② 台風や大雪等，気象状況が時間の経過とともに悪化することが十分予測される場合は，前日に授業の休講・試験の延期措置の決定を行うことがある。その場合は，前日の午後 7 時までに決定の判断を行い，学生への周知は以下に記載の「緊急時の通知方法」に従って前日の午後 9 時までに通知を行う。

(2) 大地震

大地震発生により，授業実施が困難であると判断した場合は，次の通り，授業の休講・試験の延期措置をとる。

- ① 授業の休講・試験の延期措置を決定した場合は，直ちに以下に記載の「緊急時の通知方法」で周知・広報する。
- ② 授業時間中の場合は，校内放送で迅速に周知する。

(3) 大規模停電

電力需要量が供給量を大幅に上回り，予測不能な大規模停電が発生した場合は，次の通り授業を休講とし，復旧の翌日の 1 時限から授業を再開する。

- ① 授業時間中（1～7 時限）に大規模停電が発生した場合は，状況が落ち着くまで教室待機とする。

その後の授業は全て休講とする。

- ② 授業時間外に大規模停電が発生した場合は、当日の授業は全て休講とする。

(4) 首都圏の交通機関がストライキを実施した場合

早稲田・戸山・西早稲田キャンパスは①②③④を適用し、所沢キャンパスは①②③⑤を適用する。

- ① JR 等交通機関のストライキが実施された場合（ゼネスト）は次の通りとする。

- A 午前 0 時まで中止された場合、平常通り授業を行う。
- B 午前 8 時まで中止された場合、授業は 3 時限目（午後 1 時）から行う。
- C 午前 8 時まで中止の決定がない場合は、授業は終日休講とする。

上記は、JR の順法闘争および私鉄のストには適用しない。

- ② 首都圏 JR の部分（拠点）ストライキが実施された場合は通常通り授業を行う。

- ③ 首都圏 JR の全面時限ストライキが実施された場合は次の通りとする。

- A 午前 8 時までストライキが実施された場合、授業は 3 時限目（午後 1 時）から行う。
- B 正午までストライキが実施された場合、6 時限目（午後 6 時 15 分）から授業を行う。
- C 正午を越えてストライキが実施された場合、授業を終日休講とする。

- ④ 私鉄、都市交通のみストライキが実施された場合は、平常通り授業を行う。

- ⑤ 西武鉄道新宿線または西武鉄道池袋線のどちらか一方でもストライキが実施された場合、また、西武鉄道両線が実施されない場合でも西武バスのストライキが実施された場合、次の通りとする。

- A 午前 8 時までストライキが実施された場合、授業は 3 時限目（午後 1 時）から行う。
- B 午前 8 時を越えてストライキが実施された場合、授業を終日休講とする。

24 緊急時の通知方法

緊急時に大学から通知する内容は、以下の方法で確認すること。

- (1) 早稲田大学緊急用お知らせサイト <https://emergency-notice.waseda.jp/>
- (2) MyWaseda 内のお知らせ
- (3) Waseda メール

また、以下からも同一の内容にアクセスできる。

- (1) MyWaseda ログイン前画面 <https://my.waseda.jp/>
- (2) 早稲田大学公式 Web サイト <https://www.waseda.jp/>
- (3) 早稲田大学公式 Twitter https://twitter.com/waseda_univ
- (4) 早稲田大学公式 Facebook <https://www.facebook.com/WasedaU>

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙
キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・
読書室

19. コンピュータ・
ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 夜間入居の取り
扱いについて

23. 授業時間中の学習機
器の扱いについて

24. 緊急時の
通知方法

V

付 録

I	特 徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付 録

1	早稲田大学学則（抜粋）	1. 学則(抜粋)
2	早稲田大学校歌	2. 校歌
3	キャンパスマップ	3. キャンパス マップ
4	時間割作成用紙	4. 時間割 作成用紙

1 早稲田大学学則（抜粋）

第1章 総 則

第1条 本大学は学問の独立を全うし真理の探究と学理の応用に努め、深く専門の学芸を教授し、その普及を図るとともに、個性ゆたかにして教養高く、国家および社会の形成者として有能な人材を育成し、もって文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。

第5条 本大学の修業年限は、4年とする。ただし、在学年数は、8年を超えることができない。

第2章 学年、学期、休業日

第7条 本大学の学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。学年は次の2期に分ける。

春学期 4月1日から9月20日まで

秋学期 9月21日から翌年3月31日まで

（学部暦参照、学部 Web サイト参照）

第8条 定期休業日は次のとおりとする。

- 一 日曜日
- 二 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- 三 本大学創立記念日（10月21日）
- 四 夏季休業 8月上旬から9月20日まで
- 五 冬季休業 12月下旬から翌年1月5日まで
- 六 春季休業 2月中旬から3月31日まで

2 夏季、冬季、春季休業期間の変更または臨時の休業日については、その都度公示する。

第9条 休業日でも、特別の必要があるときは、授業をすることがある。

第3章 教育課程・授業科目・単位数

第10条 各学部は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、各学部は、その専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

第11条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

2 自由科目は、第52条に定める所定の単位数に算入しない。

3 他の学部属する授業科目を選択科目または自由科目として履修することができる。

第12条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して定める。

第13条 講義科目および演習科目については、15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 実験、実習および実技については、30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

3 卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

第15条 各学部の授業科目、単位数および履修方法は、別表のとおりとする（※）。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 学則(抜粋)

2. 校歌

3. キャンパス
マップ

4. 時間割
作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

※本学部要項Ⅲに記載のとおりとする。

第19条 教員の免許状を得ようとする者は、所属学部の科目のほかには教育学部に配置された教職課程の科目を履修しなければならない。

第23条 学生は毎学年または毎学期の始めに当該学年または学期に履修する科目を選定して所属の学部長の承認を得なければならない。

第6章 入学・休学・退学・転学・懲戒

第26条 入学時期は、毎学年または毎学期の始めとする。

第31条 入学、転入学または編入学を許可された者は、大学が指定する入学手続期間内に、大学に別表1に定める入学金、第1年度に係る基礎教育充実費ならびに最初の学期に係る授業料、施設費、教育環境整備費、全学グローバル教育費、実験実習料および学生読書室図書費を納め、所定の書類を提出しなければならない。

第32条 保護者等（学生が学修研究活動を円滑に遂行していく上で、本学と連携し、学生を指導、支援する立場の者をいう。以下同じ。）は、学生が在学中に本学の諸規則、指示および遵守事項を守るよう指導し、監督する責任を負う。

第33条 保護者等として不適当と認めたときは、その変更を命ずることができる。

第34条 保護者等が死亡し、またはその他の事由でその責務を果たし得ない場合には新たに保護者等を選定して届け出なければならない。

第35条 保護者等が住所を変更した場合には、直ちにその旨を届け出なければならない。

第36条 病気その他の理由で引き続き2か月以上出席することができない者は、その理由を付し、保護者等と連署で所属の学部長に願い出て、その許可を得て休学することができる。病気を理由とする休学願には医師の診断書を添えなければならない。

第37条 休学は、当該学年限りとする。ただし、特別の事情のある場合には、引き続き休学を許可することがある。

2 休学の期間は、通算して4年を超えることができない。

第39条 休学者は、学期の始めでなければ復学することができない。

第40条 休学期間は、在学年数に算入しない。

第44条 任意に退学しようとする者は、理由を付し、保護者等と連署で願い出なければならない。

（措置退学）

第45条の2 次の各号の一に該当する者については、退学の措置をとるものとする。

- 一 第5条ただし書き、第41条第2項、第42条第2項または第42条の2第5項に定める在学年数を満了した者
- 二 各学部が定める一の学年から次の学年に進むための要件を満たすべき期間を満了した者
- 三 正当な理由がなく、各学部が定める出席基準を満たさない者
- 四 学業を怠り、各学部が定める必要単位数を一定期間に満たさない者

（懲戒）

第46条 学生が本大学の規則もしくは命令に背きまたは学生の本分に反する行為があったときは、懲戒処分に付することができる。懲戒は、訓告、停学、退学の3種とする。

（懲戒退学）

第47条 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者は、懲戒による退学処分が付する。

1. 学則(抜粋)
2. 校歌
3. キャンパスマップ
4. 時間割作成用紙

- (再入学)
- 第47条の2 第44条または第45条の2第3号および第4号の規定により退学した者が再入学を志望したときは、別に定める期間内に限り、選考の上これを許可することがある。ただし、退学した日の属する学期の翌学期の始めにおいてこれを許可することはできない。
- 2 第47条の規定により退学した者が再入学を志望したときは、これを許可しない。ただし、退学後別に定める期間を経過し、改悛の情が顕著でありかつ成業の見込みがある場合には、選考の上これを許可することがある。
- 3 再入学を許可された者が退学または学費未納により抹籍となった場合、以後の再入学は認めない。ただし、特別の事情がある場合はこの限りではない。
- 4 第1項から前項までの規定により再入学を許可した場合においては、既修の科目の全部または一部を再び履修させることがある。
- (教授会の議)
- 第48条 入学、退学、休学、転部もしくは転学の許可または懲戒は、各教授会の議を経てこれを行う。懲戒による退学とすべき事由がある者については、他の事由による退学を認めないものとする。

第7章 試験・卒業・称号

- 第49条 所定の科目を履修した者に対しては、毎学年末または毎学期末に試験を行い、合格した者に対しては、単位を与える。ただし、教授会において認められた科目については、平常点をもって試験に代えることができる。
- 2 前項の定期試験のほかに、各教授会の決議によって臨時に試験を行うことがある。
- 第50条 試験の方法は、筆記試験、口述試験および論文考査の3種とし、各教授会がこれを決定する。
- 第51条 試験（第49条の規定により平常点をもって試験に代える場合を含む。）の成績は、A⁺、A、B、CおよびFの五級に分かち、A⁺、A、BおよびCを合格とし、Fを不合格とする。ただし、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる科目については、PおよびQの二級に分かち、Pを合格とし、Qを不合格とすることができる。
- 第52条 本大学に4年以上在学して所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者を卒業とし、学士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、所定の単位を優れた成績で修得したと各教授会が認めた場合に限りに、3年以上在学すれば足りるものとする。
- 第53条 この学則に定めるもののほか、学位に付記する専攻分野名その他学位に関し必要な事項は、早稲田大学学位規則（1976年教務達第2号）をもって別に定める。

第8章 入学金・基礎教育充実費・授業料・施設費・教育環境整備費・全学グローバル教育費・実験実習料・学生読書室図書費等

- 第58条 既に納めた授業料等は、事情のいかんにかかわらず、これを返還しない。
- 第59条 学年の途中で退学した者でも、その学期の学費はこれを納めなければならない。
- 第60条 学費の納付を怠った者は、抹籍することがある。

学費未納による抹籍の取扱いに関する規程

(抹籍となる時期および取扱い)

- 第2条 別表1の学期欄に掲げる学期の授業料、施設費、教育環境整備費、全学グローバル教育費、実験実習料、学生読書室図書費、演習料および実験実習料（以下「授業料等」という）ならびに基礎教育充

I	特 徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付 録

1.	学則(抜粋)
2.	校歌
3.	キャンパスマップ
4.	時間割作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

実費を同表の納入期日欄に掲げる日までに納付しない者は、同表の自動的に抹籍となる日欄に掲げる日に自動的に抹籍とし、同表の退学とみなす日欄に掲げる日に遡り、措置退学とみなす。

- 2 前項の規定にかかわらず、授業料等の納入期日にその納付を怠った者が、別表1に定める自動的に抹籍となる日より前に、特別の事情によって抹籍の取扱いを願い出たときは、学術院の教授会（当該教授会が学部運営委員会または研究科運営委員会の審議事項と定めた場合は学部運営委員会または研究科運営委員会。以下「教授会等」という。）の議を経て抹籍とし、別表1に定める日に遡り、措置退学とみなすことができる。

- 3 前項の規定による願い出をする者は、保護者等と連署で願い出なければならない。

（学費の延納）

第2条の2 教授会等は、学生が納入期日までに学費の納入が困難であると認めるときは、その者の申請に基づき、別表1の2の学期欄に掲げる学期に係る授業料等について、同表の納入期日欄に掲げる日までに納付期日を延期することができる。

- 2 前項の申請は、授業料等の納入期日までに行わなければならない。

3 第1項の規定により延長された納入期日までに授業料等を納付しない者は、別表1の2の自動的に抹籍となる日欄に掲げる日に自動的に抹籍とし、同表の退学とみなす日欄に掲げる日に遡り、措置退学とみなす。

（未納学費を納入した者の取扱い）

第3条 第2条第1項および第2項ならびに第2条の2第3項の規定の適用を受けた者が、未納学費を納入したときは、教授会等の議を経て、未納学費の納入期日の属する期までの学籍を認めることができる。ただし、抹籍となる日を超えることはできない。

- 2 前項に規定する教授会等の議は、廃止された学部および研究科（以下「学部等」という。）においては、教務部長の承認をもって、教授会等の議を経たものとみなす。

（卒業または修了の要件を具備している者の抹籍の時期および取扱い）

第5条 卒業または修了の要件を具備しながら学費未納のため、卒業または修了を保留された者は、別表2に定める日に自動的に抹籍とし、別表2に定める日に遡り、措置退学とみなす。

（卒業または修了の要件を具備している者が未納学費を納入したときの取扱い）

第6条 前条の規定の適用を受けた者が未納学費を納入したときは、教授会等の議を経て、その納入した日より前の最も近い卒業期または修了期の卒業または修了とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、在籍していた学部等が廃止している場合であって、第5条の規定の適用を受けた者が未納学費を納入したときは、教務部長の承認を経て、当該学部等の廃止年月日より前の最も近い卒業期または修了期の卒業または修了とする。

別表1

学 期	納入期日	自動的に抹籍となる日	退学とみなす日
春学期	4月15日	9月20日	3月31日
秋学期	10月1日	翌年の3月31日	9月20日

別表2

卒業・修了月日	学費の納入期日	自動的に抹籍となる日	退学とみなす日
3月15日	前年の10月1日	5月15日	前年の9月20日
9月15日	4月15日	11月15日	3月31日

早稻田大学校歌

Moderato

相馬 御風 作詞
東儀 鉄笛 作曲

1 み や こ の せ い ほ 一 く わ せ だ の も り に そ
 2 と う ぎ い こ ー ん ー ぶ ー だ の う し お ひ
 3 あ れ み よ か し こ ー の と き わ の も り は こ

び ゆ る い ら か 一 は わ れ ら が ば こ う わ れ
 と つ に う ず か ー く だ い と ら が ー の う だ い
 こ ー の ふ る き ー と わ れ と が ー こ う あ つ

ら が ひ ご ろ の ほ う ふ を し る や し ん
 な る し め ん の に な い は か た て る わ れ
 ま り き ん じ て ひ と は か わ れ ど あ お

しゅ の せ い いく ん が く の ど り く り つ げ ん
 ら が は お な ー は き が き わ ま の ひ ら ず や い
 ぐ は お な ー は き が き わ ま の ひ ら ず や い

せ を わ す れ ん ぬ く 一 お の り そ う か
 て も く お ん の て そ ー う も と か ど げ は
 こ え そ ろ え て そ ー も と か ど げ は

や く わ れ ら が ゆ く て を み よ や ん
 ね く て ん か に かな が ー き た か え ん
 ら が ー ん こ の な が ー き た か え ん

だ わ せ だ わ せ だ わ せ だ わ せ だ わ せ だ
 わ せ だ わ せ だ わ せ だ

- ### 1. 学則(抜粹)

- ## 2. 校歌

- ### 3. キャンパス マップ

- #### 4. 時間割作成用紙

一．
都の西北 早稲田の森に
聳ゆる薨はわれらが母校
われらが日ごろの抱負を知るや
進取の精神学の独立
現世を忘れぬ 久遠の理想
かがやくわれらが行手を見よや
わせた わせた わせた わせた
わせた わせた わせた

二．
東西古今の文化のうしほ
一つに渦巻く大島国の
大なる使命を担ひて立てる
われらが行手は窮り知らず
やがても久遠の理想の影は
あまねく天下に輝き布かん
わせた わせた わせた わせた
わせた わせた わせた

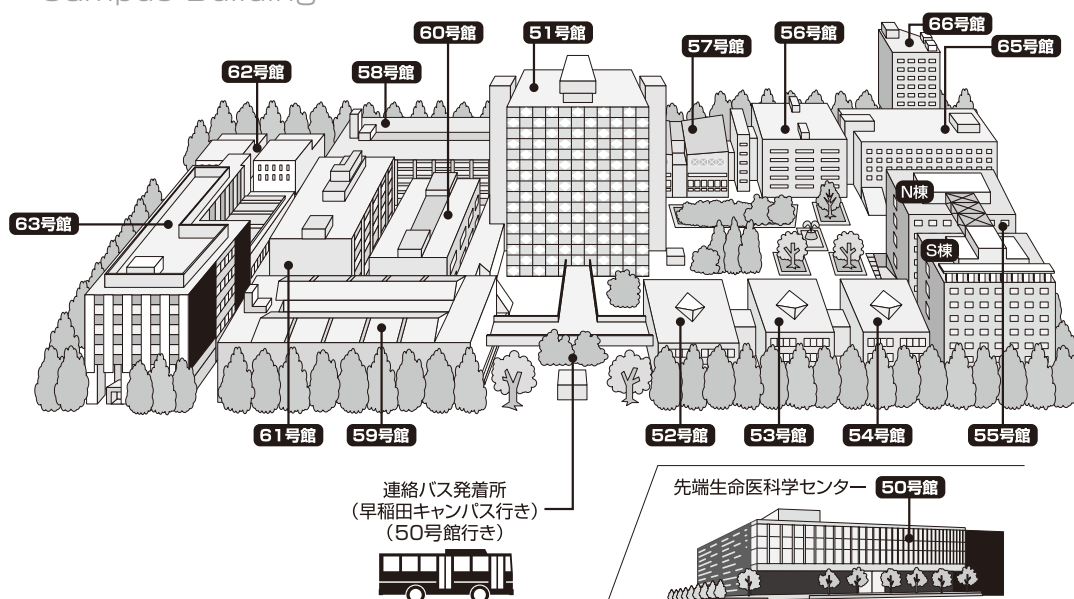
三．
あれ見よかしこの常盤の森は
心のふるさとわれらが母校
集まり散じて人は変れど
仰ぐは同じき理想の光
いざ声そろへて 空もどろに
われらが母校の名をばたへん
わせた わせた わせた わせた
わせた わせた わせた

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

3 キャンパスマップ

西早稲田キャンパス建物配置図

Campus Building



理工メディアセンター ヘルプデスク 63号館3階	デジタルアトリエ Mac30台・Win5台 61号館3階	理工学基礎実験室 (化学系・生命科学系) 56号館	学生ラウンジ 51号館2階
コンピュータールームA~G PC454台 63号館3階	WASEDA ものづくり工房 61号館1階	理工学基礎実験室 (物理系) 56号館2階	理工学術院統合事務所 51号館1階
ロームスクエア (63号館カフェテリア) 63号館1階	就職情報室 61号館1階	理工カフェテリア 56号館地下1階	保健センター 西早稲田分室・ 学生相談室 51号館1階
理工学基礎実験室 (工学系) 63号館地下1階	製図・CAD室 PC220台 57号館1階	理工学生読書室 52号館地下1階	理工学図書館 51号館地下1階
	生協購買部, 書籍部 57号館地下1階		

学科・専攻別連絡事務室一覧

基幹理工	創造理工	先進理工
数学科 数学応用数理専攻 63号館1階01	建築学科 建築学専攻 55号館N棟2階03	物理学科 応用物理学科 物理学及応用物理学専攻 55号館N棟2階03
応用数理学 数学応用数理専攻 63号館1階01	総合機械工学科 総合機械工学専攻 60号館2階08	化学・生命化学科 化学・生命化学専攻 55号館N棟2階03
機械科学・航空宇宙学科 機械科学・航空宇宙専攻 60号館2階08	経営システム工学科 経営システム工学専攻 51号館13階	応用化学科 応用化学専攻 55号館N棟2階03
電子物理システム学科 電子物理システム学専攻 63号館1階01	経営デザイン専攻 51号館9階03B	生命医科学科 生命医学専攻 50号館3階 先端生命医科学センター事務所内 〒162-8480 新宿区若松町2番2号
情報理工学科 情報理工・情報通信専攻 63号館1階01	社会環境工学科 建設工学専攻 51号館2階07	電気・情報生命工学科 電気・情報生命専攻 55号館N棟2階03
情報通信学科 情報理工・情報通信専攻 63号館1階01	環境資源工学科 地球・環境資源理工学専攻 51号館13階	生命理工学専攻 50号館3階 先端生命医科学センター事務所内
表現工学科 表現工学専攻 63号館1階01	社会文化領域 51号館2階07	ナノ理工学専攻 63号館1階01
材料科学専攻 63号館1階01		共同先端生命医科学専攻 50号館3階 先端生命医科学センター事務所内
	英語教育センター 51号館2階07	共同先進健康科学専攻 50号館3階 先端生命医科学センター事務所内
	学科 国際教育センター 51号館2階07	共同原子力専攻 63号館1階01
		先進理工学専攻 51号館1階 理工学術院統合事務所内

I	特 徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付 録

1. 学則(抜粋)

2. 校歌

3. キャンパス
マップ

4. 時間割
作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

4 時間割作成用紙

【1年生】

	月 曜		火 曜		水 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

【2年生】

	月 曜		火 曜		水 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

【3年生】

	月 曜		火 曜		水 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

【4年生】

	月 曜		火 曜		水 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

I	特 徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付 録

1. 学則(抜粋)

2. 校歌

3. キャンパス
マップ

4. 時間割
作成用紙

【1年生】

	木 曜		金 曜		土 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

【2年生】

	木 曜		金 曜		土 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

【3年生】

	木 曜		金 曜		土 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

【4年生】

	木 曜		金 曜		土 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

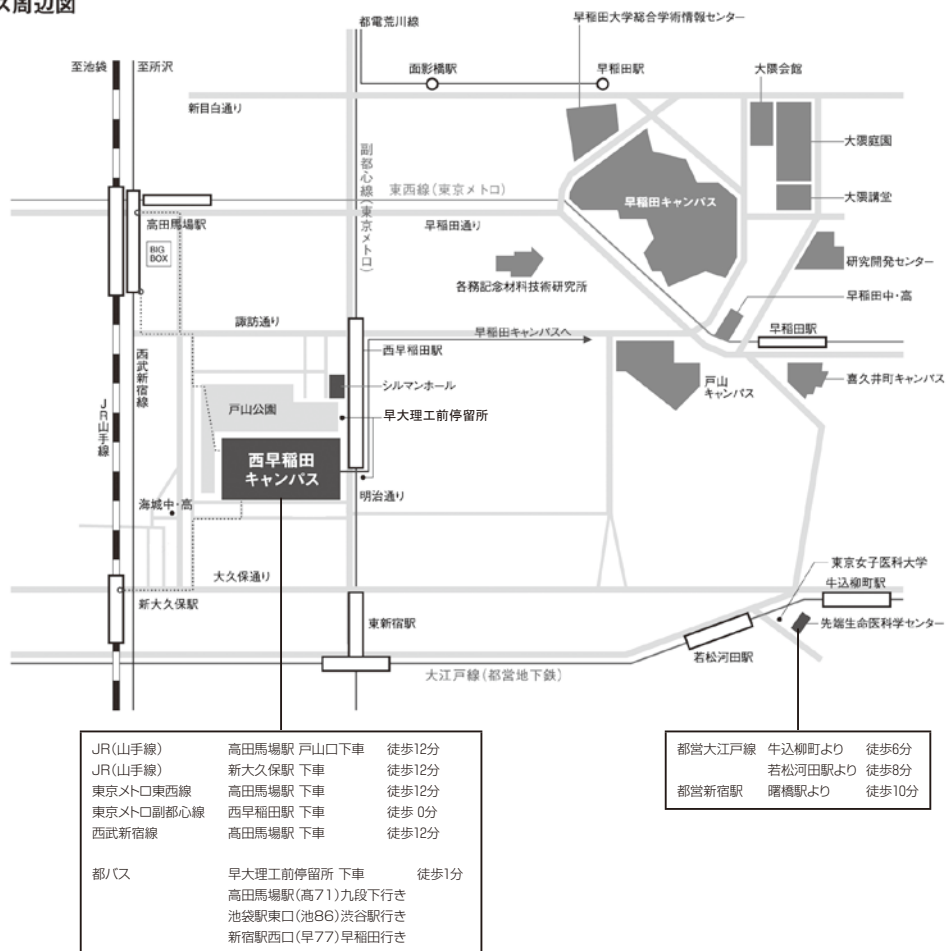
NISHIWASEDA CAMPUS

早稲田大学西早稲田キャンパス

■交通案内図



■キャンパス周辺図





早稲田大学 基幹理工学部

〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1

<https://www.waseda.jp/fsci/>